



平成28年度

年報 第31号

福島県立博物館

年報発刊に 寄せて



博物館は誰のものなのか。そんな問いかけは当たり前過ぎるのでしょうか。しかし、それがつねに博物館という現場で問題提起され、活発に議論がなされているかと言えば、いささか心許ない気がします。県立博物館はとりあえず県民の皆さんのものですが、その内実はけっして自明ではありません。

たとえば、昨年のお秋のことでした。わたしの館長講座のなかで、講堂に赤ちゃんの泣き声が響き渡るということがありました。あわてて講堂の外に出て行こうとされている若いお母さんに、いいですよ、気にしないで、と声を掛けました。それをきっかけにして、子守り唄のコンサートを開催したり、子どもたち向けの読み聞かせの会を定例のイベントにしたり、夏休みには親と子の特別展示メニューを仕立てたりと、試行錯誤が始まりました。

あの若いお母さんは、きっと勇気を持って参加してくださったことでしょう。感謝の思いでいっぱいです。とても大きな問題提起をいただいたと感じています。思えば、博物館という場所で、赤ちゃんの泣き声や子どもたちのはしゃぐ声を聴いたことがあったらどうか。そう自身に問いかけてみると、そもそも気にかけたこともなかったことに気づいたのです。おそらく、わたし自身は少なくとも赤ちゃんの声を耳にしたことはありません。博物館という公共の場であるはずの施設が、実は意識することなく、お母さんと子どもを排除してきたのでなかったか。文化の享受という場面において、母と子はマイナーな存在と化している、そんな現実が生まれているのではないか。

気づきから始まります。県立博物館はやがてリニューアルのときを迎えます。その準備のための議論のなかに、お母さんと赤ちゃんや子どもたちが気兼ねせずに博物館を訪れ、文化を享受することができるようにするためには、何ができるか、というテーマが組み込まれることでしょう。誰だって赤ちゃんだった、子どもだった時代があります。それを忘れてしまうだけです。

福島の子どものたちの未来のために、わたしたちは何ができるのか。博物館はそれをともに考えていく場であってほしい、と願っています。

福島県立博物館開館30周年！

特集展、特別展、ミュージアムイベントなど様々な事業を展開

平成28年10月18日、福島県立博物館は開館30周年を迎えた。この日に先立ち、10月15日に開館30周年記念式典を開催した。

一年間をとおして、福島県立博物館の30年間の活動成果を発信するとともに、リニューアルに向けた試行と実験をコンセプトとして、記念特集展、記念イベント、広報事業を行った。開館以来の30年間の資料収集、調査研究、保存活動の成果として、「収蔵庫からこんにちは—福島県立博物館収蔵名品展—」を分野合同で開催した。広報事業においては、新たな取り組みとして、シンボルマーク原案の公募、けんぱくラヂオを実施した。

文化庁と共催した、「特別展 新たな国民のたから—文化庁購入文化財展」では、国宝、重要文化財を中心に、幅広いジャンルの資料を展示した。

館長講座に、赤ちゃんを連れのお母さんが参加したことがきっかけとなり、急ぎよ、ミュージアムイベント「親子でやすらぐ子守唄コンサート」を開催する運びとなった。

第2期中期目標において、次世代ミュージアム機能として取り組んでいる、震災の共有と継承、新たな文化事業の創出と定着の二つのプロジェクトの成果として、特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」、「ふくしま震災遺産保全プロジェクト 震災遺産を考える」を合同で開催した。



開館30周年記念式典（10月15日）



特別展「新たな国民のたから—文化庁購入文化財展」
解説会（9月3日）



シンボルマーク原案大賞（上平瑠菜さんの作品）



ミュージアムイベント「親子でやすらぐ子守唄コンサート」
（10月28日）

目 次

年報発刊に寄せて

福島県立博物館の使命

I 事業の概要	12
1. 資料収集事業	12
(1) 収集展示委員会	12
(2) 受贈・受託	12
(3) 購入	13
2. 保存管理事業	13
(1) 資料の収蔵	13
(2) 登録・整理	15
(3) 貸出	16
(4) 保存管理	17
3. 展示事業	18
(1) 常設展示	18
(2) 特別展	20
(3) 企画展示	22
(4) 特集展	23
(5) 共催展	29
(6) 指定文化財の公開	30
(7) 展示解説	30
(8) 体験学習室	31
(9) リニューアルの検討	32
4. 調査研究事業	33
(1) 展示資料調査研究	33
(2) その他の調査研究事業	34
(3) 職員の研究活動	34
5. 教育普及事業	39
(1) 講座・講演会	39
(2) 学校・文化施設との連携	48
(3) 生涯学習・研究支援	52
(4) 博物館友の会活動への支援	52
6. 広報公聴活動および出版事業	56
(1) 広報活動	56
(2) 公聴活動	63
(3) 出版事業	63
7. 東日本大震災からの復興支援	64
(1) 文化財・自然資料レスキュー	64
(2) ふくしま応援ミュージアムイベント	67
(3) 県・市町村埋蔵文化財技術協力	69
8. 次世代ミュージアム機能	70
(1) はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト	70
(2) ふくしま震災遺産保全プロジェクト	83
9. 連携事業	88
(1) 磐梯山ジオパーク推進事業	88
(2) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム	89

	(3) 福島藝術計画 × Art Support Tohoku – Tokyo	91
	(4) ふくしま歴史資料保存ネットワーク	92
10.	30周年記念事業	93
II	管理運営	98
	1. 組織・職員	98
	2. 予算	99
	3. 運営協議会の開催	100
	(1) 福島県立博物館運営協議会	100
III	利用状況	101
	1. 入館者統計	101
	(1) 平成28年度入館者統計	101
	(2) 入館者の推移	102
	(3) 企画展入館者統計	104
	2. 出版物販売	107
IV	法規	109
	福島県立博物館条例	109
	福島県立博物館運営協議会条例	110
	福島県立博物館条例施行規則	110
	福島県立博物館組織規則	113
	福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	114
	福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	114
	福島県立博物館友の会規約	114
V	施設の概要	116
	1. 建築概要	116
	2. 設備	116
	3. 平面図・各室一覧	117
	4. 施設の修理・改築	119
	5. 沿革	120
VI	利用案内	122

福島県立博物館の使命

平成19年7月公表 平成25年4月改正 平成26年6月改正 平成28年3月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。そして、平成19年には、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめ、その内容を公表しました。そこには、歴史・自然に関する資料の収集・保存・調査研究・活用という博物館の基本的な使命を核として、それらを実践するための活動指針が明示されていますが、平成23年3月に発生した東日本大震災以降、従来の博物館活動に加え、新たな視点に立った活動が不可欠になったと考えられることから、ここに改めて博物館の「使命」をとりまとめました。ついては、当館の社会に対する責務を明確にするとともに、皆さんに博物館活動について理解を深めていただくため、その内容を公表します。

目 標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にできる楽しい環境を整えます。

現在、特に浜通り地域では、平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故により、これまで地域社会のなかで培われてきた紐帯が崩壊し、未来に継承すべき地域の文化財や伝統文化の保全が困難な情勢となっています。このような危機的状況のなか、福島県立博物館では、地域社会の再生と活性化に向けた取り組みとして、従来から行ってきた博物館活動を継続するとともに、被災地域の関係機関や地域の人々と連携して、震災の資料化と地域内に残された文化財等の調査研究、救出・収集活動および文化的交流活動を行います。そしてそれらの成果をさまざまな形で発信していきます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

1. ふくしま発見 博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特の文化の価値を共に学び、新たな文化を創りだす手助けをします。

2. 出会いふれあい 博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しなく、気軽にに入れて人と人々が楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

3. あなたも主役 博物館

博物館を利用するみなさんも主役です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

4. ふくしまを元気に 博物館

東日本大震災によって危機的な状況に陥っている地域の文化・自然遺産を保存し、調査研究するとともに、それらを活用して、地域社会の再生と活性化に向けた新たな取り組みを行います。

活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

【専門機能】

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その

成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

【交流機能】

4. 楽しめて出会いのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人が出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

5. 博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

6. 博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

7. 地域ネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

8. 新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるよう努めます。

【運営機能】

9. 使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

11. 危機管理

災害の発生に備え、避難・誘導経路や手順を確認するための訓練を毎年実施します。また、博物館資料の保全のため、展示室および収蔵庫の環境を適切に保ちます。

【震災からの復興支援】

12. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努めます。

13. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図ります。

14. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図ります。

【次世代ミュージアム機能】

従来の博物館活動の枠組みを超えた機能の充実を目指して新設した活動の指針です。

15. 「震災遺産」の保全による震災の共有と継承

震災が産みだしたモノや震災を示すバショを「震災遺産」と呼び、これらの保全と資料化を通じて、東日本大震災で福島県に起きた多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくことを目指します。

16. 新たな文化事業の創出と定着

博物館が蓄積してきた情報・手法・ネットワークなどを基盤に、県内各地域における文化事業の創出を支援し、地域への定着を目指します。

福島県立博物館では、使命に沿った「活動の指針」に基づき、それぞれに「重点目標」を掲げ、それを平成21年度から25年度までの5年間で達成するための具体的な活動計画（中期目標）を定め、毎年度ごとに実績の評価を行ってきました。この中期目標は平成25年度に最終年度を迎えたため、これまでの実績を精査し、それに基づいて重点目標の見直しを行いました。そして、それを踏まえ、震災からの復興支援と博物館リニューアルの具体化を重要な課題として、新たに平成26年度から30年度までの5年間で達成するための第2期中期目標を策定しました。年間の利用者数については、従来どおり概ね9万人を目指し努力します。

平成28年度はこの計画に沿って事業を実施し、年度終了時に「評価指標」に基づいて実績を評価し、年報やホームページなどで公表します。評価の低かった項目についてはその原因を分析し、事業内容や実施方法を改善し、次年度には設定した指標を達成できるように努めます。利用者みなさんには引き続き中期目標をご理解いただき、博物館の運営について忌憚のないご意見をいただければと思います。

また平成27年度には、東日本大震災後の館活動をめぐる変化に伴い、新たに始まった震災遺産や文化連携に関するプロジェクトを「活動の指針」の中に位置づけました。さらに、従来の利用者数以外に、職員が館外に出て行ったアウトリーチ事業やプロジェクト等の事業への参加者についても「館外事業利用者数」として把握し、当館の社会的な貢献度をはかる指標の試みとして公表することにしました。

中期目標	第1期		第2期				説明
	平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (目標)	平成30年度 (目標)	
①館内事業利用者数	109,838	63,739	67,490	61,073	90,000	90,000	常設展・企画展・移動展など展示への入場者、講座・講演会など行事への参加者 ※平成26年度まで「利用者数」
累計利用者数	4,325,720	4,389,459	4,456,949	4,518,022			
②館外事業利用者数1	—	—	1,765	2,109			職員の講師派遣・ゲストティーチャーなどアウトリーチ事業への参加者 ※平成27年度から新規
③館外事業利用者数2	—	—	9,881	23,124			当館が構成団体になっている組織（実行委員会・協議会など）が主催し、当館職員が主体的に関わった行事などへの参加者 ※平成27年度から新規
②③合計	—	—	11,646	25,233			※平成27年度から新規
①②③合計	—	—	79,136	86,306			上記①②③を合計したもの ※平成27年度から新規

利用者の内訳 ※（ ）内の数字は実施回数

		27年度	28年度	
①館内事業利用者数	常設展	40,767	43,727	
	企画展	9,897(3)	2,955(1)	企画展「大須賀清光の屏風絵と番付」
	無料入館者	16,826	14,391	行事等参加者および「藤森武写真展 みちのくの仏像」入場者等を含む
	①合計	67,490	61,073	
②館外事業利用者数1	学校派遣（ゲストティーチャー）	490(8)	568(7)	詳細 別表1
	館長出前講座	536(4)	61(1)	詳細 別表2
	講師派遣	739(14)	1,480(28)	詳細 別表3 ふくしま震災遺産保全プロジェクト関係の講師派遣を含む
	②合計	1,765(26)	2,109(36)	
③館外事業利用者数2	ふくしま震災遺産保全プロジェクト	5,639(16)	17,916(37)	詳細 別表4 白河セッション・仙台セッション・明大セッションなど
	はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト	4,069(58)	4,989(43)	詳細 別表5 成果展長岡・足利・新発田・松本・須賀川・つなぎなど
	磐梯山ジオパーク	33(2)	134(4)	詳細 別表6 地質の日ジオツアー・いわき展示講演会・磐梯大学講座
	ふくしまサイエンスぷらっとフォーム	140(1)	85(1)	詳細 別表6 サイエンス屋台村
	③合計	9,881(77)	23,124(85)	
②③合計		11,646(103)	25,233(121)	

別表1 ゲストティーチャー

NO	実施日時	派遣先	受講者数	内容	対象・科目	担当学芸員
1	6月1日(水) 13:10～14:00	福島県立若松商業高等学校 (会津若松市)	200	蒲生氏郷について (修学旅行の事前学習)	2年・総合的な学習の時間	高橋 充(歴史)
2	6月8日(水) 13:10～14:00	福島県立若松商業高等学校 (会津若松市)	200	若松城下の町と商業 (修学旅行の事前学習)	2年・総合的な学習の時間	高橋 充(歴史)
3	7月5日(火) 13:20～14:20	福島県立会津学鳳高等学校 (会津若松市)	9	会津の漆器	1年・総合的な学習の時間 (「会津の調べ学習」)	小林めぐみ(美術)
4	7月20日(水) 16:20～17:50	福島大学 (福島市)	40	博物館資料論	3～4年・博物館資料論	相田 優(自然)
5	10月5日(水) 13:30～14:45	三島町立三島中学校 (三島町)	14	縄文時代の三島	1年・総合的な学習の時間	森 幸彦(考古)
6	10月21日(金) 13:30～14:45	三島町立三島中学校 (三島町)	14	まちの歴史と地域の宝 ～三島町の年中行事～	1年・総合的な学習の時間	内山 大介(民俗)
7	2月7日(火) 9:20～12:10	会津若松市立城北小学校 (会津若松市)	91	昔の道具(2～4校時、 昔の道具の解説と体験 を行う授業)	2年・総合的な学習の時間	内山 大介(民俗) 大里 正樹(民俗) 江川トヨ子(民俗)
		平成28年度 受講者総数	568			
		平成27年度 受講者総数	490			
		受講者総数の増減	78			

別表2 館長出前講座

NO	実施日時	派遣先	受講者数	内容	対象・科目	担当
1	12月16日(金) 13:30～14:30	三島町立三島中学校 (三島町)	61	会津物語、今民話を読み みなおす	全学年・講演	館長(民俗学)
		平成28年度 受講者総数	61			
		平成27年度 受講者総数	536			
		受講者総数の増減	-475			

別表3 講師派遣

NO	実施日時	派遣先	受講者数	対象・形式	区分	内容	担当
1	5月17日(火) 13:30～15:00	会津坂下町教育委員会 (会津坂下町)	30	受講者・講演	一般	会津の三十三観音	高橋 充(歴史)
2	5月22日(日) 9:00～12:00	慶山自主防災会 (会津若松市)	20	参加者・調査	一般	危険箇所調査・地質説明会	香内 修(自然)
3	5月26日(木) 10:00～15:30	福島県史跡整備市町村協 議会(二本松市)	40	参加者・講演	公	文化財を整備するとは	荒木 隆(考古)
4	6月10日(金) 13:30～15:00	会津美里町公民館 (会津美里町)	26	受講者・講演	一般	ふくしまゆかりの戦国 武将	高橋 充(歴史)
5	7月2日(火) 10:00～12:00	喜多方市教育委員会 (喜多方市)	150	参加者・講演	一般	会津三十三観音と喜多 方(「市史セミナー」 講師として)	高橋 充(歴史)
6	7月16日(土) 13:30～15:00	福島県退職公務員連盟安 達支部(二本松市)	30	参加者・講演	一般	吊るし飾りと女性の祈 り	内山 大介(民俗)
7	7月24日(日) 14:15～15:15	喜多方市教育委員会 (喜多方市)	160	参加者・講演	一般	新宮熊野神社の宝物	塚本麻衣子(美術)
8	7月26日(火) 9:30～11:00	二本松公民館 (二本松市)	58	参加者・講演	一般	江戸時代の絵巻に挑戦	阿部 綾子(歴史)
9	8月1日(月) 9:20～15:30	ふくしま森の科学体験セ ンター(須賀川市)	55	参加者・体験	一般	化石発掘体験(「教員 のための博物館の日」 講師)	相田 優(自然) 猪瀬 弘瑛(自然) 香内 修(自然)
10	8月24日(水) 10:00～12:00	会津美里町教育委員会 (会津美里町)	26	受講者・講演	一般	震災と文化財	森 幸彦(考古)
11	8月25日(木) 9:30～11:00	磐梯町教育委員会 (磐梯町)	32	受講者・講演	一般	会津の歴史に関するこ と(高齢者教育事業 「磐梯大学」講師)	荒木 隆(考古)
12	9月24日(土) 14:30～17:40	棚倉町教育委員会 (棚倉町)	200	参加者・講演	一般	奥州棚倉藩評定	高橋 充(歴史)
13	10月6日(木) 9:30～11:00	磐梯町教育委員会 (磐梯町)	25	受講者・講演	一般	会津の歴史に関するこ と(高齢者教育事業 「磐梯大学」講師)	荒木 隆(考古)

別表3 講師派遣

NO	実施日時	派遣先	受講者数	対象・形式	区分	内容	担当
14	10月26日(水) 10:00~12:00	会津美里町教育委員会 (会津美里町)	26	受講者・講演	一般	震災と文化財	高橋 充(歴史)
15	10月29日(土) 13:00~16:45	福島県文化財センター白 河館(白河市)	75	参加者・講演	一般	奥羽仕置の実像	高橋 充(歴史)
16	10月30日(日) 10:00~16:00	福島県文化財センター白 河館(白河市)	80	参加者・討論	一般	城跡を掘るⅠ 城跡研 究のいま	高橋 充(歴史)
17	11月2日(水) 11:00~12:00 14:30~15:30	中島村教育委員会 (中島村)	50	参加者・解説	一般	中島村「四穂田古墳出 土品」特別展示	高橋 満(考古)
18	11月3日(木) 14:30~15:30	中島村教育委員会 (中島村)	50	参加者・解説	一般	中島村「四穂田古墳出 土品」特別展示	高橋 満(考古)
19	11月22日(火) 13:30~15:00	棚倉町教育委員会 (棚倉町)	36	受講者・講演	一般	戦国初期の棚倉	高橋 充(歴史)
20	12月20日(火) 13:00~15:00	会津坂下町教育委員会 (会津坂下町)	25	受講者・講演	一般	会津の三十三観音(歴 史とふれあいの里づく り事業文化財講座「坂 下学講座」)	高橋 充(歴史)
21 { 28		ふくしま震災遺産保全プ ロジェクトの講師派遣 →別表4	286				
		平成28年度 受講者総数	1,480				
		平成27年度 受講者総数	739				
		受講者総数の増減	741				

別表4 平成28年度 ふくしま震災遺産保全プロジェクト 普及事業 実績

事業	種別	プログラム	実施日	会場	当館担当職員	参加者	
野外講座	ワークショップ	断層標本補修	6月3日	いわき市立田人中	竹谷	21	
	体験型保全	断層標本仕上	6月4日	学校	竹谷	5	
	現地説明会	津波堆積物現地説明会	10月30日	南相馬市小高区	竹谷・杉崎・香内	11	
					小計	37	
教育普及	アウトリーチ 白河セッション	展覧会	5月28日~7月3日	県文化財センター 白河館「まほろ ん」	大里・高橋満	3,447	
		解説会	5月28日		高橋満・大里	25	
			6月18日		大里	7	
			6月26日		大里	8	
			7月3日		大里	9	
	講演会	6月5日	高橋満	16			
	アウトリーチ いわきセッション	活断層講演会等	6月12日	田人ふれあい館	竹谷	40	
	アウトリーチ 南相馬セッション	津波が変えた自然環境 ミズアオイ	8月21日	南相馬市博物館→ 小高区	阿部・森	10	
		津波が変えた自然環境 フジツボ	8月22日		阿部・森	6	
	アウトリーチ 仙台セッション	展覧会	12月20日~25日	せんだいメディア テーク	内山・竹谷	8,081	
		解説会	12月20日~25日		内山・竹谷・大里	53	
		トーク	12月24日		内山・館長	142	
		MR(ミクスト・リアリ ティ、複合現実)	12月20日~25日		内山・竹谷	125	
	アウトリーチ 明大セッション	展覧会	1月8日~1月31日	明治大学博物館	高橋満・阿部	4,260	
解説会		1月8日他14回	高橋満・阿部・大 里・栗原		171		
MR		1月21日他4日	高橋満・阿部・大 里・栗原		195		
シンポジウム		1月22日	高橋満・阿部・内 山		50		
					小計	16,645	
教育普及	アウトリーチ 会津セッション	展覧会	2月26日~3月31日	福島県博	森・栗原	2,596	
		解説会	2月26日		栗原	7	
			3月26日		栗原	8	
			MR		3月10日~12日	森・栗原	76
			トーク		3月23日	館長	64

別表4 平成28年度 ふくしま震災遺産保全プロジェクト 普及事業 実績

事業	種別	プログラム	実施日	会場	当館担当職員	参加者
教育普及	アウトリーチ 会津セッション	柏崎市被災者サポートセンターあまやどりパネル 展示解説会	3月23日	福島県博	森・栗原	35
アウトリーチ 会津セッションは、①館内事業利用者数として集計（特集展）						小計 2,786
教育普及	学校連携事業 研修会	講演会（県北地歴公社研 究会）	6月7日	県立福島明成高校	高橋満・田中伸一	18
		両沼中学校教育研究会第 一次研究協議会	7月27日	福島県博	高橋満・田中伸一	11
		福島県高校地理歴史公民 （社会科）研究会大会	8月9日	福島県博	高橋満・田中伸一	32
		「生き抜く力を育む」防 災教育推進事業	9月7日	郡山市労働福祉会 館	高橋満・田中伸一	190
		「生き抜く力を育む」防 災教育推進事業	9月8日	御蔵入交流館	高橋満・田中伸一	25
小計						276
教育普及	学校連携事業 出前講座	公開授業	6月7日	県立福島明成高校	高橋満・田中伸一	50
		平成28年度 会津美里町 歴史講座「震災と文化財」 第2回	9月28日	福島県博	高橋満	26
		双葉町生活学級	10月5日	福島県博	高橋満	19
		講演	10月7日	福島成蹊高	高橋満	310
		出前授業	10月17日	県立福島北高校	高橋満・田中伸 一・大里	19
		北斗祭（文化祭）	10月30日	県立福島北高校	田中伸一・大里	45
		会津高校グローバルリー ダー	11月10日	福島県博	森・高橋満・田中 伸一・大里	34
		双葉町生活学級	11月11日	福島県博	高橋満	20
		震災遺産フィールドワー ク	12月3日	飯館村～いわき市	森・高橋満・田中 伸一	38
		さいたま市立内谷中学校 防災教室	2月1日	さいたま市立館岩 少年自然の家	高橋満・田中伸一	317
小計						878
教育普及	教育普及 出前講座	館長講座「会津から見た 被災地」	1月19日	福島県博	田中伸一	63
館長講座は①館内事業利用者数として集計						
情報発信	海外発信 世界考古学会議	「福島からの声」	8月29日	同志社大学	高橋満	50
			8月30日	同志社大学	高橋満	30
小計						80
合計						17,916
以下は②館外事業利用者数1職員の講師派遣として集計（別表3の21～28）						
事業	プログラム	実施日	会場	当館担当職員	参加者	
講師派遣	双葉三町震災アーカイブ勉強会	7月27日	福島県博	高橋満	9	
	日本博物館協会被災地支援ワー クショップ	8月2日	岩手県	杉崎	40	
	九州国立博物館「みんなも」	9月3日	福島県博	内山・杉崎・高橋満	12	
	ふくしま大交流フェア	12月23日	東京国際フォーラム	高橋満・杉崎	集計なし	
	東日本大震災アーカイブ国際シン ポジウム	1月20日	東北大学	高橋満	162	
	栃木県埋蔵文化財担当者研修会	1月27日	栃木県庁	高橋満	47	
	富岡町アーカイブ検討町民会議展 示解説	2月16日	福島県博	福島県博	8	
	双葉町社会教育委員 事業案内・ 展示解説	2月23日	福島県博	福島県博	8	
小計						286

別表5 はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト 2016来場者数一覧

No	開催月日	プロジェクトNo プロジェクト名	イベント形態	イベント名	来場数 *概数を含む
1	5月23日～5月29日 (7日間)	11 福島交流・発信プログラム	展示	成果展長岡「FUKUSHIMA SPEAKS」	685
2	5月26日	11 福島交流・発信プログラム	展示	成果展長岡ギャラリートーク (ゲスト：岡部昌生)	73
3	7月2日	6 いわき学校プロジェクト	ワークショップ	好間土曜学校第1回	26
4	7月9日	6 いわき学校プロジェクト	ワークショップ	好間土曜学校第2回	20
5	7月8日	5 福島祝いの膳	トークイベント	いわきたべものがたり	39
6	7月9日	5 福島祝いの膳	トークイベント	潮目の血	25
7	7月16日	6 いわき学校プロジェクト	ワークショップ	好間土曜学校第3回	16
8	8月19日	4 伝える考える福島の今	トークイベント	猪苗代フォーラム「触れては いけないものに触れる」	18
9	8月20日	4 伝える考える福島の今	トークイベント	猪苗代フォーラム「福島から 社会が変わる」	26
10	9月6日～9月14日 (9日間)	11 福島交流・発信プログラム	展示	成果展足利「アートで伝える 考える福島の今」	367
11	9月9日	10 黒塚発信プロジェクト	公演	公演「闇の光」(1回目)	120
12	9月10日	10 黒塚発信プロジェクト	公演	公演「闇の光」(2回目)	140
13	9月10日	11 福島交流・発信プログラム	展示	成果展足利トークイベント 「足尾の記憶」	27
14	9月11日	11 福島交流・発信プログラム	ギャラリートーク	成果展足利ギャラリートーク	12
15	9月14日	6 いわき学校プロジェクト	ワークショップ	豊間ことばの学校第1回	25
16	9月21日	6 いわき学校プロジェクト	ワークショップ	豊間ことばの学校第2回	25
17	9月28日	6 いわき学校プロジェクト	ワークショップ	豊間ことばの学校第3回	25
18	10月19日～11月4日 (17日間)	9 写真美術館プロジェクト	展示	成果展新発田「写真美術館+ 新発田」	664
19	10月18日	9 写真美術館プロジェクト	トークイベント	成果展新発田トークイベント (片桐・本郷)	25
20	10月26日	9 写真美術館プロジェクト	トークイベント	成果展新発田トークイベント (飯沢・村越)	25
21	11月2日	9 写真美術館プロジェクト	トークイベント	成果展新発田トークイベント (港・原)	25
22	11月3日	9 写真美術館プロジェクト	ギャラリートーク	成果展新発田ギャラリートーク (午前)	25
23	11月3日	9 写真美術館プロジェクト	ギャラリートーク	成果展新発田ギャラリートーク (午後)	5
24	11月19日	4 伝える考える福島の今	トークイベント	風景から読むFUKUSHIMA トークイベント	37
25	11月20日	4 伝える考える福島の今	バスツアー	風景から読むFUKUSHIMA 現地視察ツアー	25
26	12月6日	11 福島交流・発信プログラム	トークイベント	成果展松本クロストーク (岡部・港)	30
27	12月7日～12月16日 (10日間)	11 福島交流・発信プログラム	展示	成果展松本蔵シック館来場者数	373
28	12月7日～12月23日 (17日間)	11 福島交流・発信プログラム	展示	成果展松本awai art center 来場者数	212
29	12月7日～12月23日 (17日間)	11 福島交流・発信プログラム	展示	成果展松本池上邸来場者数	72
30	12月7日～12月23日 (17日間)	11 福島交流・発信プログラム	展示	成果展松本信州大学図書館来場者数	510
31	12月7日	11 福島交流・発信プログラム	ギャラリートーク	成果展松本ギャラリートーク	14
32	12月23日	11 福島交流・発信プログラム	トークイベント	成果展松本トークイベント (本郷・玉井・茂原・分藤)	35
33	1月12日～1月29日 (18日間)	9 写真美術館プロジェクト	展示	成果展須賀川 大地に眠る記憶	462
34	1月21日～2月19日 (26日間)	11 福島交流・発信プログラム	展示	成果展inTSUNAGI つなぎ美術館来場者数	335
35	1月21日	11 福島交流・発信プログラム	トークイベント	成果展つなぎトークイベント (吉本・緒方)	25

別表5 はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト 2016来場者数一覧

No	開催月日	プロジェクトNo プロジェクト名	イベント形態	イベント名	来場数 *概数を含む
36	1月28日～2月5日 (9日間)	11 福島交流・発信プログラム	展示	野馬追ダイアログVol.2会期中 来場者数	206
37	1月28日	11 福島交流・発信プログラム	トークイベント	野馬追ダイアログVol.2ギャラ リートーク (高杉)	20
38	1月29日	9 写真美術館プロジェクト	トークイベント	須賀川 大地に眠る記憶トー クイベント (村越・管野)	43
39	2月5日	11 福島交流・発信プログラム	トークイベント	野馬追ダイアログVol.2トー クイベント (高杉・高橋・二上)	46
40	2月12日	11 福島交流・発信プログラム	トークイベント	成果展つなぎトークイベント (玉井・田口)	50
41	2月17日	4 伝える考える福島の今	バスツアー	現地視察ツアー福島・文化・ 文化財 1日目	10
42	2月18日	4 伝える考える福島の今	バスツアー	現地視察ツアー福島・文化・ 文化財 2日目	23
43	2月19日	4 伝える考える福島の今	バスツアー	現地視察ツアー福島・文化・ 文化財 3日目	23
合計					4,989

別表6 磐梯山ジオパーク・ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

③館外事業利用者数2	行事	実施日	会場	当館担当職員	参加者
磐梯山ジオパーク事業	地質の日 ジオツアー	5月9日	JR磐越西線 関戸～ 磐梯町駅	竹谷陽二郎	14
	ジオパーク展示記念講演会 「磐梯山ジオパークの魅力大紹介!!」	5月28日	いわき総合図書館	竹谷陽二郎	40
	磐梯大学講座 (座学)	6月9日	磐梯町中央公民館	竹谷陽二郎	60
	磐梯大学講座 (フィールド)	6月29日	磐梯町ジオサイト	竹谷陽二郎	20
合計					134
ふくしまサイエンスぷ らっとフォーム	spffサイエンス屋台村	11月26日	福島県環境創造センタ ーコミュニティンふくしま	猪瀬・相田・ 香内・竹谷	85

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	28年度評価指標	28年度実績	達成度
専門機能	1. 地域の文化遺産の収集と継承	①博物館資料の系統的収集とデータベース化の推進	収集方針に沿って系統的に資料を収集し、受け入れた資料の整理・登録を行う。	5年間で収蔵資料5,000件の整理登録達成	各分野の整理計画に基づき実施。5分野合計で1,000件の整理・登録。	考古216件、民俗217件、歴史283件、美術4件、自然203件、合計923件の資料登録を実施した。	○
		②二次資料の整理とデータベース化の促進	司書を継続雇用し、学芸員の研究に資するため、新規収蔵図書等の整理・登録を進める。また、5年後までに既存図書の未修正データの修正を完成する。さらに、増加する図書の収蔵スペースを確保するための計画を立てる。	5年後までに既存図書の未修正データ4,394件の修正完了。	既存図書のデータ900件の修正を行う。	既存図書のデータ942件の修正を行った。また司馬遼太郎記念館寄贈図書等新規受入図書の登録を2904冊実施。	◎
		③博物館資料に関する情報の公開	平成25年度において資料管理システムの更新が完了したので、収蔵資料情報の確認と修正が済んだデータから順次インターネットで公開する。	5年間で25,000件のデータをインターネットで公開する。	5分野合計で5,000件のデータをインターネットで追加公開する。	考古1001件、民俗1016件、歴史1460件、自然2539件、合計6016件の資料データを追加公開した。	◎
		④資料の安全な保存	収蔵資料数の増加に伴い収蔵スペースの確保が課題となってきたため、収蔵庫内の再整理を行うとともに、関係機関と協議して、新たな収蔵場所確保に努める。	資料の新たな収蔵場所を確保する。	収蔵庫内の整理を計画的に進め、特に震災遺産の収納場所を検討する。第2収蔵庫の棚増設について検討を進めるとともに、予算要求の準備を行う。	収蔵庫内の整理を各分野ごとに実施。第1収蔵庫の民俗資料は、本年度約200件を整理した。第5収蔵庫の全面的な整理・清掃を実施し、震災遺産のうち温湿度変化の影響を受けにくい資料の一部を収蔵した。第2収蔵庫は、震災遺産の収蔵エリアの構築を検討した。	◎
		⑤新たな視点に立ったIPM（総合的有害生物管理）の導入	資料の生物被害を防止するために使用する化学物質の排出量を最小限に抑える方策を具体化する。	IPM活動の観点から、収蔵庫の定期清掃など、環境整備を行う体制を確立する。	昨年度改善した清掃計画に基づき、第1、2、3、4、6収蔵庫の清掃を実施する。第5収蔵庫の清掃を実施する。一時収蔵庫の清掃を試案する。	第1、2、3、4、6収蔵庫の清掃計画は有効的に機能しなかったが、第1、2、4収蔵庫の清掃を実施した。第5収蔵庫の清掃を実施した。	○
	2. 最新の研究による資料価値の発見	①連携した研究活動の推進	研究活動の充実を図るため、大学や文化施設、民間の研究団体等との共同研究を進める。また、それらの研究成果をさまざまな場で公開する。	共同研究の継続実施と研究成果の公開	引き続き、さまざまな機関との共同研究を実施し、その成果を館内外で公開する。	国立歴史民俗博物館・明治大学などの共同研究に当館学芸員が加わった。また博学連携事業として会津大学と展示関連ソフト開発を行った。	○
		②多様な外部資金の確保	調査研究事業などの博物館事業を円滑に推進するため、引き続き財源確保に努める一方、外部助成資金の導入など新たな財源の確保を図る。	調査研究事業などの博物館活動を円滑に推進するために、新たな資金確保のシステムを構築する。	それぞれの研究分野に応じた研究助成について情報を収集し、2件以上の研究助成等を獲得する。	科学研究費補助金（奨励研究）1件を受けた。	△
	3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	①リニューアルの推進	次世代博物館のあるべき姿を検討するため、新設館や先進的な取り組みをしている他館の状況を現地調査する。そして、その結果などを踏まえ、後半期にはリニューアルに関わる検討委員会を設置し、基本構想および基本計画の策定に着手する。	博物館リニューアル基本計画の策定	基本構想の策定に向けて、検討委員会設置の準備をはじめ。館長講座をリニューアルに関する内容として、広く意見を募る場のひとつにする。	現状の課題・問題点を整理し、基本構想策定の前段階となる方針について検討した。委員会設置の準備はできなかった。毎月の館長講座を通じて、リニューアルに向けての意見を聴取することができた。	△
		②誰にでもわかりやすい常設展の展開	学校で学ぶ子供たちがより利用しやすいように、展示室内の表示の工夫や解説の改善を展示室ごとに順次実施してゆく。さらに、外国語による解説の充実に向けて検討を進める。	すべての展示室において、学校団体向けの表示や解説の改善を完了させる。	試行として行った展示の表示の工夫などを本格的に実施する。展示室の外国語表記・解説の充実、館外の協力を得られる可能性を検討し、情報を収集する。	展示室の各所に「おすすめ」展示の表示を設けた。学校団体向けのプログラムを再構成し、新たなプログラムの実施準備を行った。外国語表記については、対訳語の種類等について情報を集め、翻訳などの協力を得られる機関を確認した。	○
		③魅力あふれる企画展・特集展の開催	福島の復興や再生に寄与するテーマ・内容を優先し、時間をかけて準備するオリジナル企画と、タイムリーな企画などをバランスよく組み合わせ、企画展・特集展を計画的に実施する。	バラエティーに富んだ企画展・特集展を計画的に実施する。	オリジナル企画による企画展や特集展を最低1回実施。	オリジナル企画の企画展1回および特集展4回を実施した。	◎
		④来館者とのコミュニケーションを大切に展示解説の推進	来館者と職員が直接に触れ合い、コミュニケーションを図ることを重視した展示解説を今後も心がける。	きめ細かな展示解説のシステムを維持するため、展示解説員の人員を確保する。	「やさしい展示解説」をリニューアルし、来館者と対話型の「けんばくハイライトツアー」として土・日・祝日に実施する。	対話型解説システム「けんばくハイライトツアー」を新規に導入し110回実施した。のべ参加者は348人。	◎
		⑤継続性のある講座の開催	講座の体系化とストーリー性をもたせたシリーズ化を引き続き進め、利用者の継続参加を促進する。また、企画展に合わせたタイムリーな連続講座の開催も試みる。	生涯学習に効果的な魅力ある講座・講演会を継続開催する。	引き続き、魅力的な講座・講演会を企画する。30周年でもあり、回数、参加者数は前年度を超える数を目指す。	講座等の開催回数は前年を5回上回る120回、参加者は908人増加で8218人であった。館外活動として、館長出前講座を含むゲストティーチャー8回、講師派遣28回、2109名に対して実施した。企画展・特集展関連事業は昨年とほぼ同じく26回実施した。30周年イベントは17回行い、2250人が参加した。	◎

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	28年度評価指標	28年度実績	達成度
交流機能	4. 楽しめて出合いのある空間の創出	①利用者の快適性と利便性の促進	ミュージアムショップを友の会を活用して設置することは困難な状況のため、その運営のあり方をリニューアルに向けた計画案を策定するなかで検討する。	ミュージアムショップの設置を目指す。	ミュージアムグッズの開発と販売の試行を行う。	グッズの開発・販売はできなかった。近隣の博物館・美術館のミュージアムショップの運営形態に関する調査を行った。	×
		②体験型学習機会の促進	新たな体験学習メニューを開発し、学校団体の選択肢を増やすとともに、内容を充実させる。学校との連携強化を図るため、ワークショップなどの体験型学習を効果的に取り入れたイベントを企画する。	学校との連携を強化し、利活用を容易にする。	引き続き、新たな体験学習メニューの開発をめざす。回数、参加者数は前年度を超える数を目指す。	昔の道具体験が大幅に要望が増え、多人数学校対応として3クラスを同時に動かすプログラムを新たに作成し実行した。体験学習メニューの実施回数は32回976名であった(前年度は27回、670名)。	◎
	5. 博物館事業への住民参加	①各種団体との連携促進	NPOなど地域の文化団体や各種学会などからの展示会や講演会の開催依頼には、博物館活動の趣旨に沿うことを条件に積極的に対応する。また、共同企画を立ち上げるなど、事業の連携を進める。	共催事業などの受け入れを行う。	外部団体からの要請に対して、引き続き積極的に対応する。30周年でもあり、友の会の事業を積極的に受け入れる。	共催事業は、ギャラリー展1回、映画会1回、復興応援パートナー事業2回、博学連携事業5回、友の会との共催事業8回を含む計17回行い、後援事業は7回行った。展示観覧者以外の延べ参加者は1872人であった。	◎
		②ボランティアの受入	資料整理を中心としたボランティアの受け入れを推進するとともに、今後のボランティアのあり方について検討する。	自然資料整理ボランティア(通年)、古文書整理ボランティア(月1回)を中心としたボランティアの受け入れと活動支援	自然資料整理(通年)・古文書整理(月1回程度)・民俗資料整理(月2回程度)を中心としたボランティアの受け入れと活動支援。	ボランティアは、自然分野では資料整理(1人×3日)、特集展展示作業補助(2人×1日)を受け入れ、作業への協力を得た。古文書整理は毎月1回、民俗資料整理は毎月2回、定期的に作業を行った。	◎
	6. 博物館情報の発信と公開	①効果的な広報の展開	外部の各種メディアおよび学校や社会教育施設への情報提供を継続する。また、ホームページによる広報も継続するとともに、新しい広報媒体も活用する。	ホームページによる広報の強化を図るとともに、新しい広報媒体を活用する。	フェイスブックの運用を開始し、テレビCMスポットや地域FMへの定期的な出演など新たな媒体を活用した広報を展開する。	フェイスブックを週1回程度更新した。テレビCM2回実施。月2回のFMラジオに出演した。	◎
	7. 地域ネットワークの拠点	①市町村の関係機関との連携促進	調査研究・展示・学習支援・広報活動などの場をとおして、県内の社会教育・生涯学習施設などとの連携をさらに促進させて事業を展開する。	県内市町村関係機関との連携事業を計画的に実施する。	引き続き、県内の学校教育・社会教育・生涯学習担当者を対象とした研修会などの連携事業を実施する。移動展実施に努める。	博物館利用指導者研修会を企画したが、応募者が少なく実現しなかった。当館が事務局となっている福島県博物館連絡協議会において「博物館での学びを考える」というテーマで研修会を企画・実施した。移動展は行わなかった。	△
運営機能	9. 使命の明示と事業の点検	①使命・目標の策定	使命に基づき、平成30年度を目標年度とした中期目標を作成する。目標はその達成度などから評価・点検を毎年行い、それをもとに事業計画の修正を行うとともに、評価・点検の結果を年報やホームページで公表する。	第2期中期目標に基づいた評価・点検の実施と5年間の総括	平成27年度の達成状況を年報・ホームページで公表する。	平成27年度の達成状況を年報・ホームページで公表した。	◎
		②利用者ニーズの把握と対応	運営・設備・展示・講座・イベント・広報効果等に関する各種アンケートや統計調査を実施し、結果を分析することで、博物館活動における課題や利用者のニーズを把握する。その結果は広報活動や各種事業の企画立案に反映させる。	各種アンケートの結果を分析して、博物館活動の課題および利用者ニーズを的確に把握する。そして、それらに対する具体的な対応状況をホームページで公表する。利用者満足度80%以上達成の維持。	アンケートや日報に書かれた利用者の声に対しては、可能な範囲ですみやかに対応・検討する。集計や分析は、各事業の担当以外に、リニューアル検討チームでも実施し、公表の方法なども検討する。	アンケートや日報に書かれた意見には、可能な範囲で対応した。アンケートの集計・分析の結果は、館内会議で随時報告した。また過去7年間の常設展アンケートの意見を、リニューアルのための課題・問題点として整理した。	○
	10. 人材の育成と機能的な組織	①学芸員の専門性の重視	各種学会や研修会に積極的に参加し、新しい博物館活動を進めていく上で学芸員に求められる多様な能力の向上に努める。	各種学会や研修会に参加し、その成果を学芸員全体で共有するとともに、博物館業務へも効果的に反映させる。	各種学会や研修会への参加(5回以上)と報告会など館員への情報提供を行う。	学会は6回、研修会は3回参加。報告会は行わなかったが、資料の閲覧・配布は適宜行い、情報共有に努めた。	◎
安全管理機能	11. 危機管理	①来館者の安全確保	火災や地震に備えて避難手順や救命措置を確認するため、各種訓練を実施する。	防災訓練およびAED研修の年1回実施	より現実的な訓練内容に更に改善しながら、関係機関との連絡体制も具体的にいうなど、実際の災害を想定した訓練になるようにする。	自衛震災避難訓練として、12月21日に実施した。地震対応訓練：自衛消防隊各班が役割に沿った行動を行った。避難訓練：地震によって発生した火災の避難誘導等訓練。参加人数40名。	◎
		②施設の安全管理	建築物および設備の劣化状況を、建築基準法第12条に基づき定期的に点検する。	保守管理の徹底による施設の安全性確保に努める。	再度館内の施設や設備を点検しながら、より精度の高い長期保全計画を作成する。	経年劣化、法的な規制年限、部品等の供給有無、現時点での不具合度等を調査し、昨年度作成した長期保全計画の見直しを行った。平成29年度予算に関しても、計画に基づいて要求した。	◎

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	28年度評価指標	28年度実績	達成度
震災からの復興支援	12. ふくしまの宝の発掘と保全	①被災文化財等の救出と保全	県や市町村の関係機関、文化施設、大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、当該地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・研究し、その価値を明らかにすることに努める。	博物館活動の一環として、被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料の保全を図るとともに、それらに関する調査研究の成果を報告書としてまとめる。	関係機関と連携して、被災地からの文化財レスキュー活動を継続するとともに、今後の災害に備えたくみづくりなどを検討する。	「福島県被災文化財等救援本部」に参画し、被災文化財等の収集や整理等を継続して行った。対応のべ日数18日、人数31人。今後の災害に備えたくみづくりについては未検討に終わった。	△
	13. ふくしまの宝の公開と活用	①救出文化財等に関する情報公開	救出および新たに収集した文化財等やそれらに関する研究成果を、さまざまな形で発信する。関係機関からの協力を得ながら、被災地域から救出された資料を中心に、常設展などで公開する。	被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料を常設展示資料の重要な核と位置づけ、新たな展示手法を駆使して公開する。	被災地域から救出・収集された文化財・自然資料等を展示公開する機会をできるだけ多く設ける。併せて文化財レスキューの活動も紹介する。	被災地域から救出・収集された資料の一部を、特集展「南極の自然と南極観測」「収蔵庫からこんには、テーマ展「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」「けんぱくの宝」において展示公開した。レスキュー活動を紹介したパネル展示も行った。	◎
	14. ふくしまの再生と活性化	①文化資源を活用した各種事業の開催および支援	県や市町村の関係機関、各種文化団体等と連携し、地域の復興と再生、活性化に向けたさまざまな文化事業を実施するとともに、各種団体が企画する文化事業への支援も行う。特に被災地域の歴史・文化活動への支援を充実させる。	館内外において、地域の復興と再生、活性化に向けた各種支援事業を実施する。	各種団体からの要請に対してはハードルを低くして対応する。引き続き避難者を誘客する講座等を開催する。	福島県内の桜をテーマにした映画「福島桜行」を上映した。3.11には、会津地方振興局との共催で「復興のつどい2017」を実施した。震災遺産展に合わせ、せんだいメディアテークおよび柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」と連携してエントランスホールにてパネル展を行った。	◎
次世代ミュージアム機能	15. 「震災遺産」の保全による震災の共有と継承	①震災遺産の保全と活用のための基盤整備	東日本大震災で生じた震災遺産を歴史資料及び博物館資料と位置付けるため、総合博物館の特色を活かした横断的な組織「震災遺産」分野を構築し、調査・保全および普及事業を実施する。	核となる職員を配置した「震災遺産」分野を確立し組織的な事業展開を実施する。	ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会に参画し、調査収集・普及事業等を行う。新たに「風評被害」「保存処理」「聞き取り」「海外発信」に重点を置く。また博物館活動における「震災遺産」分野の位置づけを検討する。	震災遺産の調査収集事業を25回、普及事業を26回実施した。とくに学校関連の研修や出前授業の回数が増加した。風評被害の対応に係る震災遺産の収集、脆弱遺物の強化や脱塩処理および海外発信事業を予定通り実施した。館内会議で博物館における震災遺産分野組織の検討を実施した。	◎
	16. 新たな文化事業の創出と定着	①県内各地域における文化事業の創出支援、運営の協働	博物館が蓄積してきた情報、手法、ネットワークを基盤に、「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」等を効果的に活用し、県内各地域で新たな文化事業を創出・定着させる。	創出した事業を地域に定着させ、実施団体や事務局によって安定的に運営されるようにする。	各事業の定着・継続と自立を支援し、博物館が対等の立場で協働できる体制を構築する。	南相馬市博物館・須賀川市・いわき市・浪江小学校・浪江町等で連携・展開してきた事業は一部が各連携先の自主的事业に活用・展開された。	○

●平成28年度総評

本年度は、目標達成を平成30年度に設定した第2期中期目標の3年目である。

- 利用者数について、館内事業利用者数は昨年より約6千人の減少。当初の目標である9万人には至らなかった。企画展（「大須賀清光の屏風絵と番付」）が1回のみ（前年度は3回）で、移動展も実施されなかったこと、特別展（「新たな国民のたから・文化庁購入文化財展」）および特集展（「南極の自然と南極観測」「収蔵庫からこんには―福島県立博物館収蔵名品展」）の入場者数を、企画展の場合のように別カウントしなかったことなどが理由。一方で、おもに館外で展開した「ふくしま震災遺産保全プロジェクト事業」や「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト事業」などへの参加者は多く、館外事業利用者数が大幅に増えた結果、利用者数全体をみると、前年度より約7千人増加している。
- 「専門機能」では、2-②「多様な外部資金の確保」、3-①「リニューアルの推進」が「△（一部達成）」にとどまり、前年度から引き続いて課題を残した。
- 「交流機能」では、4-①「利用者の快適性と利便性の促進」が「×（達成できず）」となった。目標とするミュージアムショップの設置が難航している状況にある。7-①「市町村の関係機関との連携促進」は移動展の応募がなく実施しなかったため、また8-①「観光集客力の回復」は学校団体の動向分析などが行えなかったため、それぞれ「△（一部達成）」にとどまった。一方で、前年度に「△（一部達成）」にとどまった4-②「体験型学習機会の促進」や6-①「効果的な広報の展開」については改善がみられた。
- 「運営機能」は、おおむね達成度が高かった。
- 「震災からの復興支援」では、12-①「被災文化財等の救出と保全」が「△（一部達成）」にとどまった。レスキュー活動は継続できたが、今後の災害対策など一歩進んだ目標には手をつけられなかった。
- 「次世代ミュージアム機能」は、達成度が高かった。

I 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	東北大学名誉教授	委員長
野沢 謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
岡田清一	東北福祉大学教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
設楽 博己	東京大学大学院人文社会系研究科教授	委員
原田 一敏	東京芸術大学大学美術館教授	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員
柳田 俊雄	東北大学名誉教授、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
玉川 一郎	福島県考古学会会長	委員

イ. 会議

平成28年8月4日(木)

議題

- ①今後3年間の展示計画について
- ②平成29・30年度開催予定企画展等について
- ③資料収集事業について
- ④その他

(2) 受贈・受託

ア. 歴史資料

(ア) 受贈

江戸幕府老中返礼ほか	2件	個人
刀(表銘「陸奥大椽三善長道」)ほか	3件	個人
柳津参詣図・土津神社参詣図屏風	1件	個人

(イ) 受託

鶴城風雅集	4件	個人
伊達政宗書状	1件	個人
大須賀清光筆「高砂図」ほか	2件	個人

藤田家関係写真	7件	個人
相馬藩士木幡家文書	1件	個人
松平容保和歌「冬日詠早梅」ほか	1件	個人

イ. 美術資料

(ア) 受贈

打敷ほか	3件	個人
津田徳民「養老の滝図蒔絵盃」ほか	2件	個人
唐草蒔絵でんぶ台ほか	2件	個人
佐竹永海・遠藤香村・蒲生羅漢筆「松竹梅図」	1件	個人
漆器(膳・椀類)ほか	4件	個人

(イ) 受託

浦上秋琴「山水図」ほか	5件	個人
長尾家屋敷繪圖屏風	1件	個人
岩浅松石筆「十二ヶ月図屏風」	1件	個人
佐藤玄玄「観音図」ほか	27件	個人
牡丹花鳥文染付土瓶ほか	10件	個人

福島県立会津工業高等学校長

ウ. 民俗資料

(ア) 受贈

パラシュート生地に着物	1件	個人
蚊帳ほか	12件	個人
唐箕ほか	13件	個人
山口弥一郎関連資料	28件	個人
島台ほか	4件	個人
柳行李ほか	9件	個人
男性用羽織ほか	4件	個人
笹川のあばれ地蔵写真パネル	1件	個人
微細彫刻	1件	個人
西会津町萱本のお人形様	1件	個人
大福帳ほか	2件	個人
錫杖	1件	個人
ハーモニカ	1件	個人
足踏みミシンほか	12件	個人
五月飾り	1件	個人
木炭ほか	2件	個人
宝舟ほか	18件	個人

エ. 考古資料

(ア) 受贈

土器片(岩谷遺跡出土)ほか	2件	個人
---------------	----	----

オ. 自然資料

(ア) 受贈

堀口層産動物化石	1件	個人
----------	----	----

只見町野々沢布沢層産植物化石ほか

8件 個人

南極観測関係資料

5件 個人

(イ) 受託

梁川層産貝類化石 20件

伊達市教育委員会教育長

アンモナイト化石 Haploceras spp

1件 個人

(3) 購入

ア. 歴史資料

大橋醒仙来簡集 1件

イ. 美術資料

鶴川家所蔵 森川家旧蔵会津茶道資料及び
会津本郷焼資料 4件

ウ. 自然資料

デボン紀植物化石ほか 13件

エ. 図書資料

(ア) 一般図書

考古分野 9 冊、民俗分野52冊、

美術分野 3 冊、自然分野67冊、

保存分野 8 冊、共通10冊 計149冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト (平成29年 3月31日現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	民具研究	民俗
4	ナショナルジオグラフィック	共通
5	第四紀研究	自然

	定期購読雑誌	分野
6	ヒストリア	歴史
7	考古学雑誌	考古
8	日本民俗学	民俗
9	信濃	共通
10	ミュゼ	共通
11	史林	共通
12	史学雑誌	歴史
13	歴史評論	歴史
14	地方史研究	歴史
15	日本史研究	歴史
16	日本歴史	歴史
17	歴史学研究	歴史
18	仏教芸術 (2017年 1月号にて以後休刊)	美術
19	美術手帳	美術
20	芸術新潮	美術
21	国華	美術
22	古代文化	考古
23	文化財発掘出土情報	考古
24	考古学ジャーナル	考古
25	季刊考古学	考古
26	日経サイエンス	自然
27	科学	自然
28	化学	保存科学
29	海洋	自然
30	地球	自然
31	月刊文化財	共通
32	たくさんのふしぎ	共通
33	ニュートン	共通

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、
現在までの累計を示す。件数は概数であり、
「一括」で受け入れた資料も 1 件と数える。

収蔵資料数

(平成29年 3月31日現在)

分野	件数	備考
考古	20,412	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,404	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,186	書籍・文書資料ほか
美術	6,481	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	49,481	化石・岩石・鉱物ほか
合計	111,964	

平成28年度収蔵指定文化財一覧

(平成29年 3月31日現在)

連番	指定順	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
1	32	国	重要文化財	絵画	1903	絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	1	国	重要文化財	絵画	6	紙本着色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	12	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	18	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	8	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託

平成28年度収蔵指定文化財一覧

連番	指定順	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
6	11	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	23	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	14	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本著色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
9	20	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本著色松平楽翁像	1	幅	館蔵
10	37	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
11	38	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
12	19	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本著色十六善神像	1	幅	寄託
13	3	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本著色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
14	25	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
15	40	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
16	41	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
17	2	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本著色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
18	13	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本著色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
19	4	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
20	15	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
21	9	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像(羽黒山湯上神社)	1	軀	寄託
22	10	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像(福聚寺)	1	軀	寄託
23	35	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
24	30	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
25	7	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
26	22	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
27	26	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
28	28	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
29	16	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
30	21	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
31	44	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
32	42	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
33	45	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
34	5	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
35	27	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
36	31	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
37	39	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
38	6	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
39	47	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
40	49	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
41	29	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
42	43	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
43	46	福島県	重要文化財	考古資料	40	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
44	34	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
45	36	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
46	48	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
47	24	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
48	17	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂)古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
49	33	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

イ. 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数 (平成29年3月31日現在)

考古分野：26,546冊 民俗分野：4,809冊
 歴史分野：10,410冊 美術分野：4,197冊
 自然分野：16,897冊 保存分野：1,714冊
 その他：55,594冊 合計：120,167冊

(イ) 収蔵映像資料数 (平成29年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,370点

(2) 登録・整理

ア. 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。新システムは県教育委員会のFKS回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、それまで使用してきた資料管理システム専用LAN回線はFKS回線に一本化した。

新システムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、また、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。

資料管理システム本来の目的である資料の登録および資料情報の外部公開に関しては運用が軌道に乗り、各種登録作業などがほぼ順調に進められるようになった。しかし運用が本格化するにつれ、使用中に発見される書式や登録方法の設定ミス等は引き続き散見され、これらはそのつど修正に努めており、自力で修正出来ないものについては内容を書き出しており、一括して早稲田システムに修正を依頼する必要がある。また、有償の改修が必要な一部項目の再構成については、予算措置を待って改修する予定である。

イ. 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報外部公開機能を使用し、インターネット上で公開する所蔵資料情報を新たに追加した。資料情報の外部公開数は平成28年度中期目標の評価指標を達成したが、資料の登録数は、わずかに目標に及ばなかった。引き続き資料情報の外部公開において検索機能をより使いやすく改良することが望まれるが、システムがASP方式であるため実施可能な修正に制限があり、相当の工夫と時間が必要となる。

登録資料数・資料情報の外部公開数

(平成29年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (平成28年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (平成28年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	216	12,034	1,001	2,763
民俗資料類	217	14,030	1,016	2,397
歴史資料類	283	41,041	1,460	6,236
美術工芸品類	4	6,228	0	23
自然標本類	203	24,690	2,539	9,183
合計	923	98,023	6,016	20,602

ウ. ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

(ア) 自然資料整理

桑原 功 特集展「収蔵庫からこんにちは」の展示設営協力 1日

星総一郎 星総一郎氏寄贈化石標本の整理
延べ3日

特集展「収蔵庫からこんにちは」の展示設営協力 1日

(イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち

10名が延べ54日参加し、松崎達夫家文書の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。終了したのは191点。参加者は五十嵐晴日子、大堀義子、小関栄助、小檜山裕二、佐藤敏子、佐藤紀子、佐野喜惣次、庄司孝雄、鈴木清二、星弘明の諸氏。

(3) 貸出

ア. 博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
新島八重再現ドレス	かわまたおりもの展示館	平成28年4月12日 ～6月8日	「川俣シルクを使った八重の桜衣装展」
ハドロサウルス類(ヒロノリュウ)の頸椎 1点 ハドロサウルス類(ヒロノリュウ)の歯 1点	北九州市立いのちのたび博物館 大阪文化館	平成28年6月21日 ～平成29年1月30日	「恐竜博2016」
紙本著色蒲生氏郷像 1幅 織田信長黒印状 1幅	滋賀県立安土城考古博物館	平成28年4月8日 ～6月25日	「信長の家臣たち」
九曜紋散懸盤 1基 九曜紋散三方 1基	南相馬市博物館	平成28年4月中旬 ～6月下旬	「文化財にみる市制10年の歩み －震災からの心の復興－」
菊漆絵提重 1組 黒塗三段重箱 1組	スペース・アルテマイスター	平成28年4月中旬 ～5月下旬	第一回 会津漆と暮らす「お弁当のある暮らし」展
でんぶ台 2基 丸盆 1枚	奥会津博物館伊南館	平成28年5月上旬 ～11月初旬	常設展示
萱野権兵衛宛松平容保及び照姫書状類(当館受託資料) 4点	若松城天守閣郷土博物館	平成28年9月1日 ～11月30日	企画展「松平容保」
雪村周継筆「竹に鳩図」 1幅 雪村周継筆「蔬果図」 1幅 雪村周継筆「瀟々八景図帖」(当館受託資料)1帖	東京藝術大学大学美術館 MIHO MUSEUM	平成29年2月中旬 ～9月下旬	「特別展 雪村展 ー奇想の誕生ー」
浦上玉堂筆「青山弹琴図」 1幅 浦上秋琴筆「春景山水図」 1幅 浦上秋琴筆「秋溪独釣図」 1幅 浦上秋琴筆「山水図(為鷗降中田史兄)」 1幅 浦上春琴筆「白衣観音図」(当館受託資料) 1幅 浦上秋琴筆「四季山水図」(当館受託資料) 4幅 浦上春琴筆「双峰臨流図」(当館受託資料) 1幅 浦上秋琴筆「山水図」(当館受託資料) 1幅 浦上秋琴筆「山水図」(当館受託資料) 1幅 「浦上系図」(当館受託資料) 1幅 佐野龍雲「玉堂先生肖像」(当館受託資料) 1幅 『龍笛譜』(当館受託資料) 1冊 『箏譜 黄盤太』『箏譜 黄盤大』(当館受託資料) 2冊 『横笛假名譜 龍笛假名譜』(当館受託資料) 1冊 『亂聲 音取 品玄 入調 三鼓』(当館受託資料) 1冊 『(壹越調 平調 他)』(当館受託資料) 1冊 浦上秋琴日記・書状 1巻	岡山県立博物館 千葉市美術館	平成28年9月中旬 ～12月下旬	「文人として生きる 浦上玉堂と春琴・秋琴父子の芸術」
火頭巾 1領 九戸出陣陣立書(天正19年) 1幅 蒲生記(乾坤) 2冊 梁川城本丸庭園跡復元模型 1点	福島県文化財センター 白河館	平成28年9月13日 ～平成29年1月20日	まほろん15周年記念指定文化財展「城跡の考古学」
(天正18年)11月10日付け蒲生氏郷書状 1幅 (天正19年)7月13日付け蒲生氏郷法度条目 1幅 芦名氏家来筋宿老中老近習外様衆記 1冊 木造蘆名盛氏坐像(複製) 1軀 塵芥集(複製) 1冊	米沢市上杉博物館	平成28年9月20日 ～12月10日	特別展「伊達氏と上杉氏ー鶴山城跡国史跡指定記念ー」
でんぶ台 2基 丸盆 1枚	奥会津博物館伊南館	平成28年11月1日 ～平成29年11月上旬	常設展示
ワーゲノセラス 1点 サラッソセラス 1点 サブディコトモセラス 1点 ヒボノチセラス 1点 パキスフィンクテス 1点 メソブゾシア 1点	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	平成28年12月15日 ～平成29年6月30日	企画展「アンモナイト・ワールドー恐竜時代の海へいこうー」
荒屋敷遺跡出土脚付鉢(漆塗り) 1点 荒屋敷遺跡出土縄類 1点 荒屋敷遺跡出土籠類 1点 荒屋敷遺跡出土籠類 1点 荒屋敷遺跡出土籠類 1点	福島県文化財センター 白河館	平成28年12月23日 ～平成29年2月12日	歴史再発見事業資料展「手仕事ふくしまー編み組技術」

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
三角縁神獸鏡模造品 1点	会津若松市歴史資料センター	平成29年2月5日	会津大塚山古墳ワークショップ
十二天図旧軸木(恵日寺旧蔵) 慶長六年銘 1点 延宝三年銘 1点	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	平成29年3月29日 ～12月5日	常設展示

イ. 写真資料

総数：126件238点

考古：22件 65点 民俗：7件17点

歴史：73件127点 美術：20件22点

自然：4件 7点

(環境モニター、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度)及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため、11月23日～12月22日、2月10日～3月1日の2回にわたり実施した。

(4) 保存管理

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所の保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア. 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、化学物質

イ. 生物被害防除

8月、9月、10月に各1回、新収蔵資料などを対象に燻蒸処理を実施した。燻蒸処理件数は、合計151件であった。平成27年度に燻蒸設備の故障が判明してから館内で燻蒸処理をできないため、平成28年度はトラックの荷台内部にビニールシートを貼り付けて、仮設の被覆とした。

3. 展示事業

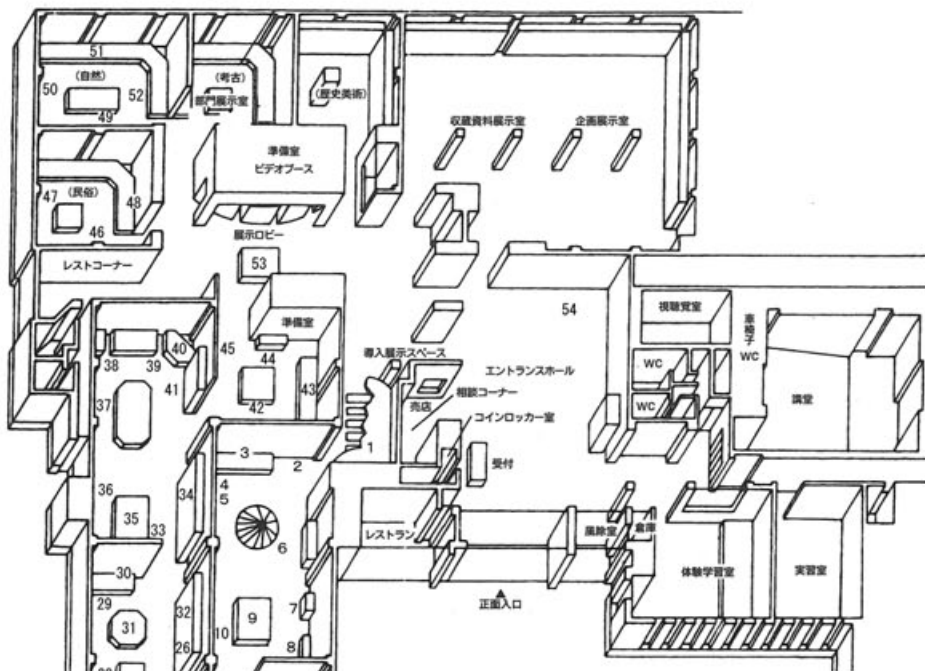
(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間

の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



【総合展示室】

- 1 清戸竇横穴墓壁画
- 原始
- 2 福島最古の人間
- 3 水河時代の生活
- 4 最終氷期後半の環境
- 5 環境の変化と生業
- 6 縄文のムラ
- 7 縄文人
- 8 信仰と墓地
- 9 稲作の開始
- 10 再葬の墓
- 古代
- 11 会津大塚山古墳
- 12 原山1号墳の主
- 13 群集する古墳
- 14 ムラの暮らし
- 15 陸奥国の成立
- 16 公民の生活
- 17 在地の仏教
- 中世
- 18 阿津賀志山の合戦
- 19 神仏習合の世界
- 20 好嶋庄の村むら
- 21 南党と北党
- 22 国人一揆
- 23 戦国の群雄

●近世

- 24 奥羽仕置と諸藩の成立
- 25 学問と文化
- 26 庶民の信仰
- 27 会津農書の世界
- 28 町のにぎわい
- 29 山国の神と人
- 30 産業の発達
- 31 海のなりわい
- 32 ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- 33 戊辰戦争
- 34 自由民権運動
- 35 福島県の成立
- 36 安積開拓事業
- 37 庶民の生活
- 38 日本の花形産業
- 39 15年戦争下の生活
- 40 戦後の生活
- 41 変わりゆく社会
- 自然と人間
- 42 福島の盆地と平野
- 43 福島の鉱山
- 44 福島の火山と湖
- 45 福島の河川

【部門展示室】

- ◆民俗 (ふくしまの子供の世界)
- 46 七歳まではカミのうち
- 47 遊びをせんとや生まれけむ
- 48 小さき者の声
- ◆自然 (県土の形成)
- 49 基盤形成の時代
- 50 海の時代
- 51 山脈形成の時代
- 52 段丘形成の時代
- ◆考古 (ふるさとの考古資料)
- ◆歴史・美術 (福島的美術)
- ロビー・エントランスホール
- 53 白水阿弥陀堂模型
- 54 二本松提灯祭竹田町太鼓台

イ. テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。平成28年度が8年目である。全5回実施。うち「五幅対に見る絵師」は春の企画展の関連展として開催。「100年カエル館コレクション展 かえる曼荼羅～100年カエル館から河竹登志夫さんへのオマージュ～」では関連講演会も開催した。

- ①「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪
(部門：考古展示室)

平成27年6月20日(土)～

平成29年5月14日(日)

- ②「五幅対に見る絵師」(部門：歴史美術展示室)

平成28年4月16日(土)～6月19日(日)

- ③「けんぱくの宝1」(部門：歴史美術展示室)

平成28年7月5日(火)～8月28日(日)

- ④「100年カエル館コレクション展 かえる曼荼羅～100年カエル館から河竹登志夫さんへのオマージュ～」(部門：歴史美術展示室)

平成28年9月10日(土)～11月10日(木)

関連講演会

『カエルに惹かれる理由とカエルグッズを集める楽しみ』

講師：高山ビッキさん(100年カエル館)

日時：平成28年11月5日(土)13時30分

会場：当館講堂

- ⑤「けんぱくの宝2」(部門：歴史美術展示室)

平成28年11月22日(火)～

平成29年1月22日(日)



五幅対に見る絵師



かえる曼荼羅



けんぱくの宝2

ウ. ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。平成28年度が8年目である。全14回実施。うち「会津年中行事屏風」は春の企画展の関連展として開催。「手塚治虫の漆絵皿」は会津若松市歴史資料センター「まなべこ」との連携事業として実施した。

- ①「会津年中行事屏風」(部門：民俗展示室)
平成28年4月22日(金)～6月19日(日)
- ②「落下傘で作った着物」(部門：民俗展示室)
平成28年6月22日(水)～8月17日(水)
- ③「ふくしまの戦争資料」(総合：近現代展示室)
平成28年7月16日(土)～8月21日(日)
- ④「手塚治虫の漆絵皿」(展示ロビー)
平成28年7月29日(金)～8月21日(日)
- ⑤「いろんな“箕(み)”集まれ！」
(部門：民俗展示室)
平成28年8月19日(金)～11月30日(水)
- ⑥「収蔵資料にみる戦国の群雄」
(総合：中世展示室)
平成28年9月6日(火)～10月23日(日)

- ⑦「初公開 斎藤一の肖像写真」(展示ロビー)
平成28年9月14日(水)～9月30日(金)
- ⑧「只見町野々沢の化石」(展示ロビー)
平成28年9月22日(木・祝)～10月23日(日)
- ⑨「ふくしまの教育」(総合：近現代展示室)
平成28年10月22日(土)～11月13日(日)
- ⑩「ふくしま最古の化石」(展示ロビー)
平成28年10月25日(火)～11月27日(日)
- ⑪「近世に書かれた中世の城絵図」
(総合：中世展示室)
平成28年10月25日(火)～12月18日(日)
- ⑫「むかしの道具～ご飯をつくる・おいしくたもつ～」(部門：民俗展示室)
平成28年12月2日(金)～
平成29年3月1日(水)
- ⑬「流す雛人形・飾る雛人形」
(部門：民俗展示室)
平成29年3月3日(金)～3月30日(木)
- ⑭「猪苗代湖の水利用」(総合：自然と人間)
平成29年3月3日(金)～3月31日(金)



只見町野々沢の化石



いろんな“箕(み)”集まれ!



初公開 斎藤一の肖像写真

(2) 特別展

ア. 「新たな国民のたから—文化庁購入文化財展」

文化庁は国宝・重要文化財の指定をはじめ、文化財の保存と活用に関する様々な事業を行っている。その中に貴重な国民の「たからもの」である文化財が散逸したり、海外に流出したりすることを防ぐため、国が文化財を購入する事業がある。これにより、これまで多くの文化財が国の所有するところとなり、国立博物館や各地の博物館における展覧会で活用されている。また国民に文化財の鑑賞の機会を提供するため「新たな国民のたから展」として、近年国が購入した作品の一部やこれまでに国が購入し所蔵する文化財を重要文化財の公開承認施設で展覧する事業も毎年行っている。

平成28年度は福島県立博物館を会場に文化庁と共催するところとなり、当館の開館30周年を記念する特別展示として常設展観覧料で観覧できることとした。

(ア) 会 期

平成28年9月3日(土)～10月2日(日)
開館日数：26日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 11,077人

(エ) 担当学芸員 高橋 満

(オ) 趣 旨

受け継がれてきた日本文化や文化財の多様性を再発見する機会とする。とくに会津・福島県・東北地方・東日本にゆかりの

ある文化財を紹介して東日本大震災からの復興を祈念する意味合いを込める。そして国宝・重要文化財やこれに準ずる優れた美術品を多数展示し、普段なかなか目にすることができない価値ある文化財に接する機会を広く提供する。

(カ) 展示構成と展示品

- (1) 祈りの形 古代から鎌倉時代の多様な信仰の姿を多様な考古資料および仏像・経典・仏画等で紹介し、震災からの復興を祈念する。
- (2) 武士の時代と文化 戦いの道具を芸術品の域まで高めた精神性、漆工芸の粋を集めた婚礼調度品、中世社会の場面を示す古文書、「クールジャパン」と評価される日本文化の代表例として能と茶の湯の世界を取りあげ、日本文化の基底の一つをなす武士の時代の文化財を紹介する。以下の5つの小テーマで展開する。①武具の美 ②文字が語る中世 ③婚礼調度 ④能の世界 ⑤茶の湯
- (3) 受け継がれる文化 芸術王朝文化の代表とされる和歌や物語ものが、教養・憧憬・鑑賞の対象として多様に姿を変えて中世・近世へ伝えられ、その主題が新たな文化・芸術作品として受け継がれてきた歴史を古筆や絵画等にみる。
- (4) 出品点数43件（国宝1件、重要文化財25件、重要美術品1件を含む）
主な展示品 国宝 太刀 銘正恒 一口 重要文化財 群仙図（曾我蕭白筆）六曲一双、木造阿弥陀如来坐像一軀、松藤文兵庫鎖太刀拵一口、太刀銘守次革包太刀拵一腰、小袖繡箔風景四季花文一領、色絵若松図茶壺仁清作一口、松尾社法楽和歌一卷、流水文銅鐸一口

(キ) 関連事業

- 1) オープニングセレモニー（主催者あいさつ・来賓あいさつ・ゲスト紹介・テープカット）

日時：9月3日（土） 9時30分～

会場：エントランスホール

列席：今井敦氏（文化庁主任調査官）、角屋由美子氏（米沢市上杉博物館学芸員）、芳賀幸雄氏（福島県立博物館友の会会長）、山田英一（当館副館長）

- 2) ギャラリートーク

案内：今井敦氏（文化庁主任調査官）、横須賀倫達氏（文化庁調査官）、高橋満・塚本麻衣子（当館学芸員）

日時：9月3日（土） 10時～

会場：企画展示室

3) 講演会

演題「上杉景勝御手撰三十五腰とは何か？」

講師 角屋由美子氏

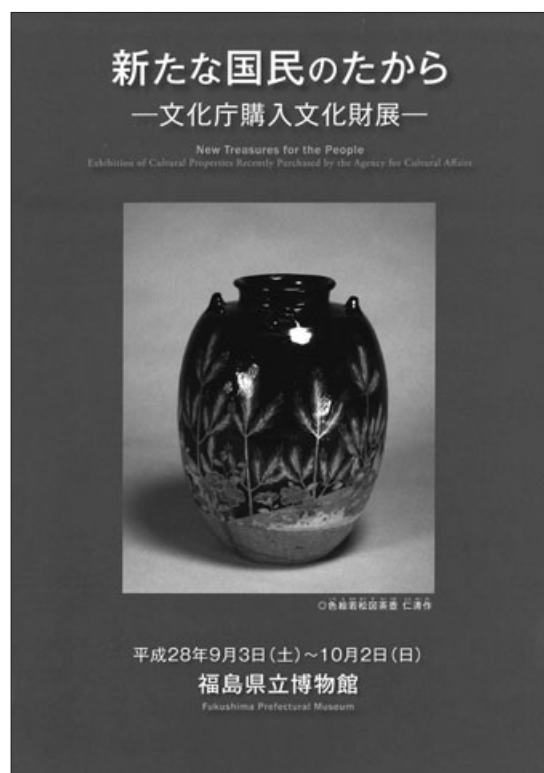
（米沢市上杉博物館学芸員）

日時：9月3日（土） 13時30分～15時

会場：博物館 講堂

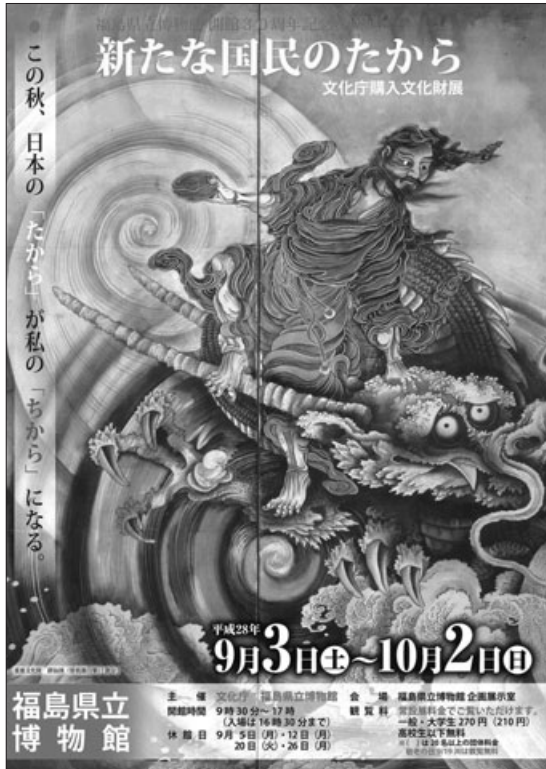
(ク) 成果と課題

- ・展示品のうち半分以上を国宝や重要文化財が占めるという展示は開館以来初のことになる。価値ある多様な文化財が一堂に会する機会を提供できたことが、秋の観光シーズンとも重なり、多くの観覧者を迎えることに繋がったものと思われる。
- ・アンケートを見ると満足度が高く、観覧時間も他の展示アンケートと比較すると長時間となる傾向がある。静かにじっくり鑑賞に浸る空間が構築できたのかもしれない。アンケートでは「繊細な日本の技術が素晴らしい。」「普段見ることのできない文化財を見られて良かった。」などの回答があった。
- ・アンケートを見るとテレビCMも広報に一定の効果があったようであるが、広報



特別展図録表紙

の展開をもう少し早めにできれば、さらに多くの観覧者数が見込まれたと思われる。



リーフレット (表)

(3) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。平成28年度は、歴史分野が企画した展示を春に開催した。福島県立博物館は季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。春は、会津をテーマにした展示をとおして会津の魅力を再発見できるような内容を基本コンセプトとしている。

ア. 春の企画展「幕末！若松！喜知松？ 大須賀清光の屏風絵と番付」

(ア) 会期

平成28年4月23日(土)～6月12日(日)

開館日数：45日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 入館者数 2,955人

(エ) 担当学芸員 歴史分野：阿部綾子

(オ) 趣旨

幕末に活躍した若松在住の町絵師・大須賀清光(1809～75)の作品を可能な限り集めた展覧会。代表作である一連の「若松城下絵図屏風」は若松城下を鳥瞰的に描いた

作品で、同構図で撮影した現代の航空写真をならべて展示し、清光の仕事がいかに丹念に行われていたかを証明した。他にもさまざまな画題の屏風作品や、番付など一連の著作物もあわせて紹介し、バリエーションに富む手法で幕末会津を大胆かつ繊細に切り取って今に伝えている清光の魅力にせまった。

(カ) 展示構成

プロローグ 謎の絵師誕生

第一章 本領発揮、若松城下絵図屏風

第二章 注文された屏風たち—さまざまな画題の大作—

第三章 挿絵から番付まで！—ゆかりの小作品—

エピローグ 最期の仕事

出品点数 若松城下絵図屏風、追鳥狩図屏風、松下群鶴図屏風、賤ヶ岳戦陣図屏風、蛤御門の変図屏風、江戸城登城風景図屏風、万民心の鑑、鶴城風雅集など54点

(キ) 関連事業

・記念講演会「江戸城登城風景図屏風をよみとく—江戸の名所“下馬先”とは何か—」

日時：6月12日(日)13時30分～15時
講師：岩淵令治氏(学習院女子大学教授)
場所：講堂

・こども向けイベント「めざせ江戸！清光の絵で道中すごろく」

日時：5月3日(火・祝)
①10時30分～ ②13時30分～

講師：当館学芸員
場所：体験学習室

・こども向けイベント「みんなで仕上げる清光作品 若松城下ドリームプラン」

日時：5月4日(水・祝)
13時30分～15時

講師：当館学芸員
場所：実習室

・一般向け講座「江戸の番付で良妻チェック」

日時：5月15日(日)
13時30分～14時30分

講師：阿部綾子(当館学芸員)
場所：実習室

・一般向け講座「清光の挿絵で読む！メイドイン会津の教訓書」

日時：5月28日(土)
13時30分～14時30分

講師：阿部綾子(当館学芸員)

場所：講堂

・展示解説会

日時：4月23日（土）10時～

5月15日（土）14時30分～

5月28日（土）14時30分～

6月11日（土）13時30分～

講師：阿部綾子（当館学芸員）

場所：企画展示室

(ク) 成果と課題

地元で生まれ育った絵師の視点で会津の魅力を紹介する、良い機会になったと考える。アンケートでも「郷土愛が伺える良い企画」「会津にこういう絵師がいたことを誇りに思う」とのご意見をいただいた。また展示手法に関しては、「現代の航空写真と比較できて分かりやすかった」「まとまりがあった」「キャプションがコンパクトでよかった」など肯定的なお声があがった一方で、「展示位置が遠く屏風絵の文字や人物が見えにくい」「拡大ルーペを用意して欲しい」「キャプションの文字が小さい」「英訳が欲しい」など改善を求めるとご意見もみられた。今後展示を企画する上で参考にしていきたい。



「大須賀清光の屏風絵と番付」リーフレット

(4) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。平成28年度は、夏に開催した自然分野の特集展「南極の自然と南極観測」に加え、開館30周年記念事業の一環として、秋に分野合同で「収蔵庫からこんにちは」、第2期中期目標で掲げている次世代ミュージアム機能の充実を図る活動として冬に「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」および「震災遺産を考える」の合計4本の特集展を企画展示室にて開催した。福島県立博物館は、企画展示と特集展に関して、季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。夏は、学校の夏休みの時期に、子どもたちが興味を持ち、家族や親子で楽しめる内容。秋は、福島をテーマにした展示をとおして県民が広く文化や歴史に親しむ機会を提供する内容。冬は、東日本大震災や復興に関連する内容。

企画展示のように特別の観覧料金を設定せずに、特集展ごとに常設展観覧料で観覧できるか、無料で観覧できるように対応した。

ア. 特集展「南極の自然と南極観測」

(ア) 会期

平成28年7月16日（土）～8月21日（日）

開館日数：32日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 入館者数 5,039人

(エ) 担当学芸員 自然分野: 相田優

(オ) 趣旨

この特集展は、県民に対し、南極の自然や南極観測隊の活動について理解を深め、地球の未来に目を向ける機会を提供することを目的として企画した。同時に、夏休み期間中の子どもたちに自由研究のテーマを提供することもねらいとした。世代を問わず多くの県民に、楽しみながら地球の自然と環境、その未来について考えてもらう機会を提供するものとした。

当館では、本県南相馬市出身の元南極観測隊員で元日本大学教授の小元久仁夫氏より、多数の南極観測関連の資料の寄託を受けている。展示はこれらの資料を基本として構成したが、全体としてバランスの取れた展示を構成するために、国立極地研究所、国立科学博物館などからも資料・標本を借用し、併せて展示した。

(カ) 主な展示資料

南極の岩石、鉱物、化石、風食岩、氷河

擦痕、アザラシはく製、ペンギンはく製、魚類、藻類、隕石、観測機材、南極の氷など

出品点数150点

(キ) 関連事業

(1) 記念講演会：演題「南極観測と基地生活の思い出」

日時：8月7日(日) 13時30分～14時30分

場所：講堂

講師：元日本大学教授・元南極観測隊員
小元久仁夫氏

(2) 映画会

①「大いなる南極大陸」

日時：7月31日(日)

13時30分～14時30分

場所：講堂

②「南極大陸の新たな幕開け」「白い大陸からのメッセージ」

日時：8月13日(土)

13時30分～14時30分

場所：講堂

(3) 展示解説会

①講師：小元久仁夫氏

日時：8月7日(日) 15時～16時

場所：企画展示室

②講師：当館学芸員

日時：7月23日(土)、30日(土)、8月14日(日) 13時30分～14時30分

場所：企画展示室

(4) 関連イベント：アクアマリンふくしま
移動水族館 アクアラバン展示

日時：8月21日(日) 11時～15時

場所：当館正面前庭(野外)

(ク) 成果と課題

- ・南極の自然や南極観測に対する県民の関心は高く、短い会期にもかかわらず多数の入館者を迎えることが出来た。
- ・アンケートの集計結果から見る限り、観覧者の満足度も高く、「おもしろかった」と「まあまあおもしろかった」と答えた人を合わせた割合は9割を超えた。
- ・アンケート結果から広報活動の効果を見ると、ポスターやホームページを通して特集展の開催を知った人が多く、テレビ・ラジオによる広報はほとんど機能していない。
- ・移動水族館「アクアラバン」は人気が高く、関連イベントとして効果的だった。
- ・南極の自然標本類は採集に関する厳しい制限があるため、国内における資料の所

在はきわめて限られている。今回の特集展の場合、小元久仁夫氏の寄託資料以外の資料を借用出来る先は、事実上国立極地研究所と国立科学博物館の2ヶ所に限られており、夏期に同様の展示を企画する博物館が複数あったため、極地研究所の資料に関しては借用の競合が起きていた。この点は展示を計画した後、初めてわかった事柄であり、今後、同様の展示を再び企画する場合は資料の借用交渉を早めに開始すべきである。



展示状況 1



展示状況 2



展示状況 3

イ. 特集展「開館30周年記念 収蔵庫からこんにちは—福島県立博物館収蔵名品展—」

(ア) 会期

平成28年10月15日(土)～11月27日(日)
開館日数：36日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 入館者数 3,952人

(エ) 担当学芸員

内山大介・各分野担当学芸員

(オ) 趣旨

福島県立博物館の開館30周年を記念する特集展として、開館記念式典の行われた10月15日を皮切りに開催された。今回の展示は、全体として収蔵品を中心に学芸員選りすぐりの逸品を紹介すること、そして30年間の博物館のあゆみを皆さんに知っていただくことをコンセプトに構成した。

(カ) 展示構成

- 1 博物館を支えるしごと—調査研究30年の足あと
 - ・はじめに・・・原山1号墳・・・あり！
 - ・こわれた古墳時代の象嵌から見つけた作り方
 - ・心にふれる—手紙でひもとく歴史
 - ・自然部門展示事始め—フタバクジラがたどった歴史—
- 2 災害を乗り越える—祈りと記憶を未来へ
 - ・救い出された絵馬と祈り
 - ・物言わぬ、物—たとえば「若松鶴模様吸物椀 四拾人前」
 - ・震災の記憶をつなぐ
 - ・被災文化財保全の取り組み
- 3 〈昭和・平成〉博物館ものがたり
 - ・30年の世相と博物館のあゆみ
 - ・展覧会いま・むかし
 - ・博物館の顔—展示解説員制服コレクション

出品点数150件

(キ) 関連事業

①学芸員リレー解説会(全3回)

日時：各回とも13時30分～15時30分

10月16日(日) 担当分野／考古・保存・歴史・民俗・震災

11月3日(木・祝) 担当分野／自然・歴史・美術・震災

11月13日(日) 担当分野／考古・保存・自然・歴史・民俗・震災

講師：当館学芸員

場所：企画展示室

②食のイベント「祝いの器・寿ぎの食」

日時：平成28年10月21日(金)

14時30分～16時30分

講師：中山晴奈氏(フードアーティスト)・平出美穂子氏(郷土料理研究家)

場所：レストラン

参加費：500円(材料費)

協力：食とものづくりスタジオFERMENT

③記念講演会「原山1号墳の発掘調査」

日時：平成28年10月29日(土)

13時30分～15時

講師：辻秀人氏(東北学院大学教授)

場所：講堂

④トークイベント「祝いのうつわ～漆の力～」

日時：平成28年11月26日(土)

13時30分～15時

講師：鞍田崇氏(哲学者・明治大学准教授)／小林めぐみ(当館学芸員)

場所：企画展示室

⑤解説会&トークイベント「絵馬からよみとく地域の歴史」

日時：平成28年11月27日(日)

13時30分～15時

講師：「須賀川知る古(しるこ)会」の皆さん／内山大介(当館学芸員)

場所：企画展示室

(ク) 成果と課題

会期中には展示内容が新聞各紙やテレビ番組にも取り上げられ、当館が開館30周年であることを広報する良いきっかけとなった。

開館30周年記念特集展
30th
収蔵庫からこんにちは
—福島県立博物館収蔵名品展—
平成28年
10月15日(土)～11月27日(日)
休館日：10月17日・24日・31日・11月4日・7日・14日・21日・24日
会場：企画展示室 開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)
料 金：観覧料
大人・大学生 ￥270
20名以上の団体 ￥210
高校生・小学生 無料
※11月3日文化の日は入館無料

「おめでとぅけんばく!開館30周年記念式典」
10月15日(土) 9:00～12:00
シンボルマーク表彰式
・講演会「当館をめぐって」
・展示「あゆみと未来」
・対談/学芸員対談・学芸員対談(当館職員)
・申込不要、無料、観覧

「作って!見て!感じる!ふくしま技の世界」
10月16日(日) 9:30～18:00
・申込不要、無料、エントランスホール

「博物館でもよみかけせ」
10月16日(日) 9:30～11:30
・講師/福本敬哉(ボランティア「あはなしのへや」)
・申込不要、無料、学芸員対談

「けんばく感謝祭! 栗山善雄さんと祝うけんばく30年」
10月17日(土) 13:30～14:30
・申込不要、12:30～14:30(出展)、無料、エントランスホール

福島県立博物館

「収蔵庫からこんにちは」リーフレット

た。また博物館としても改めてこの30年のあゆみを見つめ直し、次へのステップを考える機会となった。アンケート集計からは、来館者の割合が博物館友の会に入っていない方々、そして会津若松市外や福島県外の居住者が多かったことが分かった。料金設定、内容とも全体として満足度は高かったが、普段から博物館に親しんでいる方やリピーターの方より、初めて来館された方々にとって満足できる内容だったようだ。この結果をふまえ、利用していただく機会の多い方々にとっても満足していただく企画を今後検討していきたい。

ウ. 特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」

(ア) 会 期

第1会場：平成29年2月4日（土）～4月11日（火） 開館日数：57日間（3月31日時点で48日間）

第2会場：平成29年2月11日（土・祝）～4月11日（火） 開館日数：51日間（3月31日時点で42日間）

(イ) 会 場

第1会場：常設展部門歴史美術展示室

第2会場：企画展示室

(ウ) 入館者数 2,596人（3月31日時点）

(エ) 担当学芸員

川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子

(オ) 趣 旨

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から5年を迎え、その記憶も薄れつつある。しかし、巨大地震と原子力発電所事故が福島に限らない課題であることはこの国の多くの人々が共有し続けなければならない課題である。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、文化・芸術の視点から2011年以降福島が抱えている課題に向き合ってきた。地域に新たなアートを定着させ、アーティストとともに被災地の記憶をとどめ、未来そのものである子供たちにアートワークショップを通じて触れあってきた。2011年以降の福島を伝え、ともに考えることを目的に制作されたはま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果作品を展示。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの5年間の成果をまとめて公開した。

(カ) 主な展示資料

岡部昌生「被曝樹×被曝し続ける樹、他」

【フロタージュ作品】、片桐功敦「sacrifice」

【写真作品】等、出品点数約100点

(キ) 関連事業

①トークセッション「アートでつなぐはま・なか・あいづ 震災とアート、そして対話」

講師：赤坂憲雄（当館館長／はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会委員長）

川延安直（当館学芸員）

日時：平成29年2月23日（木）

13時30分～15時

会場：講堂

②ギャラリートーク

講師：川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子（当館学芸員）

日時：平成29年2月26日（日）、3月26日（日） 各13時30分～14時30分

会場：企画展示室

(ク) 成果と課題

本展は、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトがその活動を通して蓄積した作品を公開する成果展の一環として開催した。主に福島県外で東日本大震災の教訓と記憶を共有することを目的として実施してきた成果展の県内初の開催であった。展示は福島震災遺産保全プロジェクトと展示室をシェアする構成とした。これにより、震災の痕跡を刻む震災遺産と、アーティストによる震災の記憶、震災によって失われたもの、失ってはならないものの表現が隣接し、より緊張感ある展示となった。

来場者の感想には、当館での常設展示化を望む声、博物館が震災の記憶の継承に取り組む姿勢への支持があった。

今後、展示において震災にいかに関与するかの試金石ともなった展示であった。

震災遺産資料とアート作品の併存は展示に説得力を持たせることになったが、両者の併存が相乗効果を発揮するところまでは至らなかった。東日本大震災の記憶の継承はあらゆる手法を駆使して取り組まなければならない課題であり、今後、さらなる手法の洗練が求められる。



「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」
展示風景 1



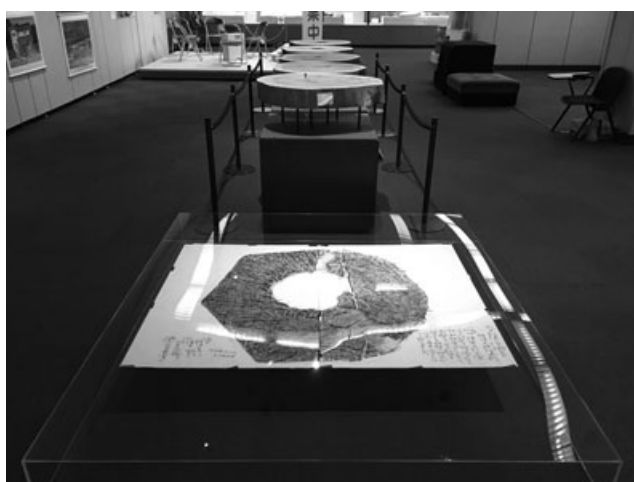
「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」
展示風景 4



「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」
展示風景 2



「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」
展示風景 5



「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」
展示風景 3



「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」
展示風景 6



「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」
展示風景 7

エ. 特集展「震災遺産を考える～6本の年輪～」

- (ア) 会 期 平成29年 2月11日(土・祝)
～4月11日(火) 開館日数:
51日間(3月31日時点で42日
間)
- (イ) 会 場 エントランスホール・企画展
示室
- (ウ) 観覧者数 2,596人(3月31日時点)
- (エ) 担当学芸員 森幸彦・栗原祐斗
- (オ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバショを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年から実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産からふくしまが経験した東日本大震災を振り返り、未来のふくしまについて考える機会にしようとして実施したものである。

(カ) 展示構成

1. あの日・あの時から
2. 断絶する「日常」
3. 思いがけない「未来」

※出品点数 火災で溶けた街頭、富岡町災害対策本部のホワイトボード、東京電力女子サッカー部マリーゼのマスコットキャラクター「マリちゃん」の着ぐるみ、飯館村綿津見神社大杉の輪切り、津波で被災したJR常磐線の線路など107件

(キ) 関連事業

- ・展示解説会
会期中に2回実施した。参加者は15名である。

・「3Dデジタル震災遺構アーカイブ体験展示」

東北大学と連携して平成26年度から開始した県内所在震災遺構の3Dポイントクラウドデータ取得によるデジタル記録保存事業の成果を県内で公開する事業である。展示室内のブースにマーカーを設置し、最新技術MR(複合現実Mixed Realityの略)による3次元バーチャル映像をヘッドマウントディスプレイで閲覧する催しを3月10日(金)～3月12日(日)にかけて実施した。参加者は76名である。

・柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」活動報告パネル展示

エントランスホールにおいて3月5日(日)から4月11日(火)にかけて実施し、展示初日には渡邊浩二氏と筑波匡介氏による解説会が行われた。参加者は17名である。

・トークセッション「県外避難者のいま」 講師：渡邊浩二氏(柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」)

筑波匡介氏(中越沖地震メモリアル「まちから」)

日時：3月23日(木) 13時30分～15時

東日本大震災の中で発生した福島第一原子力発電所の事故は、多くの県外避難者を発生させた。本トークセッションでは、新潟県柏崎市において避難者の訪問・見守り活動をしている柏崎市サポートセンター「あまやどり」の渡邊浩二氏にご講演頂いた。また、中越沖地震メモリアル「まちから」の筑波匡介氏には、中越地震および中越沖地震の経験を生かした防災教育・資料保全等の取り組み・実践についてご講演頂いた。参加者は64名である。また、トークセッション終了後に、エントランスホールに移動して柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」のパネル展示解説会が行われた。参加者は35名である。

・参加型パネル展示「はじまりのごはん」

3.11オモイデアアーカイブ・3がつ11にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)が企画し、エントランスホールにおいて2月16日(木)から4月11日(火)にかけて実施した。この展示は東日本大震災発生翌日の朝ごはんの思い出や震災当時のことを付箋に記し、ブースに貼り付けていく参加型展示である。

(ク) 成果と課題

会期中に実施したアンケートには「今回

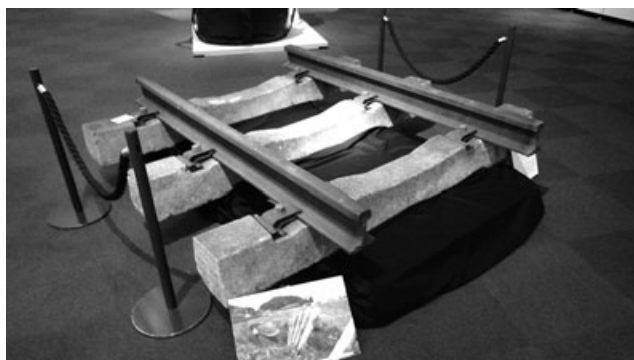
の特集展を見るために東京から来た。より多くの人に見てもらいたい」、「実物以上に震災やそこで生きた人々の姿を伝えるものはない。保存の取り組みに胸を打たれた」といったように、当館の取り組みに対して好意的なご意見を頂いた。その一方で、震災遺産展と同時開催した「アートで伝える考える 福島は今、未来展」のアート作品との区別がわかりにくい、といったご意見も寄せられた。今後の展示構成を考える上で参考にしたい。



展示解説会



飯館村綿津見神社大杉の輪切り



津波で被災したJR常磐線の線路

(5) 共催展

他の機関・組織との連携の一環として、共催による展示会を開催している。「東日本大震災復興祈念～東北新聞五社事業協議会連携企画 藤森武写真展 みちのくの仏像」は、福島民報社主催、当館共催という形で開催した。

ア. 共催展「東日本大震災復興祈念～東北新聞五社事業協議会連携企画 藤森武写真展 みちのくの仏像」

(ア) 会 期 平成28年8月30日(火)～10月2日(日) 開館日数：29日間

(イ) 会 場 エントランスホール

(ウ) 入館者数 3,722人

(エ) 担当学芸員 塚本麻衣子

(オ) 趣 旨

東北6県にはそれぞれに歴史と伝統をもつ、地域色豊かな仏像が数多く残されている。写真家の藤森武は、師の土門拳の遺志を受け継ぎ、東北各地の仏像を撮り続けている。本展では、深い傷跡の残る東日本大震災被災地の復興への祈りをこめ、東北各地に残る魅力的な仏像の数々を、主に藤森武の迫力ある写真で紹介した。

(カ) 展示構成

藤森武「みちのくの仏像」【写真作品】

出品点数100点

土門拳【写真作品】 出品点数4点

(キ) 関連事業

トークイベント「藤森武が出会ったふくしまの仏像と文化」

講師：藤森武氏（写真家）、佐藤彌右衛門氏（大和川酒造店代表社員）

聞き手：塚本麻衣子（当館学芸員）

日時：9月4日（日）13時30分～15時

会場：講堂



「藤森武写真展 みちのくの仏像」展示風景

(ク) 成果と課題

東北各地の仏像を藤森武の写真によって一堂に展示し、仏像の魅力を伝えることができた。また、エントランスホールを会場とし、観覧料無料としたため、多くの方にご覧いただけた点も成果としてあげられる。多様な展示形態の一つとして今後の参考とすることができるだろう。仮設壁等を設置して展示を行ったが、普段展示には使用しない空間であるため、安全面や機能性については、なお検討が必要と考えられる。

(6) 指定文化財の公開

平成28年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア. 国指定

〈国宝〉

- (1) 「太刀 銘正恒」一口 文化庁（東京国立博物館）

〈重文〉

- (2) 「群仙図（曾我蕭白筆）」六曲一双 文化庁（分室）
- (3) 「西行物語絵詞」一卷 文化庁（京都国立博物館）
- (4) 「木造阿弥陀如来坐像」一躯 文化庁（東京国立博物館）
- (5) 「松藤文兵庫鎖太刀拵」一口 文化庁（東京国立博物館）
- (6) 「太刀 銘包永」一口 文化庁（分室）
- (7) 「太刀 銘安綱」一口 文化庁（分室）
- (8) 「太刀 銘守次 革包太刀拵」一腰 文化庁（東京国立博物館）
- (9) 「剣 銘江州甘呂俊長 延文五年庚子」一口 文化庁（分室）
- (10) 「太刀 銘則重」一口 文化庁（分室）
- (11) 「太刀 銘備州長船住景光 元亨二年□月日」一口 文化庁（分室）
- (12) 「色々威胴丸 附 大袖」一領 文化庁（東京国立博物館）
- (13) 「小袖 繡箔風景四季花文」一領 文化庁（分室）
- (14) 「黒楽茶碗（ムキ栗）長次郎作」一口 文化庁（分室）
- (15) 「色絵若松図茶壺 仁清作」一口 文化庁（京都国立博物館）
- (16) 「灰被天目茶碗（虹）」一口 文化庁（九州国立博物館）
- (17) 「松竹双雀葦手鏡」一面 文化庁（分室）
- (18) 「紙本墨書大乘掌珍論〈巻上〉」一卷 文化庁（京都国立博物館）

- (19) 「紙本墨書孔雀経单字音義〈上巻〉」一卷 文化庁（京都国立博物館）
 - (20) 「松尾社法楽和歌」一卷 文化庁（分室）
 - (21) 「彩牋墨書大和物語 附 梨子地蒔絵歌絵文様笥」一帖 文化庁（分室）
 - (22) 「紙本墨書源氏物語」五十三帖のうち三帖（一帖「藤壺」・五帖「若紫」・九帖「葵」） 文化庁（分室）
 - (23) 「後伏見天皇宸翰御消息（北山逗留之間）」一幅 文化庁（分室）
 - (24) 「流水文銅鐸」一口 文化庁（京都国立博物館）
 - (25) 「石製経筒」一口 文化庁（九州国立博物館）
 - (26) 「山城国花脊別所経塚群出土品」一括のうち金銅毘沙門天立像 一体・銅筒 一口・火舎 二口・花瓶 二口・六器 六口 文化庁（京都国立博物館）
- （以上、26件は特別展「新たな国民のたから－文化庁購入文化財展」で展示公開）
- 〈重文〉磐城檜葉天神原遺跡出土品 檜葉町教育委員会（福島県）（総合：原始展示室）

イ. 県指定（福島県指定）

該当なし

(7) 展示解説

ア. 展示解説員

平成28年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算を確保したが、展示解説員の増員を図ることができなかった。企画展についても、展示予算の中で監視員1名を予算化し、通常展示室の対応をせざるをえない状況であった。

さらに、企画展開催時には企画展示室の入口のモギリに人数を割かれるなどするため、常設展示室内に対応できる人員が不足する状況が恒常的に続いている。これらの状況に対して、学芸員による解説活動を増やし、定数減の状況を乗り越える対策をとっている。

このような展示解説員の減員により、過去に実施されていた解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員1人で対応しなければならないエリアが広がった関係で十分な解説活

動ができない場合が少なくなく、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。きめ細やかな展示解説活動をはじめとしたより質の高い行政サービスを保障するために、展示解説員に対する研修を実施するなど、質的向上に向けた努力を行っているが、展示解説員の人数不足という量的課題については、引き続き検討をしていく必要がある。

展示解説員の業務は、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応をはじめとして展示や館内の業務をよく知っている職員でなければ担当できない内容がほとんどである。現在の減員状況の中でどうか対応している状況であるが、現在の定数では通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来す可能性が出てくる。

(ア) けんぱくハイライトツアー

展示解説員による常設展の定時解説で、開館30周年記念行事としてそれまで実施していた「やさしい展示解説会」をリニューアルさせたものである。原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日・祝日の午前10時30分、午後2時の2回開催を基本に実施している。1回の所要時間は約30分。各解説員が独自の解説ルートを開発し、それぞれ展示解説員ごとのテーマで解説会を実施している。今年度の「けんぱくハイライトツアー」は4月29日から3月26日の期間実施した。

＜実施状況＞ 実施日数：101日
総参加人数：348人

(イ) 通し解説

不定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：39回

(ウ) 部屋送り解説

不定期の常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：21回

(エ) 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実

施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成28年度も実施されなかった。

ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図っている。

イ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。28年度は年間で285回を数えた。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。

また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

ウ. 展示解説のための印刷物

- ①福島県立博物館ガイドブック
常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28 p.
- ②Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book
英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14 p.

(8) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

ア. 衣装

(ア) 衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行



体験学習室

っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかる。

しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思われ、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。

①衣装着付け件数 534件

②着付けた衣装

春：打掛・半袴 夏：水干・直垂

秋：天武朝女官朝服・推古朝朝服

冬：白拍子・当世具足

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も長くなり、多人数の要望には一度に応え難い面もある。

しかし、着終わった姿を鏡に映したり、デジカメで撮影したりして満足する来館者が多く見られた。

(イ) 衣装展示

春：壺装束・大鎧 夏：編綴・武士旅姿

秋：小袖・古墳時代男子

冬：素襖・稚児鎧

イ. 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り／12月：クリスマスツリー／

1月：団子さし／3月：手作り雛人形

ウ. おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：78件

エ. ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー

平成28年4月～平成29年3月「古代の音色と輝き」(考古分野)

平成28年7月～平成28年9月「蚊帳体験」(民俗分野)

(9) リニューアルの検討

リニューアルに向けて、調査・研究を行うためにプロジェクトチームを設置して活動した。会議は通年で13回実施し、下記の内容について協議した。

①これまでの経緯の確認

②当館の現状の把握：リニューアルのための課題・問題点の抽出・整理

③過去の常設展アンケートの見直し

④館長講座「みんなで、明日の博物館について語ろう」参加者意見などの記録

⑤リニューアルの基本方針・スケジュールについての検討

今年度は、チームのメンバーが大きく入れ替わったために、①②のような昨年度までの活動の継承から始め、次年度以後の本格的な基本構想策定の基礎を固めることに努めた。

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定して調査を実施している。平成28年度は、以下の4テーマの調査を実施した。

ア. 山口弥一郎調査資料の研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣旨

山口弥一郎(1902-2000)は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943年刊)が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館(磐梯町)に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

(ウ) 調査概要

磐梯町と福島県立博物館で昨年度に取り交わした協約書にもとづき、平成28年度も引き続き山口弥一郎旧蔵資料の整理を進めた。調査ノートや文書類について標題・年代等を目録化し、また写真撮影等を行った。

イ. 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古

(イ) 趣旨

I縄文時代後半期から弥生時代初頭とII古墳時代終末期から奈良時代(6世紀末～8世紀)の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

縄文時代では、南相馬市東町遺跡の複式炉土壌の水洗を行い、当時の周辺環境植生や燃料材や植物性食物の抽出を行い、量的に安定しているサンプルから周辺植生の把握に迫るデータを取得した。また県内出土

古人骨の安定同位体分析に着手した。弥生時代では熊本大学と共同で土器付着炭化種子同定のための3次元計測を実施した。古墳時代では、大熊町棚和子古墳出土土器のデジタル図化を委託により実施した。また会津坂下町長井前ノ山古墳の発掘調査報告書を刊行した(紀要に掲載)。また福島市梅本古墳出土象嵌刀装具の調査知見を学会にて口頭発表した。

ウ. 福島県産中生代軟体動物化石の研究

(ア) 分野 自然

(イ) 趣旨

福島県内には相馬地方にジュラ系相馬中村層群、いわき地方に白垂系双葉層群という中生代の地層が分布している。これらの地層からはアンモナイトや二枚貝や巻貝といった軟体動物化石を豊富に産することが知られ、特に近年は地元の化石収集家の努力によって多くの標本が発見されてきた。

しかし、これらの標本については鑑定が不十分なものもあり、論文などで発表されていないものも多い。そこで、これらの中生代軟体動物化石について鑑定内容を確認した上で成果を論文として記録・公表し、当館所蔵標本を充実させることを目指す。また、新たに追加した標本を展示する機会を設け、さらなる標本の発見・評価につなげる。

(ウ) 概要

相馬地方のジュラ系相馬中村層群の化石産地について現地調査を行った。現地調査の際には、特に巻貝のネリネア類の産状を確認、採取した。福島県立博物館に寄託されている巻貝化石について、写真撮影・鑑定作業を進めている。

エ. 戊辰戦争資料の研究

(ア) 分野 歴史

(イ) 趣旨

平成30年に戊辰戦争から150年の節目をむかえる。戦争の激戦地となり、日本の歴史が転換する舞台となった本県でも、改めて戊辰戦争の意義について問い直す必要がある。そのため戦争の経過及び戦後の復興過程までを対象として3年計画で資料調査を進め、新たな資料の発掘を行い、3年目

の平成30年には調査成果を盛り込んだ企画展の開催を目指す。

(ウ) 調査概要

研究の初年度となる平成28年度は、戊辰戦争を題材とした絵画資料、白虎隊士関係資料、斗南藩関係資料を中心に調査を実施し、これまであまり知られていなかった新資料の掘りおこしにつとめた。

(2) その他の調査研究事業

ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成28年度は、前年度に引き続き松崎達夫家寄贈資料（若松城下葉種問屋文書）の整理を継続して実施したほか、新たに久米幹男家寄贈資料（絵はがき類）・斎藤恵美子家寄託資料（会津藩士篠澤家文書）・安斎勇雄コレクション等の整理作業を行った。また整理済だが未登録であった会津藩家世実紀の登録・公開、登録済だが未公開であった福島義子家寄贈資料（喜多方市福島家文書）・山本重義寄贈資料（会津藩士山本家文書）・鈴木安信コレクションの公開も合わせて行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア. 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ア) 印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

阿部綾子 2016.4 「大須賀清光の生涯」『福島県立博物館企画展図録「大須賀清光の屏風絵と番付」』 p. 80-86 福島県立博物館

阿部綾子 2016.9 「保科家の歴史」『新宿区立新宿歴史博物館特別展図録「信州高遠藩歴史と文化」』 p. 68-70 新宿区立新宿歴史博物館

荒木 隆 2017.3 「ミュージアム・エデュケーターの視点で博物館活動を見直す」『福島県立博物館紀要』第31号 p. 1-60 福

島県立博物館

内山大介 2016.5 「町鳶をめぐる政策と民俗－東京・千住の鳶頭と地域社会の近現代－」『日本民俗学』第286号 p.1-33 日本民俗学会

内山大介 2016.10 「書評 矢田俊文・長岡市立中央図書館文書資料室編『新潟県中越地震・東日本大震災と災害史研究・史料保存－長岡市災害復興文庫を中心に－』」『新潟史学』第74号 p. 85-87 新潟史学会

内山大介 2016.12 「産育祈願の吊るし飾り－福島県会津地方のカサボコー」『民具研究』第154号 p. 37-48 日本民具学会

内山大介 2017.3 「書誌紹介 歴史春秋社編『柳津町』」『福島の民俗』第45号 p. 64-66 福島県民俗学会

大里正樹 2017.1 「あるくみるきく 会津の「お日市」を歩く」『まほら』第90号 p. 46-47 旅の文化研究所

大里正樹 2017.3 「会津のお日市に見る町と村の交流－津島講の事例から－」『福島の民俗』第45号 p. 28-40 福島県民俗学会

高橋 充 2016.11 「会津と相馬を行き交った人びと－戦国～江戸時代の日記・紀行文から－」『歴史春秋』第84号 p. 4-12 会津史学会

高橋 充 2017.3 「会津藩主松平家墓所に関する史料について」『史跡会津藩主松平家墓所保存整備事業報告書』p. 11-12 猪苗代町教育委員会

高橋 充 2017.3 「中世からの連続性」『棚倉町埋蔵文化財調査報告書』第26集「棚倉城跡」p. 101-107 棚倉町教育委員会

高橋 充 2017.3 「戦国の争乱と相馬氏」『原町市史 第1巻 通史編I「原始・古代・中世・近世」』p. 443-486 南相馬市

時枝 務・高橋 充 2017.3 「信夫山頂遺跡出土品の研究（5）」『福島県立博物館紀要』第31号 p. 93-109 福島県立博物館

Takahashi M. (高橋 満) 2016.8 To inherit the "Fukushima experience". The Eighth World Archaeological Congress Book of Abstracts, p. 349

高橋 満 2017.3 「ふくしま震災遺産保全プロジェクトの可能性－教育に震災遺産を－」『社会科研究』第46号 p. 6-23 福島県東北地区高等学校地理歴史・公民科（社会科）研究会

高橋 満 2017.3 『ふくしま震災遺産保全プロジェクト これまでの活動報告』ふくし

ま震災遺産保全プロジェクト実行委員会
真鍋健一・竹谷陽二郎 2017.3「序章 大地の生い立ち」『原町市史 第1巻 通史編 I 「原始・古代・中世・近世」』p. 1-24
南相馬市
佐藤 正・竹谷陽二郎・猪瀬弘瑛・橋本亮平
2017.3「相馬中村層群中ノ沢層の Haploceratids 群集 —新標本の追加—」『福島県立博物館紀要』第31号 p. 81-92
福島県立博物館

(イ) 学会発表

- 猪瀬弘瑛・田沢純一・兼子尚知 2017.1「福島県相馬の合ノ沢層から産するデボン紀腕足類 *Cyrtospirifer*」日本古生物学会第166回例会 於早稲田大学
- 内山大介 2016.12「活動紹介 ふくしま震災遺産保全プロジェクト」ふくしま震災遺産保全プロジェクトアウトリーチ事業 震災遺産を考えるⅢ仙台セッション トークイベント「残されたものの意味を探る」於せんだいメディアテーク
- 大里正樹 2016.6「会津のお日市について」福島県民俗学会平成28年度研究発表会 於郡山市歴史資料館
- 川延安直 2016.8.25「博物館をつなぐ—豊かな未来に向けて—」第64回全国博物館大会シンポジウム 於群馬音楽センター
- 杉崎佐保恵・高橋 満・松田隆嗣 2016.6「エックス線を用いた古墳出土象嵌刀装具の技法調査」日本文化財科学会第33回大会 於奈良大学
- 杉崎佐保恵・山崎正彦・松田隆嗣 2016.6「ガス検知管法を用いた博物館の常設展示室におけるアンモニアガスの動態調査」文化財科保存修復学会第38回大会 於東海大学
- 山崎正彦・松田隆嗣・杉崎佐保恵 2016.6「博物館展示室内測定位置における有機酸濃度の相違」文化財科保存修復学会第38回大会 於東海大学
- 高橋 充 2016.7「会津蘆名氏研究のこれまでとこれから」東北学院大学中世史研究会 於東北学院大学
- 高橋 満 2016.6.5「震災遺構・震災遺物と文化財」共同企画（ふくしま震災遺産保全プロジェクトアウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅢ」白河セッション）「震災遺産と文化財」プログラム2文化財講演会「震災遺産と文化財を考える」ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会・福島県文化振興財団 於福島県文化財センター白河館（まほろん）
- 高橋 満 2016.6.「ふくしま震災遺産保全プロジェクトの可能性—教育に震災遺産を—」福島県北地理歴史公民（社会科）研究会春季大会 県北地区高校地理歴史公民（社会科）研究会 於福島県立福島明成高校
- 鹿納晴尚・高橋 満・柴山明寛・藤沢敦 2016.6.30~7.1「ふくしま震災遺産保全プロジェクトとの連携展示「震災遺産を考える—ガレキから我歴へ」での3D デジタル震災遺構アーカイブ体験展示報告とその効果」第19回大学博物館等協議会・第11回博物科学会 大学博物館等協議会 於広島大学
- 高橋 満 2016.7「ふくしま震災遺産保全プロジェクトの可能性—教育に震災遺産を—」両沼中学校教育研究会第一次研究協議会 福島県中学校教育研究会両沼支部・福島県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会 於福島県立博物館
- 高橋 満 2016.8「ふくしま震災遺産保全プロジェクトの可能性—教育に震災遺産を—」第68回福島県高校地理歴史公民（社会科）研究会大会 福島県高校地理歴史公民（社会科）研究会 於福島県立博物館
- 高橋 満 2016.8 To inherit the "Fukushima experience" 第8回世界考古学会議セッション「福島からの声」世界考古学会議第8回京都大会実行委員会 於同志社大学
- 高橋 満 2016.9.7「ふくしま震災遺産保全プロジェクトの可能性—教育に震災遺産を—」「生き抜く力を育む」防災教育推進事業地区別協議会 福島県教育委員会 於郡山市労働福祉会館
- 高橋 満 2016.9.8「ふくしま震災遺産保全プロジェクトの可能性—教育に震災遺産を—」「生き抜く力を育む」防災教育推進事業地区別協議会 福島県教育委員会 於御蔵入交流館
- 高橋 満 2016.9.28「ふくしま震災遺産保全プロジェクトの取り組み」平成28年度会津美里町歴史講座「震災と文化財」第2回 会津美里町教育委員会 於福島県立博物館
- 高橋 満 2016.10.5「ふくしまの経験を継承する」双葉町生活学級 双葉町公民館 於福島県立博物館
- 高橋 満 2016.10.28「なぜ震災遺産を保全するのか」福島成蹊高校平成28年度社会科講演会 於福島成蹊高校

高橋 満 2016.11.11「ふくしまの経験を継承する」双葉町生活学級 双葉町公民館 於福島県立博物館

高橋 満 2017.1.20「震災遺産を保全する」東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム「震災から6年経過した震災アーカイブの進化と深化」国立国会図書館・東北大学災害科学国際研究所 於東北大学

高橋 満 2017.1.22「震災遺産を保全する」ふくしま震災遺産保全プロジェクトアウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅢ」明治大学セッション「震災遺産とふくしまの経験」シンポジウム「ふくしまの経験を語る・伝える」ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会 於明治大学

高橋 満 2017.1.27「被災文化財と震災遺産－記録・活用法の一つ一つ」平成28年度埋蔵文化財担当者研修会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団 於栃木県庁

佐藤 正・竹谷陽二郎・猪瀬弘瑛・橋本亮平 2017.1「相馬中村層群中ノ沢層のHaploceratids群集－新標本の追加－」日本古生物学会第166回例会 於早稲田大学

イ. 他団体による委嘱等

阿部綾子：青森県史編さん調査研究員 青森県

阿部綾子：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会

荒木 隆：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

荒木 隆：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員 湯川村教育委員会

猪瀬弘瑛：ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

内山大介：共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」共同研究員 国立歴史民俗博物館

内山大介：評議員 日本民具学会

内山大介：副委員長 会津の御田植祭調査委員会

内山大介：民俗調査研究員 三島町歴史文化基本構想推進委員会

内山大介：三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会

内山大介：会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会

内山大介：福島県民俗学会事務局 福島県民俗学会

内山大介：調査委員 小山市国選択無形民俗文化財間々田のジャガマイタ調査委員会

大里正樹：民俗調査研究員 三島町歴史文化基本構想推進委員会

大里正樹：三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会

大里正樹：福島県民俗学会事務局 福島県民俗学会

大里正樹：野田市史編さん調査研究員 野田市

川延安直：喜多方市美術館収集委員会委員 喜多方市教育委員会

川延安直：「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市美術館

川延安直：いわき市文化財保護審議委員会委員 いわき市教育委員会

川延安直：須賀川市文化財保護審議委員会委員 須賀川市教育委員会

川延安直：白河市文化財保護審議委員会委員 白河市教育委員会

川延安直：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学

川延安直：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町

川延安直：喜多方市文化芸術によるまちづくり座談会委員 喜多方市文化課

川延安直：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

小林めぐみ：福島芸術計画×Art Support TOHOKU-TOKYO 運営委員会委員 福島県、東京都

小林めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合

小林めぐみ：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町

小林めぐみ：会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員 公益財団法人会津若松文化振興財団

小林めぐみ：只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員 只見町ユネスコエコパーク推進協議会

小林めぐみ：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学

小林めぐみ：調査委員会委員 会津の御田植祭調査委員会

小林めぐみ：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

小林めぐみ：西会津町歴史文化基本構想等策定委員会委員 西会津町

佐治 靖：平安座の民俗と歴史研究 うるま

- 市平安座自治会
 佐治 靖：郡山市文化財保護審議委員会委員
 郡山市教育委員会
 佐治 靖：檜枝岐民俗誌編纂事業委員 檜枝
 岐村教育委員会
 佐治 靖：大規模複合災害における自治体・
 コミュニティの減災機能に関する社会的
 研究 日本学術振興会
 佐治 靖：災害復興における在来知—無形文
 化財の再生と記憶の継承 国立民族学博物
 館
 佐治 靖：課題研究懇話会「災害人類学」日
 本文化人類学会
 佐藤洋一：南会津町伝統的建造物群保存地区
 保存審議会委員
 高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員
 二本松市教育委員会
 高橋 充：向羽黒山城跡調査整備委員会委員
 会津美里町教育委員会
 高橋 充：原町市史編さん専門研究委員 南
 相馬市教育委員会
 高橋 充：相馬市史編さん調査執筆員 相馬
 市教育委員会
 高橋 充：会津藩主松平家墓所及び名勝会津
 松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市
 教育委員会
 高橋 充：会津藩主松平家墓所保存整備委員
 会委員 猪苗代町教育委員会
 高橋 充：阿津賀志山防塁調査・整備指導委
 員会委員 国見町教育委員会
 高橋 充：伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策
 定委員会委員 伊達市教育委員会
 高橋 充：棚倉城跡調査指導委員会委員 棚
 倉町教育委員会
 高橋 充：会津坂下町史編さん委員会委員
 会津坂下町
 高橋 充：北塩原村城館等保存・整備・活用
 検討委員会委員 北塩原村教育委員会
 高橋 充：小峰城跡石垣検討委員会委員 白
 河市
 高橋 充：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委
 員会委員 湯川村教育委員会
 高橋 充：日本学術振興会「中世・近世移行
 期における守護所・城下町の総合的研究」
 大阪市立大学
 高橋 満：会津坂下町史編さん委員 会津坂
 下町教育委員会
 高橋 満：「日本先史文化の多視点的研究」
 研究推進員 明治大学
 高橋 満：「ふくしま震災遺産保全プロジェ
 クト」実行委員会事務局ゼネラルマネー
 ジャー 同実行委員会
 高橋 満：富岡町アーカイブ施設検討町民会
 議委員（会長）富岡町
 高橋 満：東日本大震災・原子力災害アーカ
 イブ拠点施設基本構想策定に係る検討会議
 オブザーバー 福島県
 竹谷陽二郎：原町市史編さん専門委員 南相
 馬市教育委員会
 竹谷陽二郎：南相馬市博物館協議会委員 南
 相馬市博物館
 竹谷陽二郎：南相馬市博物館「小高の自然」
 調査員 南相馬市博物館
 竹谷陽二郎：磐梯山ジオパーク協議会運営委
 員長 磐梯山ジオパーク協議会
 竹谷陽二郎：ジオパーク支援委員 日本地質
 学会
 竹谷陽二郎：ふくしまサイエンスぷらっとフ
 ォーム運営協議会委員
 竹谷陽二郎：サポートセンター員 福島大学
 うつくしまふくしま未来支援センター
 田中 敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂
 下町教育委員会
 田中 敏：福島県考古学会理事 福島県考古
 学会
 田中 敏：郷土研究奨励賞選考委員 会津若
 松市教育委員会
 田中 敏：喜多方市立美術館運営協議会委員
 喜多方市教育委員会
 藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員
 会津若松市教育委員会
 藤原妃敏：原町市史編さん専門研究委員 南
 相馬市教育委員会
 藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津美
 里町教育委員会
 藤原妃敏：喜多方市文化財保護審議委員会委
 員 喜多方市教育委員会
 藤原妃敏：笹山原No.16遺跡調査指導委員
 郡山女子短期大学
 藤原妃敏：福島県考古学会副会長 福島県考
 古学会
 藤原妃敏：南相馬市博物館運営協議会委員
 南相馬市博物館
 藤原妃敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂
 下町教育委員会
 森 幸彦：原町市史編さん委員 南相馬市教
 育委員会
 森 幸彦：三島町歴史文化基本構想策定委員
 会文化財調査部会委員 三島町
 森 幸彦：福島県の森林文化に係わる調査検

討委員会委員 福島県森林文化課

ウ. 研究助成金等

杉崎佐保恵：独立行政法人日本学術振興会
平成27年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（奨励研究）〔平成28年度分〕

研究テーマ「臨海の遺跡から出土した金属製象嵌遺物の崩壊過程の解明と新たな保存方策の創出」

杉崎佐保恵：独立行政法人日本学術振興会
平成28年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（奨励研究）

研究テーマ「古墳から出土した金属製象嵌刀装具の劣化機構の解明と保存修復への展開」

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。平成28年度の各講座開催数は120、総参加者数は8,229人であった。

前年度（平成27年度）の開催回数は116回で今年度は4回多かった。総参加者数は前年度7,295人で、934人の増加、前年比113%であった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

平成28年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 館長講座	12	598
(2) 考古学講座	10	160
(3) 民俗講座	3	75
(4) 歴史講座	5	342
(5) 自然史講座	1	6
(6) 保存科学講座	1	6
(7) ギャラリートーク	6	69
(8) 指導者向け研修（中止）	0	0
(9) 実技講座	5	69
(10) 実演	2	66
(11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）	27	1,335
(12) ミュージアムイベント	7	1,125
(13) 30周年記念イベント	17	2,250
(14) 復興応援パートナー事業	2	256
(15) 博学連携事業	5	110
(16) 共催事業	2	422
(17) 後援事業	7	621
(18) 企画展・特集展内覧会（友の会）	8	719
計	120	8,229

平成28年度講座・講演会等行事一覧

(1) 館長講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
館長講座1 『みんなで、明日の博物館について語ろう』① ～博物館設立の経緯と考え方を聴く～	赤坂憲雄（館長） 鈴木 啓（初代学芸課長） 高橋 充（学芸員）	4月21日（木）	45
館長講座2 『みんなで、明日の博物館について語ろう』② ～博物館を支えてくれた人たちの声～	赤坂憲雄（館長） 芳賀幸雄（友の会長） 鈴木幸治（前友の会長） 佐藤弘子（元友の会長） 田中 敏（学芸課長）	5月19日（木）	38
館長講座3 「みんなで、明日の博物館について語ろう」③ ～震災遺産と博物館～	赤坂憲雄（館長） 高橋 満（学芸員）	6月16日（木）	42
館長講座4 「みんなで、明日の博物館について語ろう」④ ～福島県の自然史博物館のあり方と県立博物館の役割～	赤坂憲雄（館長） 黒沢高秀（福島大学教授） 竹谷陽二郎・猪瀬弘瑛（学芸員）	7月21日（木）	48
館長講座5 「みんなで、明日の博物館について語ろう」⑤ ～学校教育の中での博物館の役割～	赤坂憲雄（館長） 荒木隆・江川トヨ子（学芸員）	8月18日（木）	35
館長講座6 「みんなで、明日の博物館について語ろう」⑥ ～「近世」・「近代」の展示を再考する～	赤坂憲雄（館長） 阿部綾子・栗原祐斗（学芸員）	9月15日（木）	40

(1) 館長講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
館長講座7 「みんなで、明日の博物館について語ろう」⑦ 博物館と地域～三十三観音めぐりでつなぐ会津仏教文化～	赤坂憲雄 (館長) 堀口一彦 (にしあいづ観光交流協会) 塚本麻衣子 (学芸員)	10月20日(木)	54
館長講座8 「みんなで、明日の博物館について語ろう」⑧ 拡張する博物館～会津・漆の芸術祭から森のはこ舟アートプロジェクトまで～	赤坂憲雄 (館長) 伊藤達矢 (東京藝術大学特任准教授) 小林めぐみ (学芸員)	11月17日(木)	43
館長講座9 「みんなで、明日の博物館について語ろう」⑨ 基本に立ち返る博物館～博物館の資料と展示とは～	赤坂憲雄 (館長) 内山大介 (学芸員)	12月15日(木)	45
館長講座10 「東日本大震災を考える」① ～会津から見た被災地～	赤坂憲雄 (館長) グローバルリーダー育成事業アメリカ研修生 (県立会津高等学校)	1月19日(木)	63
館長講座11 「東日本大震災を考える」② ～アートでつなぐはま・なか・あいづ 震災とアート、そして対話～	赤坂憲雄 (館長) 川延安直 (学芸員)	2月23日(木)	81
館長講座12 「東日本大震災を考える」③ ～県外避難者のいま～	赤坂憲雄 (館長) 渡邊浩二 (地域活動サポートセンター 柏崎) 筑波匡介 (中越沖地震メモリアル「まちから」)	3月23日(木)	64

(2) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
考古学講座「縄文土器を作ろう」1	森 幸彦 (学芸員)	8月6日(土)	9
考古学講座「縄文土器を作ろう」2	森 幸彦 (学芸員)	8月7日(日)	9
考古学講座「縄文土器の野焼き」	森 幸彦 (学芸員)	10月2日(日)	15
考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」	高橋 満 (学芸員)	3月25日(土)	20
考古学講座「交通路からみた古墳時代」	荒木 隆 (学芸員)	11月23日 (水・祝)	35
交流会「サロンD 考古学 1」	荒木 隆 (学芸員)	5月14日(土)	14
交流会「サロンD 考古学 2」	荒木 隆 (学芸員)	7月9日(土)	12
交流会「サロンD 考古学 3」	荒木 隆 (学芸員)	9月10日(土)	11
交流会「サロンD 考古学 4」	荒木 隆 (学芸員)	11月19日(土)	14
交流会「サロンD 考古学 5」	荒木 隆 (学芸員)	1月14日(土)	10
交流会「サロンD 考古学 6」	荒木 隆 (学芸員)	3月5日(土)	11

(3) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
「なぜ敷居を踏んではいけないの？～あの世とこの世の民俗入門～」	大里正樹 (学芸員)	11月12日(土)	30
「大正月と小正月ってなにが違うの？～正月行事の民俗入門～」	江川トヨ子 (学芸員)	12月18日(日)	25
「雛人形を早く片づけないと婚期が遅れるの？～節句の民俗入門～」	内山大介 (学芸員)	1月21日(土)	20

(4) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
幕末維新期の人物① 「石」を愛した会津藩士・田村三省	高橋 充 (学芸員)	2月4日(土)	70
幕末維新期の人物② 「知られざる斗南藩権大参事・原田五郎右衛門」	阿部綾子 (学芸員)	2月18日(土)	81

(4) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
幕末維新期の人物③ 「幕府の儒者とその弟子の活躍・安積良斎と中村正直」	佐藤洋一（学芸員）	2月25日（土）	68
幕末維新期の人物④ 「三春藩出身の自由民権家・河野広中」	栗原祐斗（学芸員）	3月4日（土）	65
幕末維新期の人物⑤ 「ふくしまの医療人ー近代医学の発展に貢献した人々ー」	田中伸一（学芸員）	3月18日（土）	58

(5) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
移動講座「化石をさがそう」（中止）	猪瀬弘瑛ほか（学芸員）	9月18日（日）	
移動講座「化石標本をつくろう」（中止）	香内修ほか（学芸員）	9月19日 （月・祝）	
野外講座「鶴ヶ城の野鳥」	古川裕司（野鳥研究家）	11月13日（日）	6

(6) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
高校生向け「文化財保存のための科学」	杉崎佐保恵（学芸員）	5月21日（土）	6

(7) ギャラリートーク

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然① 「縄文時代のふくしま」	荒木 隆（学芸員）	4月9日（土）	12
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然② 「弥生時代のふくしま」	荒木 隆（学芸員）	6月11日（土）	10
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然③ 「古墳時代のふくしま」	荒木 隆（学芸員）	8月13日（土）	11
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然④ 「奈良・平安時代のふくしま」	荒木 隆（学芸員）	10月8日（土）	13
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然⑤ 「鎌倉・室町時代のふくしま」	荒木 隆（学芸員）	12月10日（土）	12
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然⑥ 「江戸時代のふくしま」	荒木 隆（学芸員）	2月11日（土）	11

(8) 指導者向け研修

テーマ	講 師	期 日	参加人数
博物館利用指導者研修会（中止）	田中伸一ほか（学芸員）	8月3日（水）	

(9) 実技講座

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
唐人凧ってなんだ？「ぶかぶか唐人凧をつくろう」	斎藤歩美（山形大学工芸研究室）	4月30日（土）	12
「須賀川の絵のぼり・小旗をつくろう」	大野青峯・大野久子 （伝統技術保持者）	5月5日 （木・祝）	13
会津・三島の編み組み細工「ヒロロの小物入れ作り」	角田キイ子・海老名一子 （伝統技術保持者）	7月9日（土）	10
会津・三島の編み組み細工「ヒロロの小物入れ作り」	角田キイ子・海老名一子 （伝統技術保持者）	7月10日（日）	10
唐人凧ってなんだ？「唐人和凧をつくろう」	斎藤歩美（山形大学工芸研究室）	7月24日（日）	14
「縄文時代の編み物を再現しよう！」	本間一恵（バスケットリー作家）	1月15日（日）	10

(10) 実演

テーマ	講師	期 日	参加人数
「大堀相馬焼の絵付け」	山田慎一（大堀相馬焼窯元 いかりや商店白河工房）	6月19日(日)	41
「昔語り」	横山幸子（語り部）	9月17日(土)	25

(11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	4月23日(土)	20
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント「めがせ江戸！清光の絵で道中すごろく」	阿部綾子（学芸員）	5月3日 (火・祝)	56
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント「みんなで仕上げる清光作品 若松城下ドリ ームプラン」	阿部綾子（学芸員）	5月4日 (水・祝)	14
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント「江戸の番付で良妻チェック」	阿部綾子（学芸員）	5月15日(日)	10
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	5月15日(日)	20
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント「清光の挿絵で読む！メイドイン会津の教訓 書」	阿部綾子（学芸員）	5月28日(土)	42
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	5月28日(土)	28
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	6月11日(土)	20
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 記念講演会『江戸城登城風景図屏風を読み解 くー江戸の名所“下馬先”とはなにか？ー』	岩淵令治(学習院女子大学教授)	6月12日(日)	77
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	相田 優他2名(学芸員)	7月23日(土)	2
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	相田 優他2名(学芸員)	7月30日(土)	7
特集展関連映画会「大いなる南極大陸」	相田 優(学芸員)	7月31日(日)	45
特集展記念講演会「南極観測と基地生活の思い出」	小元久仁夫(日本大学名誉教 授・元南極観測隊員)	8月7日(日)	49
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	小元久仁夫(日本大学名誉教 授・元南極観測隊員)	8月7日(日)	35
特集展関連映画会 「南極大陸の新たな幕開け」・「白い大陸からのメッセージ」	香内 修(学芸員)	8月13日(土)	30
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	相田・香内・猪瀬(学芸員)	8月14日(日)	7
特集展関連イベント 「アクアマリンふくしま移動水族館アクアラバン展示」	アクアマリンふくしま	8月21日(日)	548
特別展「新たな国民のたからー文化庁購入文化財展ー」 オープニングセレモニー	高橋 満(学芸員)	9月3日(土)	22
特別展「新たな国民のたからー文化庁購入文化財展ー」 解説会	今井 敦(文化庁主任調査官)	9月3日(土)	60
特別展「新たな国民のたからー文化庁購入文化財展ー」 記念講演会『〈上杉景勝御手撰三十五腰〉とは何か？』	角屋由美子 (米沢市上杉博物館学芸員)	9月3日(土)	92
特集展「収蔵庫からこんにちはー福島県立博物館収蔵名品展」 リレー展示解説会	当館学芸員	10月15日(土)	10
特集展「収蔵庫からこんにちはー福島県立博物館収蔵名品展」 記念講演会『原山一号墳の発掘調査』	辻 秀人(東北学院大学教授)	10月29日(土)	22
特集展「収蔵庫からこんにちはー福島県立博物館収蔵名品展」 関連 食のイベント「祝いの器・寿ぎの食」	平出美穂子・中山晴奈・ 小林めぐみ	10月30日(日)	17

(11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テーマ	講師・所属等	期 日	参加人数
特集展「収蔵庫からこんにちはー福島県立博物館収蔵名品展」 リレー展示解説会	当館学芸員	11月3日 (木・祝)	18
テーマ展関連講演会「カエルに惹かれる理由とカエルグッズ を集める楽しみ」	高山敬子・高山ビッキ (100年カエル館学芸員)	11月5日(土)	30
特集展「収蔵庫からこんにちはー福島県立博物館収蔵名品展」 リレー展示解説会	当館学芸員	11月13日(日)	13
特集展「収蔵庫からこんにちはー福島県立博物館収蔵名品展」 関連トークイベント 「絵馬が語る地域の歴史」	須賀川知る古会	11月26日(土)	41

(12) ミュージアムイベント

テーマ	講 師	担当者	期 日	参加人数
玄如節と日本の民謡	玄如節顕彰会	内山大介・大里正樹	6月25日(土)	105
夏休み子ども野外映画会 「天空の城ラピュタ」		小林めぐみ 他2名	7月18日 (月・祝)	214
会津磐梯山・市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会	内山大介 他3名	8月15日(月)	330
夏休みナイトミュージアム	当館学芸員	相田 優 他4名	8月20日(土)	76
ハワイアン in けんぱく	モハル・ハワイアンズ	香内 修 他2名	8月27日(土)	163
親子でやすらぐ子守唄コンサート	日本子守唄協会	江川トヨ子 他2名	10月28日(金)	52
クリスマスクラシックコンサート	fl. 市島徹 vio. 常光今日子 pia.津山博子 語り渡辺奈菜	杉崎佐保恵 他2名	12月17日(土)	185

(13) 30周年記念イベント

テーマ	講 師	担当者	期 日	参加人数
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ①』	荒木 隆	学芸員	4月16日(土)	15
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ②』	荒木 隆	学芸員	6月18日(土)	11
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ③』	荒木 隆	学芸員	8月20日(土)	17
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ④』	荒木 隆	学芸員	10月22日(土)	20
『けんぱく暗闇探検隊 ①』	荒木 隆	学芸員	5月7日(土)	17
『けんぱく暗闇探検隊 ②』	荒木 隆	学芸員	7月2日(土)	41
『けんぱく暗闇探検隊 ③』	荒木 隆	学芸員	9月3日(土)	30
『けんぱく暗闇探検隊 ④』	荒木 隆	学芸員	11月5日(土)	32
『探検！けんぱく七不思議』	荒木 隆	学芸員	7月～3月	1,200
『けんぱく川柳～ひねってみました』	荒木 隆	学芸員	4月～3月	61
『おめでとう けんぱく！開館30周年記念式典』		総務課	10月15日(土)	185
対談『ことばの力 文化の力 復興の力』	赤坂憲雄・やすみりえ	森 幸彦・荒木 隆	10月15日(土)	68
『けんぱく感謝祭1ー東山芸妓さんと祝う けんぱく30年』	東山芸妓組合	美術分野	10月15日(土)	150
『作って！見て！感じる！ふくしま技の世界』 (実技・実演フェスティバル)	伝統技術保持者	民俗分野・歴史分野	10月16日(日)	133
『博物館でも読み聞かせ』	読み聞かせボランティア	荒木 隆	10月16日(日)	25
30周年記念『会津鶴ヶ城太鼓 若駒会』祝賀公演	会津鶴ヶ城太鼓 若駒会	学習支援班	10月16日(日)	70
『けんぱく感謝祭2ー博物館の新たな門出を 獅子ステップで祝おう』(会津彼岸獅子)	本滝沢獅子舞保存会	佐治 靖・荒木 隆	3月12日(日)	175

(14) 復興応援パートナー事業

テーマ	主催	講師・所属等	期 日	参加人数
映画上映会&トークイベント 『福島桜紀行』	『福島桜紀行』上映実行委員会	映画監督 鈴木 喬 浪江町商工会長 原田雄一 NPOはるなか理事長 佐藤光信	4月23日(土)	46
2017ふくしま復興の集いinあいづ	福島県会津地方振興局		3月11日(土)	210

(15) 博学連携事業

テーマ	主催	担 当	期 日	参加人数
会津大学ソフトウェアスタジオ館内見学会	会津大学	高橋 充・森 幸彦	5月6日(金)	20
若松四中美術部コラボ「むかしの町とそこに 生きた人々の様子を描こう」	会津若松市立第四中学校	江川トヨ子・大里正樹	5月31日(火)	27
若松四中美術部コラボ「ドキドキ土器作り」	会津若松市立第四中学校	江川トヨ子・森 幸彦	7月2日(土)	27
会津大学ソフトウェアスタジオ成果発表会	会津大学	高橋 充・森 幸彦	7月29日(金)	20
若松一中美術部コラボ「土偶作り」	会津若松市立第一中学校	江川トヨ子・森 幸彦	9月3日(日)	16

(16) 共催事業

テーマ	主催	講師・所属等	期 日	参加人数
東日本大震災復興祈念～東北新聞五社事業協 議会連携企画～ 藤森武写真展関連講演会「藤森武が出会った ふくしまの仏像と文化」	東北新聞五社事業協議会	写真家 藤森 武	9月4日(日)	120
ポケモン映画上映会 「ボルケニオンと機巧のマジアナ」	ポケモン映画制作委員会 「ピカチュウプロジェクト」		2月26日(日)	302

(17) 後援事業

テーマ	主催	講師・所属等	期 日	参加人数
「奈良と会津1200年の絆」	奈良と会津1200年の 絆」実行委員会		4月24日(日)	168
全会津公立小中学校事務職員研究協議会総 会・研修会	全会津公立小中学校 事務研究協議会		6月17日(金)	110
福島県自然史博物館設立推進協議会総会	福島県自然史博物館 設立推進協議会		7月21日(木)	20
会津史学会歴史文化講演会 「会津が生んだ 炎の名僧・日什大正師」	会津史学会	教胤寺(千葉) 小松正学氏	11月6日(日)	53
会津民俗学会公開講演 「東山廃村に生きた 女性の半生」	会津民俗学会	滝沢洋之 長郷寅二 吉田邦吉	11月20日(日)	145
会津史談会公開文化史講座 「三十三観音の いま、むかし」	会津史談会	当館学芸員 塚本麻衣子	11月25日(金)	61
平成28年度土木学会選奨土木遺産の認定受 賞式・記念フォーラム	土木学会	鉄道総合技術研究所 小野田 滋 他	12月10日(土)	64

(18) 企画展・特集展内覧会等(友の会)

テーマ	主催	講師・所属等	期 日	参加人数
企画展 『幕末!若松!喜松? 大須賀清光 の屏風絵と番付』内覧会	歴史分野	阿部綾子	4月22日(金)	50
特集展 『南極の自然と南極観測』内覧会	自然分野	相田 優	7月15日(金)	60
特別展 『新たな国民のたからー文化庁購入 文化財展ー』展示解説会	分野合同	当館学芸員	9月3日(土)	60
特集展 『収蔵庫からこんにちは』内覧会	分野合同	当館学芸員	10月14日(金)	6

(18) 企画展・特集展内覧会等（友の会）

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
友の会イベント 会津室内楽団アンサンブル「Coderanni」コンサート	博物館友の会		9月18日(日)	170
友の会イベント 30周年記念イベント県博友の会映画祭「ナイトミュージアム エジプト王の秘密」・「超高速!参勤交代」	博物館友の会		10月1日(土)	303
友の会イベント 30周年記念イベント「化石発掘探検活動・鉱物ミニ展示会」	博物館友の会		10月2日(日)	40
友の会イベント 30周年記念イベント「古文書愛好会 古文書解説学習会」	博物館友の会		10月2日(日)	30



館長講座①「みんなで、明日の博物館について語ろう①」



実技講座「ぷかぷか唐人凧をつくろう」



館長講座⑧「みんなで、明日の博物館について語ろう⑧」



実技講座「小旗をつくろう」



館長講座⑫「東日本大震災を考える③」



30周年記念イベント「のぞいてみよう!けんぱくの裏側」



ミュージアムイベント「夏休み子ども野外映画会」



30周年記念イベント 対談「伝統を現代に生かす」



特集展関連イベント
「アクアマリンふくしま移動水族館アクアラバン」



ギャラリートーク「縄文時代のふくしま」



友の会イベント
「会津室内楽団アンサンブル・Coderanniコンサート」



ミュージアムイベント「会津磐梯山・市民盆踊り」



ミュージアムイベント
「親子でやすらぐ子守唄コンサート」



復興応援パートナー事業
「ふくしま復興への想いを込めて2017from会津①」



民俗講座「おもしろ民俗学ゼミナール なぜ敷居を踏んではいけないの？」



復興応援パートナー事業
「ふくしま復興への想いを込めて2017from会津②」



実技講座「縄文時代の編み物を再現しよう！」



考古学講座「勾玉・ガラス玉をつくろう」

(2) 学校・文化施設との連携

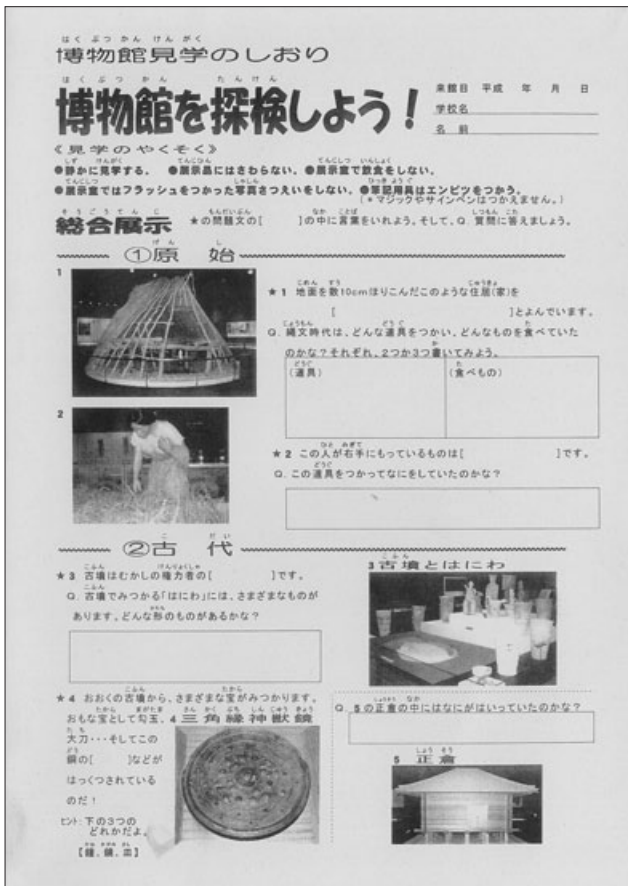
各種学校および文化施設との連携を図りながら、次の事業を展開した。

ア. 展示室での自主学習

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、発達段階や見学の目的などに応じた2種類のワークシートを準備している。

(ア) 博物館見学のしおり (小・中学生用)

常設展示室の展示資料を見る際のポイントを与えるように設問形式で構成されており、書き込みながら学べるようになっている。児童・生徒は自分のペースで見学し、自由な考察ができる。個人および団体来館する小・中学生全員に受付で配布している。



博物館見学のしおり

(イ) ワークシート

小学校高学年から中学生向けに作成されていて、常設展示を構成する6つの大テーマに沿うかたちで、展示室内の主要な資料を題材に取り上げている。当館ホームページからダウンロードすることによって、学習の目的に応じて選択し利用できる。



ワークシート

イ. 団体体験学習プログラム

児童・生徒が博物館の資料を用いながら体験をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効である。当館では入館団体の多様なニーズに対応すべく、事前申込制による「原始・古代のワザに挑戦 (考古分野)」「化石にふれてみよう (自然分野)」「紙すきハガキづくり (民俗分野)」「昔の道具体験 (民俗分野)」「度量衡の統一と農民の暮らし (歴史分野)」の5つの団体体験学習プログラムを準備している。昨年度同様、小学3年生の授業と連動した内容となっている「昔の道具体験」は実施回数、人数とも増加した。

○体験学習プログラム実施状況

「原始・古代のワザに挑戦 (考古分野)」

8回 233名

〔・勾玉づくり 6回 197名〕
〔・石器で切ってみよう 2回 36名〕

「化石にふれてみよう (自然分野)」

1回 27名

「昔の道具体験 (民俗分野)」 13回 419名

「度量衡の統一と農民の暮らし (歴史分野)」

2回 39名

合計 24回 718名

(企業研修等を除く)



体験学習「原始・古代のワザに挑戦 石器で切ってみよう」



体験学習「昔の道具体験」

ウ. 指導者向け研修

学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施している。団体体験

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科 目
6月1日	高橋 充	歴史	蒲生氏郷について	福島県立若松商業高等学校	総合的な学習の時間
6月8日	高橋 充	歴史	若松城下の町と商業	福島県立若松商業高等学校	総合的な学習の時間
7月5日	小林めぐみ	美術	会津の漆器	福島県立会津学鳳高等学校	総合的な学習の時間
7月20日	相田 優	自然	博物館資料論	福島大学	講義
10月5日	森 幸彦	考古	縄文時代の三島	三島町立三島中学校	総合的な学習の時間
10月21日	内山 大介	民俗	まちの歴史と地域の宝 ～三島町の年中行事～	三島町立三島中学校	総合的な学習の時間
2月7日	内山 大介 大里 正樹 江川トヨ子	民俗	昔の道具	会津若松市立城北小学校	総合的な学習の時間

学習プログラムを実際に体験してもらうことにより、当館の学習支援活動への理解を深め、学校や公民館の諸活動における活用の推進を図っている。今年度は8月3日(水)に実施予定であったが、申込者が1名であったため、やむなく中止となった。

エ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。

○学習用具・教材等の貸出実績

- ・「キト」のパネル 1点
福島県立川口高等学校
- ・縄文時代生業のパネル 1点
福島県立川口高等学校
- ・縄文服復元 1点
福島県立川口高等学校
- ・動物毛皮 1点
福島県立川口高等学校
- ・弓矢 1点
福島県立川口高等学校
- ・シカ角 1点
福島県立川口高等学校

オ. ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

カ. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。平成28年度は8校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。

○職場体験受け入れ実績（児童・生徒のみ）

- ・福島県立若松商業高等学校
（2年生：4名） 3日間
- ・会津若松市立第一中学校
（2年生：5名） 2日間
- ・会津若松市立第四中学校
（2年生：2名） 3日間
- ・会津若松市立第六中学校
（2年生：2名） 2日間
- ・会津若松市立一箕中学校
（2年生：5名） 2日間
- ・会津若松市立河東中学校
（2年生：2名） 3日間
- ・湯川村立湯川中学校
（2年生：3名） 2日間
- ・会津若松市立謹教小学校
（6年生：7名） 1日間



「職場体験「考古資料の取り扱い」

キ. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。平成28年度は県内出身および県内大学に在学する学生6名を受け入れた。演習「体験学習メニューの企画立案」では、新しい体験学習メニューを企画した。実際に実施することを想定しながら、プレゼンテーション形式で発表したのち積極的な意見交換を行うことができた。

実習期間 8月23日（火）～8月28日（日）



職場体験「美術資料の取り扱い」

実習生所属大学一覧

No	大 学 名	人数
1	神奈川工科大学	1
2	郡山女子大学短期大学部	1
3	駒沢大学	1
4	帝京大学	1
5	東京造形大学	1
6	山形県立米沢女子短期大学	1
	合 計	6

福島県立博物館 平成28年度博物館実習日程・内容

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
8月 23日 (火)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:00～9:10	実習生紹介	学習支援班	事務室
	9:10～9:40	オリエンテーション	学習支援班	第2会議室
	9:50～12:00	事業の概要・博物館の学習支援活動	学芸課長・学習支援班	視聴覚室
		－昼食－		
	13:00～13:30	博物館の資料と調査研究	資料整理・保存班	第2会議室
	13:30～14:00	博物館の広報普及活動	広報班	第2会議室
	14:00～14:30	博物館の展示	展示・企画班	第2会議室
	14:40～16:00	バックヤード見学・常設展の自由見学	学習支援班	展示室・管理棟
	16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第2会議室

福島県立博物館 平成28年度博物館実習日程・内容

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
24日 (水)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	歴史資料の取り扱い	歴史分野	第2会議室
	—昼食—			
	13:00～15:50	民俗資料の取り扱い	民俗分野	第1収蔵庫ほか
	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理・保存班	図書室
	16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班	第2会議室
25日 (木)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	自然資料の取り扱い	自然分野	実習室
	—昼食—			
	13:00～15:50	考古資料の取り扱い	考古分野	実習室
	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理・保存班	図書室
26日 (金)	16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班	第2会議室
	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	美術資料の取り扱い	美術分野	第2会議室
	—昼食—			
	13:00～15:50	資料の保存	保存科学分野	実習室
27日 (土)	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理班	図書室
	16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班	第2会議室
	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	演習① (体験学習メニューの体験)	学習支援班・考古分野	実習室
	—昼食—			
28日 (日)	13:00～16:20	演習② (前時の続き・体験メニューの企画立案)	学習支援班	実習室
	16:30～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第2会議室
	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	演習③ (体験メニューの企画立案・発表準備)	学習支援班	実習室
	—昼食—			
	13:00～15:30	演習④ (発表・意見交換)	学習支援班	実習室
	15:30～16:00	実習を終えて (感想・意見交換)	学習支援班	実習室
16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班	実習室	



博物館実習「歴史資料の取り扱い」



博物館実習「民俗資料の取り扱い」

(3) 生涯学習・研究支援

ア. 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物、および博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,660冊である。

相談コーナーは、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場としても利用される。

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：5件89点 歴史：21件931点

美術：2件15点 民俗：2件87点

自然：2件4点

ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

平成28年度の派遣回数は20回であった。

講師派遣一覧

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
1	5月17日	高橋 充	歴史	会津の三十三観音	会津坂下町教育委員会
2	5月22日	香内 修	自然	危険箇所調査・地質説明会	慶山自主防災会
3	5月26日	荒木 隆	考古	文化財を整備するとは	福島県史跡整備市町村協議会
4	6月10日	高橋 充	歴史	ふくしまゆかりの戦国武将	会津美里町公民館
5	7月2日	高橋 充	歴史	会津三十三観音と喜多方	喜多方市教育委員会
6	7月16日	内山 大介	民俗	吊るし飾りと女性の祈り	福島県退職公務員連盟安達支部
7	7月24日	塚本麻衣子	美術	新宮熊野神社の宝物	喜多方市教育委員会
8	7月26日	阿部 綾子	歴史	江戸時代の絵暦に挑戦	二本松公民館
9	8月1日	相田 優 猪瀬 弘瑛 香内 修	自然	化石発掘体験	ふくしま森の科学体験センター
10	8月24日	森 幸彦	考古	震災と文化財	会津美里町教育委員会
11	8月25日	荒木 隆	考古	会津の歴史に関すること	磐梯町教育委員会
12	9月24日	高橋 充	歴史	奥州棚倉藩評定	棚倉町教育委員会
13	10月6日	荒木 隆	考古	会津の歴史に関すること	磐梯町教育委員会
14	10月26日	高橋 充	歴史	震災と文化財	会津美里町教育委員会
15	10月29日	高橋 充	歴史	奥羽仕置の実像	福島県文化財センター白河館
16	10月30日	高橋 充	歴史	城跡を掘る I 城跡研究のいま	福島県文化財センター白河館
17	11月2日	高橋 満	考古	中島村「四穂田古墳出土品」特別展示	中島村教育委員会
18	11月3日	高橋 満	考古	中島村「四穂田古墳出土品」特別展示	中島村教育委員会
19	11月22日	高橋 充	歴史	戦国初期の棚倉	棚倉町教育委員会
20	12月20日	高橋 充	歴史	会津の三十三観音	会津坂下町教育委員会

(4) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア. 友の会の概要

①発足 平成元年3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

平成29年3月2日に開催した。平成28年度の事業・会務・会計決算等の報告と平成29年度の計画を協議し、承認された。また、各サークルの活動・会計の報告が行われた。

④平成28年度会員数

個人会員：206 家族会員：56
 高校生会員：0 賛助会員：4
 合計：266名

10月1日（土）：映画祭
 午前「ナイトミュージアム」 116名参加
 午後「超高速！参勤交代」 187名参加
 10月2日（日）：友の会文化祭
 「化石・鉱物探検隊－化石を掘り出そう」
 40名参加
 「古文書愛好会－古文書解読会」 30名参加

イ. 平成28年度事業概要

(ア) 研修旅行

春の研修旅行を実施した。新緑の信州をめぐる有意義な研修となった。特に戦争は絶対にしてはならないと再認識した無言館・松代大本営跡など、大変心に残る旅となった。

秋は、最低人員に達せずやむなく中止となった。

- 「春の研修旅行」『信州の武家文化を訪ねて・歴史巡りと戸倉上山田温泉の旅』
 研修先：小諸城址・懐古園、無言館、上田城跡公園・長野市立博物館、松代大本営跡、長野県立歴史館、野尻湖ナウマンゾウ博物館

期 日：平成28年5月26日～27日

参加者：30名

- 「秋の研修旅行」『多賀城・石巻 歴史と被災地復興をめぐる旅』（中止）

(イ) 会報の発行

第109号・第110号・第111号と第112号の合併号と合わせて3回の会報を発行し会員に配布した。友の会サークル活動の様子や県立博物館30周年記念イベント「友の会映画祭」「サークルの文化祭」の報告、さらに私のライフワークの紹介など会員の顔が見える紙面作りに努めた。

(ウ) 博物館事業への協力

- 博物館展示観覧

平成28年度友の会会員入館者数

常設展 213件 企画展 121件

- 友の会会員向け企画展内覧会への参加

4月22日（金）：「大須賀清光の屏風絵と番付」内覧会 50名参加

7月15日（金）：「南極の自然と南極観測」内覧会 60名参加

9月3日（土）：「新たな国民のたから」内覧会 60名参加

10月14日（金）：「収蔵庫からこんにちは」内覧会 6名参加

- 博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

- 県立博物館30周年記念イベント

9月18日（日）：会津管弦楽団Coderanni
 コンサート 170名参加



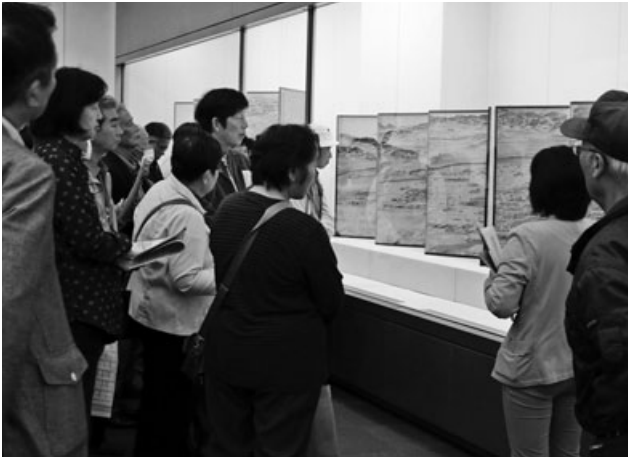
春の研修旅行「懐古園」



春の研修旅行「松代大本営跡」



春の研修旅行「野尻湖ナウマン象博物館」



「大須賀清光の屏風絵と番付」友の会内覧会



「収蔵庫からこんにちは」友の会内覧会



「南極の自然と南極観測」友の会内覧会



「新たな国民のたから」友の会内覧会

ウ. サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の2サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

1. 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数28名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

平成28年度は次の活動を行った。

- ① 4月17日 丸中白土での植物化石採集
- ② 5月15日 山都・川入での鉱物採集
- ③ 6月12日 銚子滝での鉱物採集
- ④ 7月10日 宝川での鉱物採集
- ⑤ 8月28日 猪苗代周辺での化石・鉱物採集
- ⑥ 9月13日 埴町藤田磁業採石場での化石採集（文化祭実習材料収集）
- ⑦ 10月2日 友の会文化祭「化石・鉱物探検隊－化石を掘り出そう」



友の会文化祭

「化石・鉱物探検隊－化石を掘り出そう」 1

- ⑧10月9日 奈々子沢、三更鉱山での鉱物採集
- ⑨12月11日 実技研修「植物化石のクリーニング」、今年度の反省と次年度の計画
- ⑩平成29年3月5日 総会・研修会



友の会文化祭

「化石・鉱物探検隊－化石を掘り出そう」 2

2. 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20～25名が参加し、活動が続けてきた。メンバーは5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書（福島県立博物館寄託）を用いている。築田家は江戸時代に若松城下の検断（町役人）をつとめた家で、その文書は城下の諸相を伝える良質な資料であり、解読を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。近年では平成26年度から明治元年の公用簿籍（戊辰戦争直後の若松城下の記録）をテキストとし、戊辰戦争から150年の節目を迎える平成30年度に読み終わるのを目標としている。

平成28年度の活動人数は25名で、前年度に引き続き月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に全員で文字・内容の検討を行った。

6. 広報公聴活動および出版事業

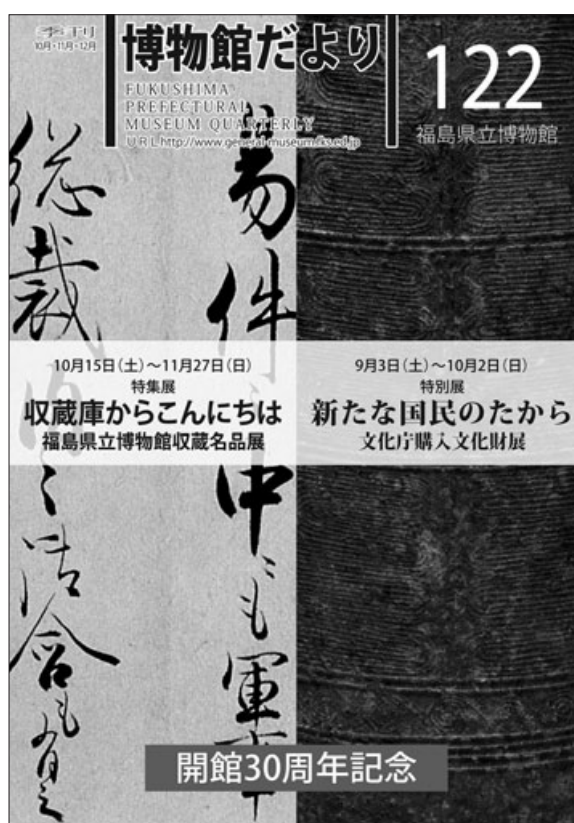
(1) 広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

福島県立博物館 平成28年度 広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B 2	企画展「大須賀清光の屏風絵と番付」 2,350枚 特集展「南極の自然と南極観測」 2,500枚 特別展「新たな国民のたから 文化 庁購入文化財展」 2,000枚 特集展「収蔵庫からこんにちは 福 島県立博物館収蔵名品展」 3,000枚 福島県立博物館30周年記念 3,000枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・ 図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立 図書館・大学図書館 会津地域の銀行・ 病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養 施設・その他店頭 博物館友の会会員 (町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A 4	企画展「大須賀清光の屏風絵と番付」 35,000枚 特別展「新たな国民のたから 文化 庁購入文化財展」 50,000枚 特集展「収蔵庫からこんにちは 福 島県立博物館収蔵名品展」 30,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内 タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・ 文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書 館 会津地域の銀行・病院・JA・道の 駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博 物館友の会会員(町貼り協力者) 県内 市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
博物館だより (博物館の広報誌)	A 4 8頁	3,500冊×4回=14,000冊	県内タウン情報誌 県内公立小・中・高 校 県内私立小・中・高校 県内博物 館・美術館・図書館・公民館・文化施設・ 教育施設 県外主要博物館 東北・関 東地方の国立・県立図書館・大学図書館 県内市町村教育委員会 会津方部県出 先機関 県教育事務所
年間催し物案内	20×39.4cm 四つ折り	45,000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県 内公立小・中・高校 県内私立小・中・ 高校 県内博物館・美術館・図書館・公 民館・文化施設・教育施設 県外主要博 物館 東北・関東地方の県立図書館・大学 図書館 会津地域の銀行・病院・JA・ 道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他 店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出 先機関 県教育事務所
月行事予定表	A 4 (館内印刷)	12,600枚×8回=100,800枚	県内および新潟県の新聞社・放送局 県 内タウン情報誌 会津若松市記者クラブ 会津若松市・周辺市町村の観光・広報 係 県内主要文化施設
プレス・リリース (企画展の記者発表 などマスコミ向けイ ベント情報の提供)	A 4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場 合により近県のマスコミに提供 県政記 者クラブ 会津若松市記者クラブ



博物館だより122号

イ. 広告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

広告掲載一覧

展示会	看板(駅前・博物館周り)	新聞・その他	ラジオ・テレビスポット	ポスター掲示
企画展「大須賀清光の屏風絵と番付」	○		FCT福島中央テレビ (5月20日～30日15秒10回)	安達太良SA上り 3週間・磐梯山SA下り 2週間・阿賀野川SA上り 2週間・JR仙台駅 1週間・郡山駅 1週間・会津若松駅 1週間・会津鉄道西若松駅(東口・西口)・芦ノ牧温泉駅・湯野上温泉駅・会津下郷駅・会津田島駅
特集展「南極の自然と南極観測」		『会津嶺』6月号		
特別展「新たな国民のたから 文化庁購入文化財展」	○		FTV福島テレビ (9月2日・30日15秒30回)	
特集展「収蔵庫からこんにちは 福島県立博物館収蔵名品展」	○	『会津嶺』10月号		
テーマ展「けんぱくの宝1」		『会津嶺』8月号		
テーマ展「けんぱくの宝2」		『会津嶺』12月号		
はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展・ふくしま震災遺産保全プロジェクト震災遺産を考える		『会津嶺』2月号・サンデーあいづ(2月26日・3月5日 48,000部) 『るるぶFREE福島秋冬号』(50,000部)・『るるぶ東北'18』(117,000部)	エフエム会津 (5月～平成29年2月 11回)	会津鉄道10両・5駅

ウ. ホームページ

当館ではホームページ（URL: <http://www.general-museum.fks.ed.jp/>）を開設し、館の紹介をはじめ、展示やイベントなどの各種情報、出版物の案内などを発信している。

平成28年度ホームページアクセス件数（ページ数）

4月	5月	6月	7月	8月
33,137	34,512	34,866	39,040	39,459
9月	10月	11月	12月	1月
56,411	35,187	31,122	26,616	30,687
2月	3月	合計		
29,429	32,622	423,088		

エ. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

当館ではより身近で親しみやすいかたちでの広報活動を目指し、平成27年度末（3月25日）よりソーシャル・ネットワーキング・サービス「facebook（フェイスブック）」の公式ページ（URL: <https://www.facebook.com/fukushimamuseum/>）を公開している。週に1～2回程度の更新を行い、展示やイベントの近況レポート等の積極的な発信に努めている。公開から約1年となる平成29年3月8日、ページへの「いいね！」が400件（平成28年度末時点では408件）に到達、現在も増加中である。

オ. 記事・放映

新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる、各種行事の取材に基づいた記事・放映は次の通りである。

(ア) 特別展「新たな国民のたから」

- ・福島民友「"国民のたから"43件並ぶ 県博で来月まで特別展」（9月4日記事）
- ・読売新聞（福島）「『国民のたから』展 文化庁購入絵画など 県立博物館」（9月9日記事）
- ・福島民報「文化庁購入『たから』紹介 福島県立博物館30周年で特別展 若松」（9月14日記事）

(イ) 春の企画展「大須賀清光の屏風絵と番付」

- ・福島民友新聞「若松城下絵図屏風公開へ 23日から県立博物館」（4月21日記事）
- ・福島民友新聞「きょうから大須賀清光展 県立博物館」（4月23日記事）
- ・福島民報新聞「30周年企画展きょう開幕 県立博物館で内覧会」（4月23日記事）
- ・福島民友新聞「幕末の会津 伝わる息づかい 県立博物館で大須賀清光展」（4月27日記事）

- ・福島民友新聞「みんゆうジュニア情報局 すごろくで若松→江戸出発じゃ!」（5月7日記事）
- ・福島民報新聞「若松城下精密に「大須賀清光の屏風絵と番付」県立博物館、来月12日まで」（5月21日記事）
- ・モンモ初夏号（2016 No.62）「博物館の逸品No.1 福島県立博物館所蔵 大須賀清光筆「若松城下絵図屏風」」

(ウ) 特集展「南極の自然と南極観測」

- ・福島民報「きょうから南極特集展 元隊員の服など並ぶ」（7月16日記事）
- ・福島民友「南極の暮らしを紹介 県立博物館特集展が開幕」（7月17日記事）
- ・毎日新聞「猛暑に「涼」を体感 南極テーマに特集展」（7月29日記事）
- ・河北新報「県立博物館 夏の特集展 南極の自然と南極観測」（8月7日記事）
- ・福島民友「南極観測の経験語る 記念展で元観測隊員」（8月9日記事）
- ・しんぶん赤旗「福島県立博物館 南極観測の展示 氷の大陸 姿を学ぶ」（8月9日記事）
- ・福島民報「若松の県立博物館30周年記念展 南極の基地生活は？ 元観測隊員 南相馬出身 小元さん解説」（8月10日記事）
- ・福島民報「県博前に移動水族館 海の生物30種とふれ合い」（8月23日記事）

(エ) 特集展「収蔵庫からこんにちは」

- ・福島民友新聞「『短甲』を一般公開 今日から県立博物館」（10月15日記事）
- ・福島テレビ「サタふく ふくしま調査隊『県立博物館30周年』」（10月24日放映）
- ・読売新聞「古墳時代の短甲 初公開 会津若松 県立博物館30年 収蔵名品展」（10月26日記事）
- ・県政テレビスポットCM「開館30周年記念特集展『収蔵庫からこんにちは—福島県立博物館収蔵名品展』」

(オ) 特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」

- ・福島民友（福島）「『物言わぬ「証人」の叫び』 県立博物館 震災遺産展11日開幕」（2月4日記事）
- ・福島民友（福島）「復興 あしたへ 凸凹写した鉛筆作品」（2月6日記事）
- ・北海道新聞（北海道）「伝える 原発事故の爪痕」（2月11日）
- ・河北新報（宮城）「<福島県立博物館>震災

- 6年語る遺物とアート」(2月16日記事)
- 週刊新聞サンデーあいつ「福島県立博物館「アートで伝える考える福島の今、未来展 at Fukushima Museum」開催中 アートプロジェクトの成果を一堂に会して公開」(2月26日記事)
- 読売新聞(東京)「『アートが築く語らいの場』被災の日々 博物館で展示」(3月8日記事)
- 朝日新聞(東京)「残す・伝える 7年目の東日本大震災⑤『遠いふるさとの象徴』文化財・思い出の品々 人と土地つなぐ」(3月15日記事)

(カ) 特集展「震災遺産を考える」

- 福島民友「県立博物館 あすから未来展 11日から震災遺産展」(2月3日記事)
- 福島民友「県立博物館 もの言わぬ「証人」の叫び 震災遺産展11日開幕」(2月4日記事)
- 福島民友「県博で震災特集展 あす本格スタート」(2月10日記事)
- 福島民報「震災遺産展が開幕 県立博物館」(2月12日記事)
- 福島民友みんゆうNet「『震災遺産展』始まる 福島県立博物館」(2月12日記事)
- 河北新報ONLINE NEWS「〈福島県立博物館〉震災6年語る遺物とアート」(2月16日記事)
- 週刊新聞サンデーあいつ「福島県立博物館「震災遺産展～6本の年輪～」開催中 被災した品々が伝える震災の記憶」(3月5日記事)
- 読売新聞「震災遺産展～6本の年輪～ 4月11日まで福島県立博物館」(3月11日記事)
- 福島民友「震災遺産150点 県立博物館で特集展」(3月13日記事)

(キ) 共催展「東日本大震災復興祈念藤森武写真展」

- 福島民報「30日から若松で藤森氏作品展 東北の仏像 写真で巡礼 薬師如来坐像など110点」(8月13日記事)
- 福島民報「『みちのくの仏像』展30日開幕 若松 祈りの文化 魅力伝える 4日、写真家・藤森武講演会」(8月27日記事)
- 福島民報「写真展『みちのくの仏像展』きょう若松で開幕」(8月30日記事)
- 福島民報「『みちのくの仏像展』開幕 県立博物館 藤森武氏の写真並ぶ」(8月31日記事)
- 福島民報「県立博物館 みちのくの仏像展 十二神将像の写真披露 木の温もり写し出す」(9月1日記事)
- 福島民報「写真家藤森さんトークイベント

「会津は第二の故郷」(9月6日記事)

- 福島民報「『みちのくの仏像展』閉幕 藤森氏の作品注目集める 若松」(10月4日記事)

(ク) ポイント展

「初公開 斎藤一の肖像写真」

- 福島民報「斎藤一の写真、会津へ ひ孫が県立博物館に寄託 あすから一般公開」(9月13日記事)
- 福島民友「新選組生き残り幹部 斎藤一の写真 県立博物館に寄託 あすから展示」(9月13日記事)
- 福島テレビ「FTVみんなのニュース」(9月14日放送)
- 福島中央テレビ「ゴジてれChu!」(9月14日放送)
- 時事ドットコムニュース「斎藤一の写真初公開＝新選組で活躍－福島・会津若松」(9月15日記事)
- Yahoo!ニュース「斎藤一の写真初公開＝新選組で活躍－福島・会津若松」(9月15日記事)
- ニフティニュース「斎藤一の写真初公開＝新選組で活躍－福島・会津若松」(9月15日記事)
- BIGLOBEニュース「斎藤一の写真初公開」(9月15日記事)
- 福島民報「新選組生き残り幹部－斎藤一と家族の寄託写真を公開 県立博物館」(9月15日記事)
- 福島民友「斎藤一の写真展示 30日まで県立博物館」(9月15日記事)
- 福島放送「スーパーJチャンネル」(9月16日放送)
- 朝日新聞「新選組・斎藤一面長で端正 子孫の蔵で発見」(9月27日記事)

(ケ) その他

館長講座

- 福島民友「『会津から見た被災地』語る 館長講座で会津高生 県立博物館」(1月20日記事)
- 福島民報「震災とアートの関わり学習 若松 赤坂県立博物館長が講座」(2月26日記事)
- 福島民友「文化連携の意義語る(※館長講座)」(2月27日記事)

展覧会・催しもの

- 福島民報「本県ゆかりの人物を語る 県立博物館で講座」(2月7日記事)
- 福島民報「11日、県立博物館で祈念行事 復興への想い発信 子どもら合唱や劇」(3月7日記事)

- ・福島民報「声高らかに合唱 若松で大熊から避難の小中生（※3月11日後援事業）」（3月12日記事）
- ・福島民友「大熊の子ども 元気に歌披露 若松の県立博物館（※3月11日後援事業）」（3月12日記事）
- ・福島民友「支援に感謝、復興へ心一つ 若松・震災追悼記念行事（※3月11日後援事業）」（3月13日記事）
- ・福島民報「若松で会津振興局復興イベント 光と花で犠牲者悼む 震災テーマの創作劇披露（※3月11日後援事業）」（3月13日記事）
- ・福島民報「赤坂県立博物館長を再任 県教委」（3月22日記事）
- ・福島民友「県立博物館『福島桜紀行』きょう上映」（4月23日記事）
- ・福島民友「『東北の中世史』最終巻 高橋学芸員（県立博物館）が編著 本県登場 新たな歴史像描く 東京の出版社刊行」（4月6日記事）
- ・福島民友「親子で唐人凧作り 県立博物館の実技講座」（5月8日記事）
- ・福島民報「『けんぱくの宝展』開幕 来月28日まで国重文など30点」（7月6日記事）
- ・福島民友「古地図と今を見比べ街歩き 会津大生がアプリ開発」（8月23日記事）
- ・福島民報「あす子守唄コンサート 若松 親子で楽しんで」（10月27日記事）
- ・福島民報「縄文の編み組品カゴ作りで再現 県立博物館実技講座」（1月19日記事）

連載記事

- ・福島民報「ふくしま人 歴史考証家 石井研堂①（※佐藤洋一専門員執筆）」（8月27日記事）
- ・福島民報「ふくしま人 歴史考証家 石井研堂②（※佐藤洋一専門員執筆）」（9月3日記事）
- ・福島民報「ふくしま人 歴史考証家 石井研堂③（※佐藤洋一専門員執筆）」（9月10日記事）
- ・福島民報「ふくしま人 歴史考証家 石井研堂④（※佐藤洋一専門員執筆）」（9月17日記事）
- ・福島民報「ふくしま人 歴史考証家 石井研堂⑤（※佐藤洋一専門員執筆）」（9月24日記事）
- ・福島民報「日曜論壇 県博はいま30歳を迎える（※赤坂憲雄館長執筆）」（9月25日記事）

30周年記念事業

- ・福島民友「県立博物館30周年イベント 貴重

な仏画を展示／真っ暗な館内探検」（7月7日記事）

- ・福島民報「文化庁購入『たから』紹介 県立博物館30周年で特別展」（9月14日記事）
- ・福島民報「中島の四穂田古墳から出土『短甲』修繕し初公開 15日から30周年特集展 県立博物館」（10月13日記事）
- ・福島民友「県立博物館 開館30周年 やすみさん記念講演や対談 シンボルマークの表彰も」（10月16日記事）
- ・福島民報「県立博物館30周年祝う 文化の復権に誓い シンボルマーク発表 特集展も開幕」（10月16日記事）
- ・福島民友「県博30周年彩る 記念イベント・式典 東山芸妓が踊りやトーク」（10月17日記事）
- ・福島民報「歴史 文化振り返る 県立博物館開館30周年記念式典 講演会や収蔵品展示／東山芸妓衆 華やかに唄や舞」（10月17日記事）
- ・福島民友「県立博物館で27日まで 開館30周年記念『収蔵名品展』東北最古のよろい公開」（11月9日記事）
- ・福島民報「会津彼岸獅子きょう披露 県立博物館30周年イベント」（3月12日記事）
- ・福島民報「彼岸獅子が舞披露 県立博物館30周年イベント」（3月14日記事）
- ・福島民友「30年祝い“春の風物詩”県立博物館開館記念イベント」（3月15日記事）

歴史講座

- ・福島民友「幕末維新から明治 本県ゆかりの人物紹介 若松で歴史講座開講」（2月6日記事）
- ・福島民報「幕末の若松迫る 県立博物館講座（※歴史講座）」（2月22日記事）
- ・福島民報「河野広中を解説 県立博物館歴史講座」（3月7日記事）
- ・福島民報「県内の近代医学の発展テーマに講演 県博の歴史講座」（3月20日記事）

民俗講座

- ・福島民友新聞「日常の疑問解説 県立博物館で民俗講座」（1月23日記事）
- ・福島民報「『桃の節句』歴史を紹介 県立博物館民俗講座」（1月25日記事）

展示資料調査研究「山口弥一郎調査資料の研究」

- ・河北新報「山口弥一郎氏の功績調査へ 地理学・民俗学採り入れ津波被害研究」（4月25日記事）

はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト

- ・朝日新聞（新潟）「『福島の記憶や今 表現』長岡造形大で29日まで、50点紹介」（5月24日

- 記事)
- ・新潟日報 (新潟) 「福島は今 アートに 長岡造形大」(5月24日記事)
 - ・河北新報 (宮城) 「『その先へ3.11大震災コラム』被曝の痕跡 年輪から 飯舘発の美術作品に」(5月25日記事)
 - ・毎日新聞 (東京) 「『福島の現状 アートで発信』住民不在地域の定点撮影、被ばく樹木の作品など長岡造形大で100点展示」(5月25日記事)
 - ・福島民友 (福島) 「食文化語ろう 7月8、9日、いわき市でフォーラム開催」(6月24日記事)
 - ・福島民報 (福島) 「『児童 自由に芸術表現』好間一小土曜学習 巨大キャンバス使う リズムに合わせ線」(7月3日記事)
 - ・福島民友 (福島) 「『大きな紙にお絵描き』好間一小で「土曜学校」」(7月4日)
 - ・足利商工会議所会報友愛 (栃木) 「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展 アートで伝える考える福島の今、未来展」(8月20日)
 - ・下野新聞 (栃木) 「『被災地の“今”アートで表現』足利できょうから作品展」(9月6日)
 - ・読売新聞 (栃木) 「『福島の今 アートで』足利」(9月14日記事)
 - ・足利商工会議所会報友愛 (栃木) 「震災を風化させない!!アートで伝える 考える福島の今、未来展」(9月20日記事)
 - ・朝日新聞 (愛知) 「『切り株に刻まれた「記憶」』岡部昌生のフロッタージュ 被曝樹 (広島) ×被曝樹 (福島)」(9月21日)
 - ・中日新聞 (愛知) 「Culture 記者が見たトリエンナーレ①アートと現実 新たな世界観開く」(9月21日)
 - ・Ca-gamin! Vol.33号 (栃木) 「アートで伝える 考える 福島の今、未来 in ASHIKAGA」(10・11・12月号)
 - ・信濃毎日新聞 (長野) 「『福島復興 アートで発信』大町の写真家ら きょうから「未来展」」(12月7日記事)
 - ・市民タイムス (長野) 「『芸術で福島の復興模索』23日まで 松本4か所で成果展」(12月7日記事)
 - ・毎日新聞 (東京) 「『福島の今 アートで伝える』23日まで松本の4会場で」(12月8日記事)
 - ・毎日新聞 (東京) 「創作の原点 ヒロシマから福島巡礼」(12月10日)
 - ・松本平タウン情報 (長野) 「『『福島の今』アートで』松本4会場で震災伝える作品展」(12月8日)
 - ・ゆめはっと通信 vol.144 (福島) 「野馬追ダイアログVol.2 野馬追をつなげる手仕事の人々~いつのまにか甲冑師になっていた~」(2017年1月1日広告)
 - ・あぶくま時報 (福島) 「『写真家の眼で捉えた遺跡』12日から村越としやさんの初作品展 須賀川の歴史、魅力を伝える」(2017年1月7日記事)
 - ・福島民友 (福島) 「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」(十日市広告) (1月9日)
 - ・あぶくま時報 (福島) 「『写真家の眼で捉えた遺跡』村越としやさんの初作品展」(1月11日記事)
 - ・日刊 マメタイムス 第20066号 (福島) 「写真家・村越さん (須市出身) 須賀川の古代遺跡写真展」(1月12日記事)
 - ・福島民友 (福島) 「『須賀川市の遺跡 魅力紹介』写真家・村越さん」(1月12日記事)
 - ・広報みなみそうま (福島) 「野馬追ダイアログVol.2 野馬追をつなげる手仕事の人々~いつのまにか甲冑師になっていた~」(1月15日)
 - ・熊本日日新聞 「『福島の今、アートで知って』津奈木町の美術館 写真や映像…21日から展覧会」(1月19日記事)
 - ・朝日新聞 (東京) 「『福島・水俣 今と未来考える』津奈木で企画展やイベント」(1月22日)
 - ・福島民友 (福島) 「野馬追支えた人々 南相馬で写真展示」(1月29日記事)
 - ・福島民報 (福島) 「『相馬野馬追「裏方」に焦点』南相馬で写真展」(1月29日記事)
 - ・読売新聞 (不明) 「『野馬追裏方に焦点の写真展』南相馬で5日まで」(2月2日記事)
 - ・福島民友 (福島) 「『物言わぬ「証人」の叫び』県立博物館 震災遺産展11日開幕」(2月4日記事)
 - ・福島民友 (福島) 「復興 あしたへ 凸凹写した鉛筆作品」(2月6日記事)
 - ・熊本日日新聞 (熊本) 「『福島の記憶と現実 アートで』つなぎ美術館で展覧会 写真家、小学生・・・喪失感や希望伝える」(2月6日記事)
 - ・北海道新聞 (北海道) 「伝える 原発事故の爪痕」(2月11日)
 - ・河北新報 (宮城) 「<福島県立博物館>震災6年語る遺物とアート」(2月16日記事)
 - ・福島民報 (福島) 「『地域の歴史 次世代に』県内各地で文化財視察ツアー あすまで」(2月18日記事)
 - ・福島民友 (福島) 「被災文化財を見学 県立博

- 物館でツアー」(2月18日記事)
- ・週刊新聞サンデーあいつ「福島県立博物館「アートで伝える考える福島の今、未来展 at Fukushima Museum」開催中 アートプロジェクトの成果を一堂に会して公開」(2月26日記事)
 - ・読売新聞(東京)「『アートが築く語らいの場』被災の日々 博物館で展示」(3月8日記事)
 - ・熊本日新聞(熊本)「震災と福島、水俣 田口さん 共感する力で心を解放 アートが人と人つなぐ 赤阪さん」(3月8日記事)
 - ・朝日新聞(東京)「残す・伝える 7年目の東日本大震災⑤『遠いふるさとの象徴』文化財・思い出の品々 人と土地つなぐ」(3月15日記事)
- ふくしま震災遺産保全プロジェクト**
- ・福島民友(福島)「『震災の記憶 伝える』福島県立博物館2月11日～3月21日特集展紹介」(5月4日記事)
 - ・福島民報(福島)「ふくしま復興展『震災遺産と文化財』(白河市：福島県文化財センター白河館)開幕」(5月29日記事)
 - ・福島民友(福島)「『井戸沢断層』の標本補修」(6月4日記事)
 - ・福島民報(いわき)「井戸沢断層の標本展示会」(6月4日記事)
 - ・福島民報(福島)「いわき市文化財の井戸沢断層標本を補修」(6月7日記事)
 - ・福島民報(福島)「『震災遺産』保全意義学ぶ 福島明成高で公開授業」(6月9日記事)
 - ・読売新聞(福島)「震災遺産 出張授業で伝える」(6月10日記事)
 - ・福島民報(いわき)「井戸沢断層の標本公開」(6月14日記事)
 - ・福島民友(福島)「井戸沢断層の標本展示 いわき市田人地区 震災余震の記憶継承」(6月15日記事)
 - ・福島民友(福島)「編集日記」(6月16日記事)
 - ・福島民報(福島)「論説 震災遺産を後世に」(6月27日記事)
 - ・タウンメディア7月号「全国初の正断層を解説 天然記念物の井戸沢断層」(6月30日記事)
 - ・朝日新聞(東北)「博物館、震災の風化防げ『遺産』展示や文化財再生」(7月27日記事)
 - ・福島民報(福島)「震災遺産の教育活用を考える」(8月12日記事)
 - ・読売新聞(福島)「震災後芽吹いたミズアオイ」(8月21日記事)
 - ・京都新聞(京都)「世界考古学会議開幕」(8月29日web)
 - ・朝日新聞夕刊(大阪)「京都で世界考古学会議 災害からの教訓 共有探る」(9月28日記事)
 - ・日本経済新聞(全国)「記憶残す 有効な手段 福島で震災の痕跡を収集」(10月22日記事)
 - ・朝日新聞(福島)「双葉町の原発PR看板_県立博物館に移転・保管」(10月28日記事)
 - ・福島民友(福島)「原子力推進看板展示か 県立博物館双葉から移動し保管」(10月29日記事)
 - ・毎日新聞(福島)「双葉原発看板 県立博物館に移管」(10月29日記事)
 - ・福島民報(福島)「双葉町 原子力推進の看板文字パネル 県立博物館に保管」(10月30日記事)
 - ・河北新報(東北)「震災遺産を教育現場に」(10月30日記事)
 - ・河北新報(東北)「福島北高『震災遺産』文化祭で展示」(10月31日記事)
 - ・福島民友(福島)「津波堆積物説明会で防災の在り方を学ぶ」(10月31日記事)
 - ・福島民報(福島)「会津高が連携学習開始」(11月11日記事)
 - ・読売新聞(福島)「『震災遺産』悲劇を見つめて」(11月11日記事)
 - ・福島民友(福島)「震災遺産 会津高生学ぶ」(11月12日記事)
 - ・朝日新聞(全国)「天声人語」(11月12日記事)
 - ・河北新報(東北)「震災遺産 震災と原発事故高校生渡米」(11月28日記事)
 - ・河北新報(東北)「会津高生 福島を発信」(11月28日記事)
 - ・河北新報(東北)「会津高生 浜通りを視察」(12月4日記事)
 - ・福島民友(福島)「渡米前に被災地視察」(12月4日記事)
 - ・朝日新聞(宮城)「『震災と暮らし』展 2日から仙台で」(12月18日記事)
 - ・河北新報(東北)「震災と暮らし考える展覧会 あすから」(12月19日記事)
 - ・NHK仙台「震災被害 後世に伝える展示会」(12月20日放映)
 - ・河北新報(東北)「福島の被災地3次元映像で仙台で企画展開幕」(12月21日記事)
 - ・読売新聞(宮城)「避難続く 福島の現状」(12月21日記事)
 - ・産経新聞「資料が伝える震災直後の『暮らし』」(12月22日記事)
 - ・河北新報(宮城)「<震災遺産>常磐線 被災レール後世に」(1月21日記事)

- ・朝日新聞デジタル「時計・パトカー部品…がれきが語る東日本大震災の記憶」(1月18日 web)
- ・朝日新聞夕刊(東京)「福島の被災 がれきの声」(1月18日記事)
- ・福島民友(福島)「『会津から見た被災地』語る 館長講座で会津高生 県立博物館」(1月20日記事)
- ・ハフィントンポスト「あの日あの時止まった時計、配達されなかった新聞…」(1月23日 web)
- ・河北新報(宮城)「被災地見た心境語る 会津高生 浜通り訪問、体験発表」(1月24日記事)
- ・福島民報(福島)「4日から『未来展』 11日から『震災遺産展』」(2月3日記事)
- ・福島民友(福島)「県立博物館 震災遺産展11日開幕」(2月4日記事)
- ・福島民友(福島)「県博で震災特集展あす本格スタート」(2月10日記事)
- ・福島民報(福島)「震災遺産展が開幕」(2月12日記事)
- ・福島民友(福島)「『震災遺産展』始まる」(2月12日記事)
- ・河北新報(宮城)「<福島県立博物館>震災6年語る遺物とアート」(2月16日記事)
- ・福島民報(福島)「地域の歴史次世代に」(2月18日記事)
- ・福島民友(福島)「被災文化財を見学 県立博物館でツアー」(2月18日記事)
- ・日本経済新聞(全国)「災害アーカイブ絶やさぬ工夫」(2月18日記事)
- ・NEWSALT(全国)「東日本大震災を伝える 福島県立博物館が『震災遺産展』」(2月19日記事)
- ・J-WAVE HAERT TO HEART「東日本大震災と東京電力第一原発事故をテーマにした『2つの特集展』について」(3月2日放映)
- ・新潟日報(新潟)「避難者は『帰りたいけど帰れない』元支援員が福島でパネル展」(3月7日記事)
- ・福島民報(福島)「今日のテーマ『教育・震災遺産』」(3月10日記事)
- ・福島中央テレビ(福島)「県立博物館『震災遺構』の特別展」(3月10日記事)
- ・読売新聞(全国)「震災遺産展 6本の年輪」(3月11日記事)
- ・福島民友(福島)「震災遺産150点 県立博物館で特集展」(3月13日記事)
- ・毎日新聞(全国)「原発事故6年 牛舎に生き

た証し」(3月13日記事)

- ・朝日新聞(全国)「『遺産』として残る爪痕」(3月14日記事)
- ・NHK福島「震災と原発事故の資料展(NHK福島ニュース)」(3月29日放映)
- ・朝日新聞(全国)「天声人語」(3月30日記事)

(2) 公聴活動

博物館で開催した次の行事について、利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を中期目標の平成28年度達成度評価の資料とすると同時に、データを分析し、館の事業の改善に努めた。

平成28年度 アンケート実施事業一覧

常設展	
企画展	大須賀清光の屏風絵と番付
特別展	新たな国民のたから 文化庁購入文化財展
特集展	南極の自然と南極観測
	収蔵庫からこんにちは
	震災遺産展～6本の年輪～
	アートで伝える、考える 福島の今、未来展 at Fukushima Museum
ミュージアムイベント	玄如節と会津の民謡
	クリスマスコンサート

(3) 出版事業

平成28年度は次の出版物を刊行した。

ア. 企画展図録

福島県立博物館企画展図録

「大須賀清光の屏風絵と番付」展示図録

1,500冊

イ. 紀要

福島県立博物館紀要 第31号

600冊

ウ. 年報

福島県立博物館年報 第30号

400冊

7. 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日（火）である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の3つの柱からなっている。

1. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

2. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りを取りもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

3. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。

また、東日本大震災の翌年あたりから浜通り地方の復興事業に伴う事前発掘調査が年々増大している。福島県教育委員会では発掘調査を担当できる職員に限りがあるため、他都道府県教育委員会に職員の派遣に関する協力を依頼し、毎年6名前後の職員を派遣していただいている。平成28年度は、当初計画よりも発掘調査が必要な事案が増え、既存の県教育委員会担当職員では対応が難しい状況となったため、当館考古分野の学芸員が急遽、発掘調査の実施について協力を行うことになった。

このような経過により、平成28年度は次の事業を実施した。

(1) 文化財・自然資料レスキュー

ア. 平成28年度の活動

(ア) レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」（以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」）に参画して活動した。幹事会1回、会議1回。

(イ) 被災資料への対応

大熊町・富岡町に続いて、双葉町歴史民俗資料館に収蔵されていた資料の搬出作業が、平成28年5月に終了した。3町の資料館の収蔵資料を保管する福島県文化財センター白河館（まほろん）の仮収蔵庫の環境調査については、今年度も継続して協力した。

警戒区域の再編や解除などが進み、住民の帰還が始まる中で、個人所有の資料などの保全が、あらためて必要になってきた。当該市町村など関係機関と協力しながら、民俗資料など2件を当館で受け入れた。震災後から受け入れてきた資料については、整理作業を継続して行い、また資料の返還も3件あった。

(ウ) 救出された資料の展示公開

- ①当館テーマ展「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」（平成27年度から継続）
- ②当館テーマ展「けんぱくの宝1」（7月5日～8月28日）
- ③当館特集展「南極の自然と南極観測」（7月16日～8月21日）
- ④当館特集展「収蔵庫からこんにちは」（10月15日～11月27日）

(エ) 研修会・研究会への参加

被災資料の保全に関する講演会やシンポジウムなどに参加した。

(オ) 5年間のレスキュー活動紹介パネル展示

昨年度の年報にまとめた震災後5年間の活動の内容を要約して、特集展「収蔵庫からこんにちは」（10月15日～11月27日）においてパネル展示し、パンフレットにも掲載した。また、平成29年3月4日からは当館展示室内の展示ロビーにおいてパネル展示を行った。

イ. 今後の課題

- (ア) 受け入れてきた文化財・自然資料への対応（継続）

(イ) 旧警戒区域からの文化財・自然資料の搬出・保全 (継続)

- ①個人所有資料の保全
- ②救出された文化財・自然資料の収蔵・公開施設についての検討



双葉町歴史民俗資料館からの搬出作業
(5月24日 双葉町)

(ウ) 救出された文化財・自然資料の展示公開 (継続)

- (エ) 今後の災害に備えたしくみづくりや準備



石造物の収集作業 (10月1日 南相馬市小高区)



民俗資料の収集作業 (8月2日 浪江町)



レスキュー活動紹介パネル展示 (当館展示ロビー)

当館での被災文化財等の受け入れ状況

(平成28年度末現在)

受入年度		所有者	資料概要	点数	要因	整理状況	現状
平成23	1	旧相馬女子高校	土器片等	195点	旧校舎収蔵施設の損壊	済み	採集
	2	いわき市の個人	古文書・祭礼道具等	13件 (1509点)	地震による蔵の損壊	未了	受託・一部返還
	3	南相馬市の個人	野馬追甲冑等	12件 (16点)	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	4	南相馬市の個人	文書	1点	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	5	双葉町教育委員会	古文書	253点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	6	南相馬市の神社	棟札・像・文書等	22点	津波による神社の損壊	済み	一部返還
	7	須賀川市の神社	絵馬	109点	地震による神社の損壊	済み	受託・一部返還
	8	須賀川市の個人	雛人形・五月人形等	4点	地震による建家の損壊	済み	受贈
	9	双葉町教育委員会	刀剣・火縄銃	7点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	10	郡山市の個人	近代史料・書籍等	961点	地震による蔵の損壊	済み	返還済み
	11	双葉町の個人(教育委員会寄託)	太刀	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
			十三仏画	1点		不要	
	12	浪江町の寺院	両界種子曼荼羅	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	13	福島市の個人	雛人形・古写真等	17件 (22点)	地震による建家の損壊	済み	受贈・受託
	14	伊達市の個人	土器・石器・凶書・地図	3件 (1647点)	地震による蔵の損壊	済み	受贈
	15	南相馬市の寺院	膳椀漆器	48件 (79点)	原発事故避難により管理不能	未了	受託
	16	会津工業高校	陶磁器	8点	地震による損壊	不要	返還済み
17	南相馬市鹿島歴史民俗資料館	植物化石標本	62件 (66点)	地震による収蔵施設の損壊	済み	返還済み	
平成24	18	浪江町の個人	書跡	2点	原発事故避難により管理不能	不要	平成28年返還
	19	富岡町	16ミリフィルム	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	20	南相馬市の個人	化石標本	約400点	地震による収蔵施設の損壊	未了	受託
	21	大熊町教育委員会	考古資料(落合B遺跡)	4943点	原発事故避難により管理不能	済み	受託
考古資料(棚和子古墳)			10箱	済み			
		和鏡	1点		済み		
平成25	22	浪江町教育委員会	棚塩地区公民館地図	1点	地震・津波による建物損壊	不要	返還済み
	23	葛尾村の寺院	仏像・仏画・経典等	5件 (604点)	原発事故避難により管理不能	未了	平成28年返還
	24	双葉町教育委員会	清戸迫横穴壁画模写	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	25	双葉町教育委員会	フタバクジラ化石他	27件	原発事故避難により管理不能	未了	受託
平成28	26	浪江町の個人	大型民具	21点	地震による建物損壊、解体予定	済み	受贈
	27	南相馬市小高区	石仏	5点	津波被害による処分子定	未了	採集

(2) ふくしま応援ミュージアムイベント

従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

ア. 玄如節と日本の民謡

(ア) 日 時

平成28年6月25日(土) 13時30分～15時

(イ) 会 場 エントランスホール

(ウ) 参加者数 105人

(エ) 出 演 玄如節顕彰会

(オ) 内 容

玄如節は、即興の掛け合いで唄うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。今回のイベントでは、会津や東北各県の民謡を歌と踊りをまじえて披露し、最後に来館者の方々から募集した玄如節の歌詞を即興の歌で披露した。



玄如節と日本の民謡

イ. 夏休み子ども野外映画会「天空の城ラピュタ」

(ア) 日 時

平成28年7月18日(月・祝) 19時～21時

※博物館閉館後

(イ) 会 場 前庭

(ウ) 参加者数 214人

(エ) 内 容

ミュージアムイベントとして震災前に福島県立博物館の前庭で行っていた野外映画会を、震災後、久しぶりに復活開催。開館30周年にあわせ、30年前の1986年に封切られた映画、なかでも、震災から5年を経た福島での開催だからこそ、来場者のみなさんと自然の素晴らしさや命の大事さを共有できる、映画として「天空の城ラピュタ」を上映した。年配の方からお子さんまで一緒に映画の楽しさを味

わえる野外映画会として多くの方に来場いただいた。



夏休み子ども野外映画会 天空の城ラピュタ

ウ. 会津磐梯山・市民盆踊り

(ア) 日 時

平成28年8月15日(月) 19時～20時30分

※博物館閉館後

(イ) 会 場 前庭

(ウ) 参加者数 330人

(エ) 共 催 会津磐梯山盆踊り保存会

(オ) 内 容

博物館前庭に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大震災でやむなく生命を奪われてしまわれた方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。

エ. 夏休みナイトミュージアム

(ア) 日 時

平成28年8月20日(土) 17時30分～19時

※博物館閉館後

(イ) 会 場 常設展示室

(ウ) 参加者数 76人

(エ) 講 師 相田・佐藤・大里・高橋満

(オ) 内 容

いつもと違う雰囲気の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。例年参加申込み者数が多いため、昨年度から定員を20名増員した。

オ. ハワイアン in けんぱく

(ア) 日 時

平成28年8月27日(土) 13時30分～15時

(イ) 会 場 エントランスホール

(ウ) 参加者数 163人

(エ) 出演

モハル・ハワイアンズ
 フラ・ホニ・ケ・アロハ (辻フラスクール)
 メグミフラスクール
 ポポレファ
 マハロヌイフラスタジオ
 ウクレレフレンズ

(オ) 内容

前年度より開催時期を早めて夏の暑い時期にハワイアン音楽を聴いていただき、いつもとは少し違った博物館に親しんでもらった。福島県内で活躍する多数の出演者の協力もあり、参加者に楽しんでいただいた。



親子でやすらぐ子守唄コンサート②

カ. 親子でやすらぐ子守唄コンサート

(ア) 日時

平成28年10月28日 (金) 14時～15時30分

(イ) 会場 エントランスホール

(ウ) 参加者数 52人

(エ) 出演

第一部 トーク 西館好子氏 (日本子守唄協会理事) × 赤坂憲雄 (当館館長)
 第二部 子守唄演奏 稲村なおこ氏 (歌手)・藤井秀亮氏 (ギター)・逸見良造氏 (ピアノ)

(オ) 内容

子育て世代の県民に、親子あるいは祖母と孫でゆっくり子守唄を聴いていただき、博物館に親しんでもらうとともに、この世代にも博物館が利用しやすい場所であることへの理解を深めていただく機会となった。



親子でやすらぐ子守唄コンサート①

キ. クリスマスクラシックコンサート

(ア) 日時

平成28年12月17日 (土) 13時30分～15時

(イ) 会場 エントランスホール

(ウ) 参加者数 185人

(エ) 出演

市島徹氏 (フルート)、常光今日子氏 (ヴァイオリン)、津山博子氏 (ピアノ)、渡辺奈菜氏 (絵本朗読)

(オ) 内容

毎年恒例となっている12月第3土曜日のクリスマスコンサート。音楽好きの方々にも博物館に親しんでいただく機会とするため、10年来行っており、毎回好評を博している。今回はいわき市在住のクラシック音楽演奏家3人による、ブラーガ作曲「天使のセレナーデ」などの西洋音楽、「花・夏の思い出・赤とんぼ・雪・故郷」の日本の四季メドレーに加え、「サイレントナイト」などのクリスマスソングも交えて10曲を演奏して頂き、0歳から90歳の参加者の方々に楽しんで頂いた。演奏の他、お話とヴァイオリンのコラボレーションでは、福島県出



クリスマスクラシックコンサート

身の絵本セラピストによる絵本朗読とヴァイオリンの生演奏によるセッションを行った。

(3) 県・市町村埋蔵文化財技術協力

平成28年度に関しては、市町村教育委員会に対する技術協力事業はなく、県教育委員会文化財課に対する技術協力事業だけであった。

浜通り地方の復興事業のうち福島県が担当する復興事業の工事対象地に関しては県教育委員会が試掘調査を実施し、その結果、発掘調査が必要な部分については、財団法人福島県文化振興財団に発掘調査を委託して実施している。そのため、県教育委員会文化課は試掘調査をはじめとした現地調査を中心に担当している。

南相馬市原町区太田地区では県営農山村地域復興基盤総合整備事業として大規模な圃場整備事業が計画されている。工事対象地域はすでに登録されているもの以外にも埋蔵文化財包蔵地の存在が予想されるため、大規模な試掘調査を11月を中心に実施する必要が出てきた。

この時期は、南相馬市内に他にも複数の試掘調査予定地があり、広野町をはじめ他市町村でも試掘調査に対応しなければならない地区があるため、既存の調査担当者では対応できない状況となった。

そのため、当館に対して県教育委員会文化財課より職員の派遣依頼がなされ、当館学芸員森幸彦と荒木隆の2名を試掘調査協力のために派遣した。

業務内容としては、県営圃場整備事業太田地区事業地内の試掘調査に従事し、すでに登録されている埋蔵文化財包蔵地2か所に関して範囲の確定を行い、さらに未登録の埋蔵文化財包蔵地を4か所発見した。

派遣期間については、森幸彦が平成28年11月14日（月）～11月18日（金）の5日間、荒木隆が平成28年11月7日（月）～11月10日（金）及び平成28年11月21日（月）～11月23日（水）の8日間であった。

8. 次世代ミュージアム機能

第2期中期目標で目標設定している次世代ミュージアム機能に関して、「震災遺産」の保全による震災の共有と継承、福島県における新たな文化事業の創出と定着を達成するため、2件のプロジェクト活動を行った。

(1) はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト

ア. 事業の趣旨

平成23年3月11日の東日本大震災、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故により福島県内には津波・地震による被害に加え放射線汚染被害、さらに、そこに由来するコミュニティの分断、風評被害が発生し、今なお多くの局面で復旧・復興が急がれている。

この状況から一歩でも前進するため、福島県立博物館と福島県下の各地域の博物館、文化事業に携わる大学、NPOなどの諸団体が連携し文化活動の支援を行うことを目的に、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトを平成24年にスタートした。

平成24年度は、地域への愛着を象徴するような文化財の活用に配慮し復興につながる文化的事業の継続的な展開をめざした。

平成25年度は前年度の実績を踏まえ、事業をさらに発展させるとともに、福島県立博物館と地域との協働、他分野との連携・融合、地域へのアウトリーチを積極的に推進した。

平成26年度は、震災後4年目の福島に必要な文化的な事業を、各団体との協議の上で計画し、福島の文化の豊かさの再認識、福島の現状の共有と発信を柱に実施した。

平成27年度は、震災・原発事故からの時間の経過と共に際立つようになった県内各地域が抱える問題・課題の差異に留意しながら、それらの解決につながる文化的なアプローチとなることを目指した。

福島県を地理的に区分する「はま・なか・あいづ」は、それぞれの地域の文化や自然の特徴を生み、福島に多様な豊かさをもたらすものであり、福島県立博物館が開館以来、その活動をもって調査、収集、記録、発信していくべきものである。平成23年以降は、その地理的区分は、同時に、震災と原発事故による影響の差異を生み出すものともなった。その差異もまた、歴史的事象として当館が記録し、将来へ残すべき福島の記憶である。豊さと課題。福島が大事にし、向き合わなくては

ならないそれらを多くの方と共有することを目的に、福島県立博物館ならではの調査、記録の技術、経験、文化拠点としてのネットワークを活用し、平成28年度は11のプロジェクト・プログラムを実施した。

イ. 組織

1. 主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

構成団体：南相馬市博物館、福島大学つくしまふくしま未来支援センター、福島大学芸術による地域創造研究所、いいたてまでの会、NPO法人まちづくり喜多方、事務局：福島県立博物館

2. 協力団体：南相馬市国際交流協会／朝日座を楽しむ会／NPO法人まちづくりNPO新町なみえ／NPO法人西会津ローカルフレンズ／NPO法人Wunder ground

3. 実行委員会委員長：赤坂憲雄（福島県立博物館長）

4. 事務局：福島県立博物館

ウ. 実施期間

1. 実施期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

2. プロジェクト活動期間：平成28年4月21日～平成29年2月28日

エ. 参加アーティスト

約20人

オ. 主な活動エリア

1. 福島県内：南相馬市、浪江町、大熊町、いわき市、飯館村、福島市、西郷村、石川町、喜多方市、会津若松市、西会津町、三島町、双葉町等

2. 福島県外：新潟県長岡市、新発田市、栃木県足利市、長野県松本市、熊本県津奈木町

カ. 助成

平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

キ. 事業内容

1. 記憶の継承・コミュニティ創出プログラム

暮らしの記憶プロジェクト

平成25年度から浪江町請戸地区、南相馬市小高区を中心とした津波による流出家屋の撮影作業を行ってきたが、浪江町教育委員会のご協力で得られた情報をもとに、平

成28年度は、撮影家屋の住民の方々からかつての住まいでの暮らし、現在の暮らしについてお聞きし映像、テキストにまとめた。浪江町、二本松市、山形県などの、かつての住宅跡、仮設住宅、県内外の新しい住まいでインタビューを行った。その際、かつての住宅、現在の住宅の間取りを描いていただき、記憶と現状を比較する作業を行った。また、撮影成果を集約したプリント作品、記録集を制作。これらにより活動は立体的な構成を持ち、今後の活用が期待できる。

一歩一歩足元を撮影しながらの調査・記録は一ヶ所の住宅で2,000カットを超える。それらの住宅数件を構成し成果展で展示公開した作品は大きな反響を呼んだ。本年度に実施した住民の方々へのインタビュー映像に合わせ、失われたコミュニティ、生活再建への思いを記録するアーカイブとなった。

形式：調査・制作

アーティスト：安田佐智種



「暮らしの記憶プロジェクト」撮影風景

2. 記憶の継承・コミュニティ創出プログラム

地域の民俗の記憶プロジェクト

写真家高杉記子氏は、震災後、国指定重要無形民俗文化財相馬野馬追に出会い、祭礼に参加する騎馬武者の方々のポートレート撮影してきた。しっかりと大地に立つその姿は、土地に根ざした文化がいかに人々の誇りやアイデンティティを育んできたのかを物語る。

平成28年度は、実行委員会構成団体の一つである南相馬市博物館の学芸員二上文彦

氏からの提案を受け、野馬追を支える多様な人々の存在を捉え撮影した。獣医師、甲冑師、装蹄師、染め物師、神事に携わる御小人…。手仕事の人々にとって、まずは生業であり生活であり、技を磨き工夫することに余念がない。高杉氏の写真は、自らの技で野馬追に関わる喜びと誇り、土地の文化と人々の暮らしとのつながりを伝える作品となった。

「野馬追ダイアログvol.2」を、昨年引き続き南相馬市民文化会館ゆめはっとギャラリーで開催。華々しい騎馬武者とは異なり、地元でも知ることの少ない手仕事の人々の姿を高杉氏の写真作品と取材時に聞き書きした言葉で紹介するとともに、改めて野馬追が地域にとって、日々の暮らしの中で、どのような存在なのかを捉え直す場とした。

甲冑師の高橋一幸氏、南相馬市博物館学芸員二上氏、高杉氏によるトークセッション「野馬追のある土地と生活」は、仕事へのこだわり、野馬追への思い、野馬追を続けてゆく上で考えなければならない後継者の問題など、野馬追と手仕事をめぐる過去・現在・未来を語る場となった。また、当日は南相馬市博所蔵の甲冑や高橋氏の道具類が会場に展示され、高橋氏制作のパーツには実際に触れることもできた。高杉氏が本プロジェクトを通して築いてきた関係が様々な形で結びつき、野馬追のこれからにつながってゆく可能性を確かめることができた。

形式：調査・制作、トーク

アーティスト：高杉記子



「地域の民俗の記憶プロジェクト」トークイベント風景

野馬追ダイアログvol.2 野馬追をつなげる
手仕事の人々～いつのまにか甲冑師になっ
ていた～

会期：平成29年1月26日（土）
～2月5日（日）

会場：南相馬市民文化会館 ゆめはっとギ
ャラリー

後援：南相馬市、相馬野馬追執行委員会、
相馬野馬追保存会

協力：公益財団法人南相馬市文化振興事業
団

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジ
ェクト実行委員会

トークセッション「野馬追のある土地と生
活」

日時：平成29年2月5日（日）
13時30分～14時30分

会場：南相馬市民文化会館 ゆめはっとギ
ャラリー

講師：高杉記子（写真家）、高橋一幸（甲
冑師）、二上文彦（南相馬市博物館
学芸員）

ギャラリートーク

日時：平成29年1月28日（土）11時～12時
会場：南相馬市民文化会館 ゆめはっとギ
ャラリー

講師：高杉記子（写真家）

3. 記憶の継承・コミュニティ創出プログラ ム

飯舘村の記憶と記録プロジェクト

飯舘村の記憶と記録プロジェクトは、平
成23年に起きた東京電力福島第一原子力発
電所事故により全村避難となった飯舘村の
歴史や文化の継承を目的に、村の方々に村
での暮らしについてお聞きしてきた。そこ
から浮かび上がってきたのは、寒冷な厳し
い自然環境だからこそ、自然からの恵みを
大切に、日々の知恵によって自然と向き合
い、人と人のつながりを大事する生き様だ
った。

平成27年度からは写真家の岩根愛さんに
参加いただき、聞き書き調査にご協力をい
ただいた方のお話しに出てくるその人にと
っての大事な場所での撮影も行った。

岩根さんは、ハワイの日系移民への取材
で出会った360°撮影できる大型で時代物の
パノラマカメラで撮影を行っている。飯舘

村の方々への聞き書き調査とあわせてお話
しに出てくる場所での撮影を行うことで、
失ってしまったかつての飯舘村の存在をよ
り複合的に記録することができた。

今年度の撮影は、平成29年度から大きく
あり方を変える飯舘村の状況を直接的に伝
える結果ともなった。飯舘村は村内唯一の
帰還困難区域である長泥地区を除き平成29
年4月1日に帰村した。飯舘村に限らず避
難解除による帰町・帰村は、時にかつての
大切な暮らしの寄り処の消去を伴わせる。
失い、取り戻すためにまた失う。そして帰
れるか、帰れないのかの狭間で振り回され
続けている人もいまだ多数である。

飯舘村の記憶の記録プロジェクトは、か
つての飯舘村を言葉と写真で記録すると同
時に、今の飯舘村も残す結果となった。そ
れは、福島で起きていることを、その意味
を未来に問いかけるだろう。

形式：調査・制作

アーティスト：岩根愛



「飯舘村の記憶と記録プロジェクト」撮影風景

4. 学ぶ・知る・創造するプログラム

伝える考える福島の今プロジェクト

(1) 猪苗代フォーラム～触れてはいけない
ものにしないために。対話する、考える。

～

特定のテーマを切り口に、福島を伝え考
える場を設けることを目的とした本プロジ
ェクト。第1回となった猪苗代フォーラム
では、日本社会が抱える「触れてはいけ
ない」こと、そしてそれらを「触れてはいけ
ない」こととしてしまう社会の在り様を取
り上げた。

「触れてはいけない」と思われているこ

と。障害、貧困、格差、差別、政治、原発。福島？

「触れてはいけない」ことの渦中に身を置く人から、話を聞き、理解し（ようと努め）、自身の考えを探った。2日間に渡って行ったトークでは、避難、障害、福祉、文化、エネルギーなどをキーワードに5つのトークと2つのクロストークを行った。来場者も参加したクロストークのディスカッションは、対話の芽を生み出した。

会場はボーダレスな社会を文化で目指す猪苗代町のはじまりの美術館。静岡県浜松市で社会包摂を目指す活動を行っているNPO法人クリエイティブサポートレッツとの協働により実施した。

トーク「触れてはいけないものに触れる」
日時：平成28年8月19日（金）17時～20時
会場：はじまりの美術館
内容・講師：

トーク1「企業×NGO×避難者でつくる新しい仕事」富永美穂（NPO法人しんせい理事）

トーク2「ボーダーのない美術館」岡部兼芳（はじまりの美術館館長）

トーク3「文化が繋ぐ」川延安直（福島県立博物館学芸員）

クロストーク「触れてはいけないものに触れる」
富永美穂×岡部兼芳×川延安直×久保田翠（クリエイティブサポートレッツ理事長）×会場

トーク「福島から社会が変わる」
日時：平成28年8月20日（土）17時～19時
会場：はじまりの美術館
内容・講師：

トーク1「エネルギーを変える」佐藤弥右衛門（株式会社社会津電力社長）

トーク2「文化を変える」小林めぐみ（福島県立博物館学芸員）

クロストーク「考え、語り、動く社会の姿とは？」

佐藤弥右衛門×小林めぐみ×久保田翠×会場

主催：はじまりの美術館、認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会



「伝える考える福島の今プロジェクト」
猪苗代フォーラム風景

（2）トークイベント×現地視察ツアー「福島の風景から読むFUKUSHIMA」

特定のテーマを切り口に、福島を伝え考える場を設けることを目的とした本プロジェクトの2回目は、福島写真美術館プロジェクト参加作家の一人、写真家の土田ヒロミさんの福島での撮影の視点を基軸とした。

平成23年以降、定点観測のように福島県内のいくつかの場所を繰り返し訪れ撮影している土田さんの視点は、震災・原発事故後の風景の変遷を捉えた。トークと現地視察ツアーによって構成した本事業では、土田さんがこの5年間撮影された写真に導かれながら、福島の風景をともに読み解くことを試みた。

1日目のトークでは、土田さんと文化資源学を専門とされる木下直之さんのトークにより定点観測での撮影記録の意義を言語化。大熊町の鎌田清衛さん、飯舘村の菅野宗夫さんからは、避難地域の現状を文化と農業の側面からお聞きし、風景の変遷の背景への理解も深めた。

2日目、現地視察ツアーで実際に撮影ポイントをめぐる中、除染作業等で日に日に変わる風景が目にとまった。福島で今起きていることを実感するツアーとなった。

トークイベント
日時：平成28年11月19日（土）

15時～18時30分

会場：県庁南再エネビル会議室

内容・講師：

「福島の風景から読むFUKUSHIMA～

土田ヒロミ WORKS 2011-2016から」
土田ヒロミ（写真家）×木下直之（東京大学教授）

「福島の文化財保存の現状について」 鎌田清衛（おおくまふるさと塾顧問、大熊町文化財保護審議委員）

「福島の農業復興計画現状について」 菅野宗夫（農業、福島再生の会副理事長）

現地視察ツアー

日時：平成28年11月20日（日） 9時～20時
開催地：川俣町、飯館村、南相馬市、浪江町、大熊町、富岡町

講師：土田ヒロミ、菅野宗夫

協力：文化資源学会

主催：はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト実行委員会



「伝える考える福島の今プロジェクト」
トークイベント×現地視察ツアー風景

(3) 現地視察ツアー「福島・文化・文化財～被災地のミュージアムと文化財のこれから～」

震災後間もなくから開始された文化財レスキューも現在は一段落し、レスキューされた文化財は各所の仮保管施設に収蔵されている。帰還が始まった地域が拡大する中、東京電力福島第一原子力発電所に近い双葉町は現在も一般の立ち入りが禁止されている。本ツアーでは双葉町の多大なご協力をいただき、双葉町歴史民俗資料館、老人介護施設等を巡った。福島県立博物館で収集・展示された震災遺産資料を見学、映画「ASAHIZA」観賞、南相馬市博物館学芸員の案内で仮収蔵されているレスキューされた資料を見学、さらに参加者間のダイ

アログを交えることで、福島の文化財の状況を知り、文化の意味を考えるツアーとなった。映像監督・藤井光が同行し詳細な映像記録を収録した。

1日目

日時：平成29年2月17日（金）

13時30分～17時

開催地：福島県立博物館

内容：

映画「ASAHIZA」上映

ふくしま震災遺産保全プロジェクト収蔵資料・成果展見学

ディスカッション「福島の震災をいかに伝えるか」 司会：藤井光（映像作家）

2日目

日時：平成29年2月18日（土）

9時30分～18時30分

開催地：南相馬市

内容：

ツアーガイド「震災後の福島での撮影について1」 報告：藤井光

南相馬市博物館、南相馬市立福浦小学校見学 ガイド：二本松文雄（南相馬市博物館学芸員）

ディスカッション 司会：藤井光

3日目

日時：2月19日（日） 9時30分～19時

開催地：いわき市、双葉町

内容：

トーク「文化財レスキューについて」 報告：藤井光、吉野高光（双葉町教育委員会生涯学習係長）

双葉町歴史民俗資料館、ヘルスケアふたば、復興祈念公園・アーカイブ拠点施設予定地見学 ガイド：吉野高光、橋本靖治（双葉町秘書広報係長）



「伝える考える福島の今プロジェクト」
現地視察ツアー風景

協力：双葉町、南相馬市博物館、「寄留者たち」制作委員会

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

5. 学ぶ・知る・創造するプログラム

福島祝いの膳プロジェクト

福島では食の安全・信頼が、東京電力福島第一原子力発電所の事故によって深く傷つき、いまだ大きな揺らぎの中にある。フードアーティストの中山晴奈氏は、福島の持つ食文化の多様性、豊かさを捉え直すべく、県内各地で食材・食文化のリサーチを継続している。

平成28年度は西会津町、昭和村、北塩原村、福島市のリサーチを行った。

山の懷に抱かれ、山の恵みの豊かな西会津町では、山菜の種類、採り方、調理法、保存のための加工法をリサーチ。冬が厳しい土地だからこそ、山からいただいた恵みを大切に大切に保存する技術が発達していた。同じく山深い昭和村では、豆の多様な品種とその調理法、貴重な栄養源ともされた水飴の製法などを調査。この二つの土地には、そこで採れたものを食べ、丁寧に生きる食文化があった。

北塩原村の裏磐梯では寒冷な土地ならではの蓴菜（じゅんさい）栽培を調査。後継者不足を契機に、蓴菜沼を新たな観光資源として活用していく取り組みがなされていた。また、北塩原村では塩分の高い温泉を利用した山塩の歴史・製法も調査。一度途絶えた製法を試行錯誤のうえ復活させ、特産品として定着させている。食の新たな活用と価値付けの試みがなされている。

福島市では梨と桃の果樹園で聞き取りを実施。主に贈答用に出荷される高級果物は、原子力発電所事故の影響を被った食品でもある。福島はフルーツ王国とも称されるが、果樹栽培の歴史は福島の近代の歴史とも直結している。

主に海産物のリサーチを行った平成27年度に対し、今年度は内陸部が中心となった。その土地に根ざした食材・食文化、食と密接に結びついた土地の歴史。福島の食文化の豊かな広がり、食を通して見る文化という視座の面白さを改めて確認できた調査だった。

形式：調査・制作、トーク

アーティスト：中山晴奈



「福島祝いの膳プロジェクトプロジェクト」調査風景

福島祝いの膳プロジェクト いわきフォーラム

平成26年、平成27年と行ってきた、いわき市での伝統食・水産業、食の現状に関するリサーチ結果をもとに、いわき地域の食文化の多様性、海の恵みについて知り、福島の食文化再興に向けて意見を交わすためのフォーラムをいわき市内2カ所で二日間にわたって開催。講師は中山晴奈氏と、中山氏がいわきのリサーチで関わることとなった多様な方々、漁師・猟師の写真で知られる写真家の田附勝氏。

食べることは命をいただくこと。だからこそ祈りに通じ、目には見えない何者かにつながる行為でもある。数値で食の安全が測られている今、食べることはどういうことか、信頼するとはどういうことか、食の本質にせまる対話がなされた。

車座トーク「いわき食べものがたり」

日時：平成28年7月8日（金）

17時～19時30分

会場：四家酒造

内容・講師：

クロストーク1「いわきの食、いまむかし」

中山晴奈（フードアーティスト）、有賀行秀（北関東空調工業株式会社代表取締役）、四家久央（四家酒造店代表社員）、阿部峻久（NPO法人Wunder Ground）

クロストーク2「いわきの魚食、東北の魚食」

中山晴奈、小松理虔（ライター、いわき海洋調べ隊「海ラボ」研究員）、田附勝（写真家）

車座トーク「いわき食べものがたり」

クロストーク「潮目の血」

日時：平成28年7月9日（土）14時～17時

会場：UDOK.

内容・講師：

トーク1「三陸～いわき海と食の復権」

中山晴奈

トーク2「うみラボから分かること」

小松理虔

トーク3「写真集『魚人』『おわり。』の世界～漁と猟～」田附勝

クロストーク「潮目の血」中山晴奈×小松理虔×田附勝

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

6. 学ぶ・知る・創造するプログラム

(1) 夢の学び舎 いわき学校プロジェクト
豊間ことばの学校「海のうた」をつくる

いわき市立豊間小学校は校舎から海が見える海辺の学校。校舎は難をまぬがれたが、周辺地域は津波の被害に見舞われた。震災後、小学校は支援の受け入れの拠点となり、慌ただしい日々が続いた。こどもたちの学力低下を心配した先生方と相談し、始められたのが豊間ことばの学校。自分の感情や思考を「ことば」にして伝える力、相手の「ことば」を受け取る力、「ことば」によって他者と思いを共有する力がすべての基礎になると考え、平成26年度から「ことば」の力を身につけるワークショップを行ってきた。多様なジャンルの表現者を講師に迎え、「ことば」で表現すること、創造することの喜び・楽しみをこどもたちと分かち合い、「ことば」の力を引き出してきた。

3年目となる平成28年は、歌手・女優・声優の玉井夕海氏を講師に招き、「海のうた」をつくるワークショップを行った。第1回は自分の中の海を描くワークショップ。最初は通り一遍の海を描いたこどもたちも、玉井氏の歌を聴くうちに解放され、それぞれの海を描き出した。第2回は、初回に描いた絵を見ながら、自分にとっての海を「ことば」にした。第3回は玉井氏がこどもたちの「ことば」を受けて作成した歌詞を吟味し、リズムに合わせて合唱・合奏。こどもたちと玉井氏の対話から「海の

うた」が生まれた。

形式：ワークショップ

アーティスト：玉井夕海



「夢の学び舎 いわきプロジェクト

豊間ことばの学校」ワークショップ風景

第1回 みんなの「海」を描く。絵とことばで表わす「海」

日時：平成28年9月14日（水）

14時30分～16時

第2回 みんなの「海」を書く。絵とことばで表わす「海」

日時：平成28年9月21日（水）

14時30分～16時

第3回 みんなの「海」でうたをつくる

日時：平成28年9月28日（水）

14時30分～16時

(2) 好間土曜学校

「いのちの物語」をつくろう

いわき市には東京電力福島第一原子力発電所事故から避難した人々が多く移り住んでおり、いわき市立好間第一小学校の学区にも複数の仮説住宅がある。避難してきたこどもたちと受け入れ地域のこどもたちが、自然に仲良くなる場をつくりたいという小学校の課題に応じて実施されたのが「好間土曜学校」。平成26年から平成28年まで、土曜日に開かれる体験型の学校のテーマは「自然の素晴らしさ」「命の尊さ」。参加したアーティストそれぞれの表現手法で、テーマを学び創造を楽しむ授業を行った。

平成28年度の講師は美術家の中津川浩章氏。こどもたちは体全体を自由に使って「いのちの物語」を作り上げた。第1回は、大きな画面に鉛筆で、体中を使って音に合わせて線を描いていくことの楽しさを体

感。第2回は絵の具を使って体感するワークショップ。第3回は前回の画面をびりびりに引き裂き、こどもたちの思い描くいのちのかたちを貼り絵に。

体全体で素材の感触、線を引くこと色を置くこと、音と一体となることを体験したこどもたち。こどもたちの爆発的なエネルギーは「いのちの物語」そのものだった。

形式：ワークショップ

アーティスト：中津川浩章



「夢の学び舎 いわき学校プロジェクト
好間土曜学校」ワークショップ風景

第1回 音に合わせて線を描こう

日時：平成28年7月2日（土）

10時～11時30分

第2回 大きな絵を描こう

日時：平成28年7月9日（土）

10時～11時30分

第3回 「いのちの物語」をつくろう

日時：平成28年7月16日（土）

10時～11時30分

7. 学ぶ・知る・創造するプログラム

夢の学び舎 なみえ学校プロジェクト

東京電力福島第一原子力発電所事故により浪江町は役場機能を福島県二本松市に移した。それにともない二本松市内に二つの浪江町立の小学校が仮校舎を開校。避難から5年が過ぎ、在校児童の多くがリアルな故郷の記憶が少なくなりつつある。そんな中、二つの小学校では、故郷・浪江町について子どもたちが学ぶ「ふるさとなみえ科」を開校。避難している町の方々から聞いたり、調べたりしながら浪江町を学ぶことをはじめた。授業で生まれた成果は、そのまま浪江町を伝える大事な資料。そこでそれ

らを展示する「博物館」を校内に設け、子どもたちが学芸員として展示や解説を行う構想が生まれ、本プロジェクトが協働することとなった。

福島県立博物館学芸員から「博物館と学芸員」について学び、後日、実際に福島県立博物館を見学。展示室やバックヤードの見学で展示の手法、資料の保存方法などを学んだ。みんなで名称を考えた「ふるさとまるごとなみえ博物館」の看板はワークショップで作成。個性あふれる看板となり校内2階のフリースペースを活用した博物館に設置された。「ふるさとなみえ科」で行った浪江町と避難先である二本松市の文化の調査は、手書きの解説パネルとしてまとめられた。パネルを前に説明する姿は学芸員そのものだった。

主な活動時期となった二学期、活動を記録し伝えるための撮影を映像作家の赤間政昭氏が担当。二本松市内の仮校舎での子どもたちの日々の表情。町のこと、自分たちの将来を真剣に考える姿。両校の校長先生に案内いただき伺った浪江町の本校。人がいなくなった5年間で澁のように重なっている校舎内。残されたままの平成23年3月の避難当時の足跡。子どもたちが故郷の記憶を持ち得なくなっている背景を伝えるために、そして平成23年に起きた事実を忘れずに伝えていくために、8人の子どもたちが日々暮らす仮校舎と浪江町内の本校の映像をあわせて編集し、映像作品とした。

ワークショップ「浪江小学校・津島小学校の博物館の看板を作ろう」

第1回 日時：平成28年7月12日（火）

12時5分～12時45分

第2回 日時：平成28年8月31日（水）

10時30分～12時

講師：川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子
（福島県立博物館学芸員）

成果発表会

日時：平成29年2月21日（火）

12時30分～14時

主催：浪江町立浪江小学校、浪江町立津島小学校

協力：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

映像作品《ふるさとなみえ科8人の二学期》



「夢の学び舎 なみえ学校プロジェクト」
ワークショップ風景



「岡部昌生フロッタージュプロジェクト」トーク風景

アーティスト：赤間政昭

8. 震災後の福島を記録し発信するプログラム

岡部昌生フロッタージュプロジェクト

岡部昌生フロッタージュプロジェクトは平成24年から継続。南相馬市博物館、地域の方々の協力を得て津波被害の生々しかった南相馬市、浪江町沿岸部では、住宅地に漂着したテトラポッド、破断した防潮堤、倒壊した耕地整理碑など津波の痕跡を刻む遺構から制作した。以後、制作対象は東京電力福島第一原発事故とそこにつながる福島の歴史に向かった。平成28年度は飯館村を主なフィールドに除染作業で伐採されたイグネ（屋敷林）、伐採されず残され被曝し続ける樹木の連作を制作。樹木の所有者の方たちとの対話からは飯館村の戦後史が浮かび上がった。制作された作品は、成果展の他、あいちトリエンナーレ2016等でも公開され、名古屋・広島・東京などで福島の現状を広く発信した。長岡市、松本市での成果展では岡部昌生氏のトークイベントを開催。開催地内外の全国から参加者があり、本プロジェクトの広がりが実感された。

形式：調査・制作

アーティスト：岡部昌生

9. 震災後の福島を記録し発信するプログラム

福島写真美術館プロジェクト

平成23年の東日本大震災は、映像テクノロジーの発達により無数の映像が記録され

た史上初の災害だった。報道関係者による発災直後の迅速な行動は多くの貴重な映像を残した。また写真家による表現も優れた仕事が多く残された。震災から6年を経たなお、福島で進行する原発事故への対応はいまだに終わりが見えない。このような状況に真摯に向き合う写真家たち4名がそれぞれ視点で活動した。

土田ヒロミ氏は平成23年から福島に通い定点観測で風景を撮り続けている。当初は原発事故後も変わらぬ里山の風景を記録していたが、今も進む大規模な除染作業により次第にその風景は変貌を始めた。壊れゆく風景を見つめる写真家の目は福島の現状を切り取り続けている。丹念な取材によって集積された情報に基づき撮影ポイントをめぐるツアーを実施。一般の被災地ツアーとは異なる視点は参加者の高い満足を得て、福島の現状を発信した。

赤阪友昭氏は奥会津と呼ばれる山間地に位置する三島町に通い、地域の住民と交流を重ねながらそこで営まれている暮らしを取材。不便な限界集落とされる地域での自然に寄りそう暮らしは、実は魅力に溢れるものであることを伝えた。原発事故の被害は、それによって何が失われるかを知ることから考えねばならない。赤阪友昭氏は、決して失ってはならないものは何かを問いかけた。

本郷毅史氏は震災前から河川の源流域を探り撮影する活動を続けている。活動は同じでも、原発事故前と事故後では、本郷氏の作品が持つ意味は大きく変化した。命の源である水もまた決して汚してはならないもの。ひたすら源流に遡上する撮影行は求

道的ですらある。水というテーマは誰しもの共感を得るもので、各地での成果展でも反響を呼んだ。

須賀川市は福島県のほぼ中央部、阿武隈川流域に位置する。原始・古代からの遺跡が多く、歴史の厚い層を重ねた地域である。村越としや氏は、風景に秘められた気配を捉える作品を多く制作しており、本事業では、須賀川市文化振興課の管野和博氏と協働し市内の遺跡を撮影した。学術資料的写真とは異なるアプローチで土地の気配を写し取る手法と埋蔵文化財の調査データが近づくことで両者の視野が広がった。

サイアノタイプの写真による表現を続けている写真家・千葉奈穂子氏は、東日本大震災後、南相馬市鹿島区で滞在制作を繰り返している。滞在先の農家民宿を拠点に周辺地域を丹念に歩き、地域の方々の話に耳を傾ける事から始まる制作は、災害の大きさから見落としてしまう小さな息遣いをすくい取った。本年度はこれまでの滞在で積み重ねた制作を基に震災後の南相馬の一断面を映像にまとめた。

形式：調査・制作・ツアー
アーティスト：土田ヒロミ



「福島写真美術館プロジェクト」調査・撮影風景

形式：調査・制作
アーティスト：赤阪友昭
形式：調査・制作・トーク
アーティスト：本郷毅史
形式：調査・制作・トーク
アーティスト：村越としや



「福島写真美術館プロジェクト」調査・撮影風景

形式：調査・制作
アーティスト：千葉奈穂子

福島写真美術館プロジェクト成果展 + PLUS新発田

本プロジェクト参加作家の土田ヒロミ、赤阪友昭、本郷毅史、村越としや各氏に加え、写真表現を用いている地域の民俗の記憶プロジェクトの高杉記子氏、飯館村の記憶と記録プロジェクトの岩根愛氏、南相馬環境記録プロジェクト（平成25・平成26年度）の片桐功敦氏の作品によって構成した県外での成果展。

会期中、参加作家の片桐功敦・本郷毅史両氏、写真家・著述家の港千尋氏と原亜由美氏（写真の町シバタ・プロジェクト実行委員会実行委員）、写真評論家の飯沢耕太郎氏と村越としや氏の3組がトークイベントを行った。

会場交渉から広報、展示・撤収作業、トークイベントへの参加まで、多方面にわたって写真の町シバタ・プロジェクト実行委員会の方々にご協力いただいた。他プロジェクトとの共催は、今後の地域間連携の可能性を示した。

会期：平成28年10月19日（水）
～11月4日（金）

会場：金升酒造 二號蔵ギャラリー
協力：敬和学園大学

共催：写真の町シバタ・プロジェクト実行委員会

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会



「福島写真美術館プロジェクト」成果展新発田展示風景

オープニングイベントトークセッション
「写真家の見た福島」

日時：平成28年10月18日（火）
18時～19時30分

会場：金升酒造 蔵カフェ
講師：片桐功敦（華道家）、本郷毅史（写真家）

トークイベント「写真の力と土地の記憶」

日時：平成28年10月26日（水）
19時～20時30分

会場：金升酒造 蔵カフェ
講師：飯沢耕太郎（写真評論家）、村越としや（写真家）

トークイベント「写真と記憶 シバタ・フクシマ」

日時：平成28年11月2日（水）
19時～20時30分

会場：金升酒造 蔵カフェ
講師：港千尋（写真家/著述家）、原亜由美（写真の町シバタ・プロジェクト実行委員会実行委員）

ギャラリートーク

日時：平成28年11月3日（木・祝）
11時～12時、15時～17時
会場：金升酒造 二號蔵ギャラリー
講師：小林めぐみ（福島県立博物館学芸員）

福島写真美術館プロジェクト成果展「須賀川 大地に眠る記憶～写真家・村越としやが見た須賀川の古代」

担当作家の写真家・村越としや氏は須賀

川市出身。東京に活動拠点を置く現在も実家のある須賀川市にたびたび戻り撮影を続けている。土地に眠る古層の記憶を引き出す視線が彼の作品の持ち味。本年度は須賀川市文化スポーツ部文化振興課文化財係の菅野和博氏と連携、協働し須賀川市内の遺跡をテーマに調査・撮影した。作品制作の過程では埋蔵文化財の専門家と写真家の対話が交わされ、そのことで埋蔵文化財の発信手法の検討、遺跡の価値の掘り下げが進んだ。震災・原発事故からの復興には、地域のプライドの復権が欠かせない。その基本となるのは地域の歴史と文化である。文化財の専門家が写真家の美的視点を学び、写真家は自らの視点を学術的情報によって広げた。学術と芸術の融合の試みだったが、成果展のトークイベントには考古学に関心のある一般の方に加え、行政関係者、写真家の姿が多く見られ関心の高さがうかがえた。今後の展開が期待できた。

会期：平成29年1月12日（木）
～1月29日（日）

会場：牡丹会館
主催：須賀川市、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト



「福島写真美術館プロジェクト」成果展須賀川展示風景

トークイベント「遺跡の調査と発信～写真家の眼から～」

日時：平成29年1月29日（日）
13時30分～15時

会場：牡丹会館
講師：村越としや（写真家）、菅野和博（須賀川市文化振興課学芸員）

10. 震災後の福島を記録し発信するプログラ

ム

黒塚発信プロジェクト

福島県二本松市の安達ヶ原に伝わる鬼婆伝説は、京の都からみちのくへ公家の娘の病を治すために赤子の生き肝を取りに来た乳母が鬼婆と化す物語。地方と都市、供給と消費の関係からは東京電力福島第一原子力発電所事故へ繋がる東北への眼差しを感じさせる。

平成26年度・平成27年度・平成28年度と展開してきた本プロジェクトは、安達ヶ原の鬼婆伝説を震災後の福島の視点で解釈し身体表現として映像記録に残し、その過程を、トークイベント、公演などで公開するもの。平山素子氏・大野慶人氏に続き、本年度は館形比呂一氏のパフォーマンス公演を開催、映像を記録編集した。

公演は二本松市の安達ヶ原ふるさと村に移築された古民家を舞台に開催。かつて養蚕を営んでいた民家は二階建ての重厚なもので、ダイナミックな舞踊が行われた。これまで見学のみの利用だった古民家の魅力を引き出したことも大きな成果だった。本プロジェクト実行委員会実行委員でもある福島大学渡邊晃一教授が運営する福島現代美術ビエンナーレ実行委員会、二本松市の協力を得ることができ、多くの観覧者があった。

三部作となった映像は、今後、福島、東北の現状と未来を共有する上映会、トークイベント等で活用される。

形式：公演

アーティスト：渡邊晃一

ゲストアーティスト：館形比呂一、増山和信

公演「KUROZUKA 闇の光」

日時：平成28年9月9日（金）、10日（土）
18時30分～19時30分

会場：安達ヶ原ふるさと村 農村生活館
協力：二本松市、二本松市振興公社、福島現代美術ビエンナーレ実行委員会
主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

映像作品《KUROZUKA 闇の光》

主演：館形比呂一（舞踏家・振付家・俳優）
映像監督：増山和信
企画・美術：渡邊晃一

11. 福島交流・発信プログラム

(1) 成果展 FUKUSHIMA SPEAKS アートで伝える考える福島の今、未来 in NAGAOKA

平成28年度最初の成果展は、新潟県長岡市の長岡造形大学で開催。新潟県中越地震を経験し、東京電力柏崎刈羽原子力発電所が近隣に立地、震災後、福島県からも多くの避難者が向かった長岡市での開催を、本プロジェクトは以前から希望していた。同大学小林花子准教授の協力を得て学生とも協働して展示作業を行い美術系大学らしい質の高い展示となった。トークイベントには学生に加え一般の方も参加し活発な質疑が行われた。

会期：平成28年5月23日（月）
～5月29日（日）

会場：長岡造形大学 1F ギャラリー
協力：Hibari-sya（雲雀舎）

主催：長岡造形大学小林花子研究室、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会



「黒塚発信プロジェクト」公演風景



「福島交流・発信プログラム」成果展長岡展示風景

ギャラリートーク「アートで伝える考える福島の今」

日時：平成28年5月26日（木）18時～

会場：長岡造形大学1Fギャラリー

講師：岡部昌生（美術家）、川延安直（福島県立博物館学芸員）

(2) 成果展 アートで伝える考える福島の今、未来 in ASHIKAGA

栃木県足利市では足利市立美術館学芸員の協力のもと足利商工会議所友愛会館を会場に開催。展示スペースに合わせ岡部昌生フロッタージュプロジェクト、福島写真美術館プロジェクト「南相馬環境記録プロジェクト」から主に南相馬市の状況を伝える作品を展示した。

足利市は渡良瀬川流域、足尾銅山の下流に位置する。足尾鉍毒事件から福島が学ぶことは多く、トークイベントでは田中正造の活動を中心に対話が行われた。

会期：平成28年9月6日（火）

～9月14日（水）

会場：足利商工会議所友愛会館 1F ギャラリー・カッサ、市民ギャラリー

協力：足利商工会議所、足利市立美術館

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会



「福島交流・発信プログラム」成果展足利展示風景

トークイベント「足尾の記憶・福島の未来」

日時：平成28年9月10日（土）14時～16時

会場：足利趣向会議所友愛会館 4F 会員サロン

講師：川島健二（民俗学研究者、群馬県邑楽町文化財保護調査委員）、皆川俊平（WATARASE Art Project代表）、

篠原誠司（足利市立美術館学芸員）

(3) 成果展 アートで伝える考える福島の今、未来 in MATSUMOTO

松本市街地のアートスペースawai art center、長野県大町市在住の本プロジェクト参加作家・本郷毅史氏、信州大学分藤大翼准教授らの協力により松本市内4ヶ所で開催。小規模な会場での分散開催となったが、アートスペース、蔵、大学図書館という、それぞれの会場の特性を活かした展示となった。クロストークには松本・長野と福島をつなぐ参加作家が登壇し、課題・成果を共有する場となった。また、awai art center、信州大学の協力を得て若い世代にも運営に関わっていただけただことは大きな成果だった。

会期：平成28年12月7日（水）

～12月23日（金・祝）

中町・蔵シック館は12月7日（水）～12月16日（金）

会場：awai art center、中町・蔵シック館、池上邸・蔵、信州大学附属図書館中央図書館

協力：awai art center、信州大学附属図書館中央図書館

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会



「福島交流・発信プログラム」成果展松本展示風景

クロストーク「岡部昌生フロッタージュプロジェクト 記憶と記録」

日時：平成28年12月6日（火）

18時～19時30分

会場：awai art center

講師：岡部昌生（美術家）、港千尋（写真

家／著述家)

クロストーク「間（あわい）としてのふくしま」

日時：平成28年12月23日（金・祝）
15時30分～18時

会場：池上邸・蔵

講師：本郷毅史（写真家）、玉井夕海（女優、歌手）、茂原奈保子（awai art center 代表）、分藤大翼（信州大学准教授）

モデレーター：川延安直（福島県立博物館学芸員）



「福島交流・発信プログラム」成果展つなぎ展示風景

ギャラリートーク

日時：平成28年12月7日（水）
10時30分～12時、14時30分～15時

会場：中町・蔵シック館、池上邸・蔵、awai art center、信州大学附属図書館中央図書館

講師：岡部昌生（美術家）、本郷毅史（写真家）、川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子（福島県立博物館学芸員）

講師：吉本哲郎（地元学ネットワーク主宰）、緒方正人（漁師）

モデレーター：川延安直（福島県立博物館学芸員）

トークイベント「つなぐ未来－熊本・福島－」

日時：平成29年2月12日（日）
13時30分～15時

会場：つなぎ美術館

第1部「つなぎでつなぐ熊本・福島」

講師：玉井夕海（女優、歌手）

聞き手：楠本智郎（つなぎ美術館学芸員）

第2部「もやいとまでい 水俣・福島からの未来」

講師：田口ランディ（小説家、エッセイスト）

聞き手：赤坂憲雄（福島県立博物館長、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会委員長）

(4) 成果展 アートで伝える考える福島の今、未来 in TSUNAGI

本展は水俣市の北隣にある津奈木町のつなぎ美術館を会場に開催。同館は津奈木町が取り組んだ文化芸術による水俣病からの再生の一環として設立され、地域資源を活用した住民参加型アートプロジェクトを実施している。2回実施したトークイベントにも多くの来場者があり、関心の高さを実感できた。原発事故による放射能汚染のただ中にある福島にとって水俣は学びの地であり、多くの課題・目標を持ち帰ることとなった。熊本地震の発生により開催を危ぶむ時期もあったが、被災地だからこそ実施すべき意義のある成果展となった。

会期：平成29年1月21日（土）
～2月19日（日）

会場：つなぎ美術館

共催：つなぎ美術館

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

トークイベント「水俣に学ぶ・福島を伝える」

日時：平成29年1月21日（土）
会場：つなぎ美術館

(5) アートで伝える 考える 福島の今、未来 at Fukushima Museum

詳細は3. 展示事業(4)特集展ウ該当箇所参照。

(2) ふくしま震災遺産保全プロジェクト

東日本太平洋沖地震は県内に甚大な被害をもたらし、原発事故も引き起こした。これらにより多量の瓦礫、仮設住宅や汚染物質の保管施設など予想しなかった非日常の景観を新たに生み出した。本プロジェクトは、震災が発生させたこれらの遺産を次世代に震災の経験を伝える地域の重要な歴史資料と捉え、それらを保全し、防災教育等へ活かすための取り組みであり平成26年度から開始した。

事業は文化庁の文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）の採択を受け、実行委員会を組織（実行委員会構成団体：相馬中村層群研究会・南相馬市博物館・双葉町歴史民俗資料館・富岡町歴史民俗資料館・いわき市石炭化石館・ふくしま海洋科学館・いわき自然史研究会・福島県立博物館）し、事務局を県立博物館内において以下の事業を実施した。なお平成27年度から博物館内に震災遺産保全プロジェクトチームを設置している。

1. 各種検討会議の開催

検討会議は4月・12月・3月に開催し、延16名の委員の出席があった。4月の会議では、今年度の重点目標と計画について承認を得た。また震災遺産の所有権について委員から意見があった。12月の会議では中間報告を行った。また今年度でプロジェクトを終了する議案を提出し了承された。これに伴い規約を改正し、財産処分に関して、成果品は目的を同じくする公共団体に寄贈する旨の文言を追加することになった。結果的に、プロジェクトの成果品は基本的に福島県立博物館が引き継ぎ保管することになった。3月最終報告では、年末から3月まで連続して開催した普及事業の報告と3年間の総括を実施した。

2. 震災遺産の調査・保全の実施

（1）震災遺産に関する各種調査の実施

①総合調査・収集の実施（調査・収集）

調査・保全は25回実施し、収集した震災遺産は約500件である。今年度は初年度と同じく浜通りを中心とするエリアの調査が主体であったが、前年度までにあまり立ち入ることのできなかった浪江町津島地区や双葉町・大熊町の帰還困難区域の調査が多くなった。大熊町に所在するオフサイトセンターでは3月15日まで原子力発電所事故対応の情報収集や放射能のモニタリングの拠点として機能した場所であるが、その数日間の対応を物語る物品等約500点の一覧表を作成した。双葉町からは原子力広告塔に用いられた文字看板を保全した。浪江町津島地区では、通常人口をはるかに超える双葉郡からの避難者が中山間地に集中し、学校を中心とする公共施設が避難所となった。ホワイトボードには安否情報が隙間なく書き込まれ残されている。沿岸部に所在した「一日だけの避難所」とは全く様相が異なる。中通りでは、県立高校のサテライト制度の終了に伴い閉鎖・撤去される福島市の富岡高校サテライト校で調査・収集を実施

した。原子力災害関係では風評被害に注目し、農産物の安全周知や大型観光キャンペーンの広報物を関係各所と交渉して入手し保存した。いわき市では重点的な取組として継続している田人地域の活断層のレーザー測量を実施し、余震で生じた地形の3次元データを取得した。



オフサイトセンター・原子力センターの調査（大熊町）



津波被災線路の保全（富岡町）

②震災標本採取（標本作成）

広野町・いわき市に続き今年度は南相馬市小高区にて津波堆積物の土層断面転写標本を5地点で作製した。作成に当たり沖積層の堆積物に詳しい専門家を招聘し、堆積のメカニズムを検討したうえで実施した。採取された土層の連なりは、特定の場所での「年表」であり、土地変遷と被災の事実を伝える教材となる。作業期間中に現地説明会を実施し、土地利用について地元の参加者から教示を得ることができた。今後は完成した標本を地元でも公開していく予定である。

③先進事例調査（事例調査）

長崎市の原爆資料館と史跡原爆遺跡、島原市・南島原方面で雲仙普賢岳の噴火被害の伝

承の仕組みを参考とするため2月に長崎県を訪問した。これまで先進調査は地震津波被災をテーマとしていたが、今回はより広く、戦災や火山災害という別の観点での伝承事業を調査することも目的であった。原爆被災地や火砕流被災地を史跡や遺跡としてみる視点に本プロジェクトと共通性がある。また震災遺産の整理や保存処理の参考とするため、国会図書館が主催した福島市での講習会や文化財レスキューにおける津波被災資料の取り扱い事例を調査するため、東北歴史博物館等を視察した。

(2) 資料の整理・保全

①資料の洗浄・養生・燻蒸・整理

南相馬市の津波被災消波ブロックの現地保存を除き、収集した震災遺産（遺物）は原則として福島県立博物館へ搬送している。大型遺物はクレーン付き車両をチャーターして運んだ。ここからの扱いは通常の博物館資料と同じであり、燻蒸を行って収蔵庫に保管される。燻蒸はコンテナ付トラック内で実施する「トラック燻蒸」方式を10月に委託して行った。

津波被災した鉄製の震災遺産は防錆が課題であり、前年度は試験的な脱塩を実施したが今年度は先進事例調査の知見を参考に、本格的な脱塩処理を道路標識や津波被災パトカーの部品で実施した。脱塩の手順は、状態調査（剥落・亀裂・破損の確認）→ドライクリーニング→剥落止め（現状保持のための補強）→脱塩液浸漬→溶液の水洗→乾燥→防錆処理（試薬塗布）となる。南相馬市の津波堆積土層転写標本は、水洗・補修・土台へ接着・表面仕上げを実施した。

収集した震災遺物は形状・素材が多様で規格性がなく取り扱いにくいものがある。そのため当初はプラスチックコンテナ（テン箱）



震災遺産の脱塩作業（県立博物館）

に入らないものはエアークッションと養生テープで梱包することが多かった。しかし粘着によって資料面を傷めてしまう恐れがあることを踏まえて、板ダンボールや木材を用意し「セルフメイド」（自作）で、特定の尺で採寸した保管箱を約200点製作した。保管箱には外面に内容物に関するラベリングを実施し管理している。箱製作によって普及事業のために館外に搬出する際の車両積込がとても効率的になった。これらの震災遺産は、博物館の収蔵庫の一角を再整理してスペースを確保して管理・保管している。

②資料データベースの作成

クリーニングを経た遺物は、機械的に仮ナンバーを付して撮影を行い、データベースの整備を進めた。収集時に現地で仮ナンバーを付し、リストを作成している場合は、現地情報と照合できるようにしている。現地記入情報を含め、1件の遺物に対し36項目の観察・計測項目を設定し、法量・素材・被災痕跡・出品履歴等を記入し約2,000件整備した。

フィールド調査で撮影した写真も膨大な量があり、日付ごとのデータファイルから地域・地点別フォルダーに移行する作業を継続し、震災遺産のデータベースへ反映させている。震災遺産データベースの階層性をどのレベルに保持するのか課題であったが、市町村—震災遺産—震災遺産各エリア—エリア内の地点という4階層に整理し、最下層で震災遺物データベースとリンクできる体系を目指した。

3. 普及事業の開催

(1) 野外講座

①体験型震災遺産保全事業（ワークショップ）

初年度からの継続事業としていわき市田人地区の活断層の保存活用の一環として事業を実施した。目的は、震災遺産を地域の歴史・文化資産として地域の人々に広く公開し、震災でふるさとに何が起きたのか認識してもらうことである。今年度は昨年度剥ぎ取った土層転写標本の作製（仕上）になる。転写土層を田人中学校に持ち込み、中学生による修復作業の後に地元の地域振興協議会のメンバーが表面のコーティング作業を引き継いだ。参加者は合計で26人である。

②震災遺産現地説明会（現地説明会）

10月の南相馬市の津波堆積標本作成地において、普及事業の一環として露出した津波堆積物断層の解説会を調査指導の堆積学の研究

者を講師に実施した。参加者は地元在住者を中心に11名あった。

(2) 震災遺産を活用した教育普及事業

①アウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅢ」の実施（アウトリーチ）

5月末から7月初頭までの白河セッションは県文化財センター白河館（まほろん）を会場に、震災遺産と文化財の関係性の理解をテーマに展示と講演会を開催した。白河の地域性もあり、栃木県からの来場者も多かった。また交通の利便性により、福島県から首都圏に避難されている方の来場もあった。来場者は約3500人である。

6月のいわきセッションは地元と協働で作成した田人地区の断層標本のお披露目となった。活断層が市指定天然記念物に指定されたことを記念する取り組みであったが、初年度以来地元と取り組んできた負の遺産の地域資源化という観点で進めてきた重点事業の成果でもある。昨年度から研修等を重ねた地元の地域振興協議会が自律的に行事の進行に取り組んだ。参加者は延べ40人である。

8月には津波がもたらした自然環境の変化や再生をテーマに講義とフィールドワークをセットにした普及事業を2日間にわたって南相馬市で開催した。16名の参加者があった。

津波滞水によって大発生した「フジツボ」と絶滅危惧の「ミズアオイ」の再生をテーマにこれら動植物の生態と生育環境、そしてなぜこれらが発生・再生したのか講義を受け、現地に移動し対象を観察するイベントである。本プロジェクトのキーワードの一つである震災の多様性を肌で感じるこの取り組みとなった。

平成28年年末から年明けの3月まで震災遺産の展示会をメインプログラムとするアウトリーチ事業を連続開催した。仙台セッションは6日間だけの開催であったが、せんだいメディアテークを会場に同館と共催で震災遺産とメディアテークの震災アーカイブやアート作品とのコラボレーション展示とトークイベントを開催した。会場立地の良さと年末の観光シーズンが重なり、8千人を超える来場者があった。それぞれが博物館やアートと共同した取り組みをこれまでにしたことがなく、開催者としては相互に影響を受け「新たな風景」を構築・体感することができたと考えている。趣旨としては初の県外セッションとして同じ被災地でありながらも、置かれている状況や成り立ちが異なる多様性を表現するこ

とであったが、アンケートを見るとその意図が一定程度浸透しているようであった。

年明けから始めた明治大学セッションは、本プロジェクトの目的の一つである震災の地域を越えた共有を図るためのもので被災地以外では初開催のセッションとなった。展示会場は明治大学博物館で、広い会場ではなかったが4,260人の観覧者があった。アンケートの回収率の高さが関心の広がりを示しているように思われる。さらに福島県における震災の多様な局面や現在進行形の出来事への関心喚起と、プロジェクトの取り組みの意義について理解を得られたことがアンケートから読み取ることができた。またシンポジウムでは震災の経験をどのように伝えていくのかをテーマに、避難所の運営の実体験の講演に加えて、語り・アーカイブそして震災遺産という異なる立場や手法で震災の継承と共有を図る取組を紹介することができた。

会津セッションは、事務局を置く福島県立博物館で開催した。来場者は約3,616人である。展示会場では、プロジェクトで記録してきた震災遺構の360°画像の初公開を実施した。タブレットをレンタルし、県内各地の震災遺構の画像を15点コンテンツとして入れ、いわゆるVRモードで閲覧するコーナーを設置した。安価な装置で取得した画像であるが、通常の写真パネルとは異なる臨場感のある画像を観覧することができた。またトークセッションとして県内でも取り上げられることの少ない県外避難の実態に焦点を当てた取り組みを実施した。



トークセッション（せんだいメディアテーク）

②震災遺産教育活用研修会（研修会）

本プロジェクトで作成した「防災教育支援授業指導案」が県教育庁を通じて教育事務所や学校現場に配付されたこともあり、今年度

は教員研究会や教育事務所が主催する防災教育関連の研究会等の場で当プロジェクトの取り組みを紹介する場面が多くあった。「教育に震災遺産を」とのテーマで講演等を実施し、県内5会場で計276名の教員の参加者があった。意見交換の中では、被災や避難の経験のある生徒への対応をどうするかなどの発言もあった。

③震災遺産出前講座（出前講座）

前年度の高校文化祭への参画と比較すると、今年度の事業は多様化し、出前授業・講演・文化祭・講義と震災遺産解説・震災遺産所在地へのフィールドワーク等を11回実施した。福島県にスキー教室で訪れていた、さいたま市立中学生への授業は、教員のネットワークにより実現したものであるが、県外の生徒に接することのできる重要な機会となった。文化祭等への一般来場者や公民館行事を含め、本事業では約900人強の参加者があった。



出前授業（県立福島明成高校）

（3）情報発信

①事業報告書作成（報告書）

プロジェクトの3年間の取り組みを紹介する概報を500部発行した。

②ホームページ作成（ホームページ）

独自ホームページの作成はできなかったが、事務局を置く福島県立博物館のHP上で適宜情報発信を実施した。

③海外発信

8月にアジア地域で初開催となった世界考古学会議（於同志社大学）のセッション「福島から声」にて本プロジェクトから2名が登壇し、取り組みについて英語で発表した。参加者は80名である。なお前述の報告書に英文と英語標記を掲載した。



報告書表紙

9. 連携事業

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

(1) 磐梯山ジオパーク推進事業

ア. 事業の趣旨・経緯

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立、平成27年にはユネスコの正式な事業となった。平成29年5月現在、ヨーロッパと中国を中心に35ヶ国127地域が加盟。世界遺産は条約に基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパークは、保全はもとより資源の活用による地域の振興を図ることを目標としている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では平成29年5月現在43地域が日本ジオパークとして認定されており、そのうち8地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年3月に磐梯山周辺の3町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。平成27年には、4年に1回実施される日本ジオパーク委員会による日本ジオパークの再審査が行われ、認定された。

福島県立博物館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会設立当初から協議会に参画し、館の正式な連携事業と位置づけて進めている。ジオパーク推進事業における当館の役割は次のとおりである。

- ・地域研究の推進と学術成果の収集による最新の研究成果の提供
- ・ジオパークの説明媒体（ガイドブック、解説板など）の制作・監修
- ・ジオパークとしての教育プログラムの開発と提供
- ・住民や児童への普及活動のための講師派遣

- ・ジオガイド養成のための講師派遣
- ・ツアーの拠点としてジオパークに関する情報提供
- ・ジオパーク普及のための各種イベントの開催

イ. 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、ガイド団体などの民間団体、文化・教育施設が加わっている。事務局は3町村の商工観光課が中心となり、北塩原村自然環境活用センターに置かれている。

磐梯山ジオパーク協議会組織

区分	機関・団体名
行政団体	猪苗代町
	磐梯町
	北塩原村
	福島県企画調整部地域振興課
	福島県会津地方振興局 環境省裏磐梯自然保護官事務所
商工団体	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
	北塩原村商工会
観光協会	猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
	裏磐梯観光協会
民間団体	猪苗代伝保人会
	猪苗代山岳会
	裏磐梯エコツーリズム協会
文化・教育施設	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館
	福島県立博物館
	国立磐梯青少年交流の家
オブザーバー	林野庁会津森林管理署
	福島県喜多方建設事務所

ウ. 活動

平成28年度は次の事業を実施した。

1. ジオパーク関連の大会・学会・研修会参加
日本ジオパーク全国大会(伊豆半島)など
15件

2. 調査研究活動

- (1) 大学や研究機関との連携

第12回学生研究発表会の開催

3. 啓発活動

- (1) フォーラム・シンポジウム
第7回磐梯山ジオパークフォーラム
in 北塩原村 1件
- (2) 専門家を招聘した講演会
伊豆半島ジオパーク清水通子氏など4件
- (3) ジオツアー
「地質の日ジオツアー」など3件
- (4) 出前講座
磐梯大学講座など13件
- (5) 出前授業
猪苗代町立千里小学校など34件

4. 広報活動

- (1) イベント参画
観音寺川桜まつりなど26件
- (2) 広報誌発行
猪苗代町「ジオパーク通信 ジオパーク、知ってる？」9～12号発行
- (3) メディアへの情報発信
NHKブラタモリ「会津磐梯山」出演など

5. ガイド養成

- (1) ガイド研修
求められる「ガイド像」についての研修など2件

6. ツアー解説媒体制作

- (1) ジオサイト解説看板設置
道の駅猪苗代への設置など2基
- (2) ジオパークガイドブック
エリア詳細版パンフレット「A 桧原湖北岸エリア」など4冊発行

7. 他機関との連携

- (1) 図書館との連携
いわき市いわき総合図書館での「磐梯山ジオパーク展」(昨年度から継続)の開催



磐梯大学講座 磐梯町中央公民館にて

(2) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、平成20年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。これまで科学普及活動は、ほとんど学校教育の理科を通じて行われてきた。ふくしまサイエンスぷらっとフォーム (spff) では、多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々な科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、平成23年3月11日の震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。福島県立博物館もこのプロジェクトに平成22年から参画して活動している。

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧 (平成29年3月現在)

所属機関
福島大学
福島県商工労働部産業創出課
ふくしま森の科学体験センター(ムシテックワールド)
郡山市ふれあい科学館(スペースパーク)
磐梯山噴火記念館
福島県ハイテクプラザ
福島県農業総合センター
福島県環境創造センター
福島県林業研究センター
福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ
(株) 福島製作所
日東紡績(株) 福島工場
日東紡績(株) 富久山事業センター
NECネットワークプロダクツ株式会社
福島県商工会連合会
福島県鉄工機械工業共同組合
(有)西坂製作所
福島県立博物館
いわき明星大学 エネルギー教育研究会
福島県商工会議所連合会
(株) 坂本乙造商店
福島県立図書館
ふれあい科学館支援グループ
福島県男女共生センター
(有)アピスタ
福島県立テクノアカデミー郡山
日本ベクトン・ディッキンソン(株)
南相馬市教育委員会
一般社団法人産業サポート白河
一般社団法人りょうぜん振興公社 霊山こどもの村

平成28年度にspffが中心となり実施した活動は表のとおりである。このうち、「教員のための博物館の日 子供が喜ぶ授業作り」「spffサイエンス屋台村in コミュタン福島」は福島県立博物館も参加した。このほか、spffを窓口とし

た県外の団体と連携した活動や、視察・研修および研究活動を実施した。これらの事業は、福島県緊急雇用創出基金事業による助成「科学コミュニケーション活動における人材育成業務」をもとに実施した。

平成28年度ふくしまサイエンスぷらっとフォーム実施主要事業

No.	名称	期日	会場
1	サイエンスフェスティバル	4月29日～5月1日 5月3～5日 7月16～18日 8月11～16日	郡山市ふれあい科学館
2	おもしろ科学びっくり箱	8月21日 9月10日 10月22日	郡山市ふれあい科学館
3	見て！さわって！自由研究と自由工作のヒントをさがそう とぶタネの科学	7月24日	霊山子どもの村
4	わくわくサイエンス	7月31日	福島市子どもの夢を育む施設こむこむ
5	教員のための博物館の日 子供が喜ぶ授業作り	8月1日	ムシテックワールド
6	こどもアグリ科学教室	7月27日 8月2日 8月9日	福島県農業総合センター
7	図書館科学講座	8月5日	白河市立図書館
8	農業総合センターまつり	9月9～10日	福島県農業総合センター
9	TORIKAWA科学教室	10月1日	福島市立鳥川小学校
10	郡山市ふれあい科学館 15周年記念事業	10月1～2日	郡山市ふれあい科学館
11	ムシテックワールド誕生祭	10月17～18日	ムシテックワールド
12	きたかたものづくり交流フェア	11月6日	押切川公園体育館
13	spff サイエンス屋台村inコミュタン福島	11月26日	福島県環境創造センターコミュタン福島
14	そうそうこども科学祭	12月10日	福島県立テクノアカデミー浜



サイエンス屋台村 in コミュタン福島
「化石に名前をつけよう！」 1



サイエンス屋台村 in コミュタン福島
「化石に名前をつけよう！」 2

(3) 福島芸術計画×Art Support Tohoku-Tokyo

ア. 事業の趣旨・経緯

福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyoは、平成24年より、福島県、東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施している事業。

文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興を支援している。

福島の未来を担う子どもたちが、ふるさとの自然や文化を体験し、心豊かに成長していくこと。

福島県ならではの多様な文化を、地域の隔たり無く分かち合い、もう一度その素晴らしさを互いに見直すこと。

福島の現状や未来のことを考え、創造する場を持つこと。

福島の宝や人の思い、そして大切な何かをつなぎ・つたえていくこと。

そうした動きが、福島の復旧・復興に向けて大きな力になるとの考えから活動を続けている。

イ. 組織

1. 主催 福島県／東京都／アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
2. 運営委員会構成団体 福島県文化振興課／福島県立美術館／福島県立博物館／アーツカウンシル東京／NPO法人Wunder ground
3. 事務局 NPO法人Wunder ground

ウ. 事業内容

福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyoでは、平成28年度、3つの大きな事業を実施した。

ひとつは、会津地方を舞台に福島の「森林文化」に着目した「森のはこ舟アートプロジェクト2016」。

ひとつは、アーティストを講師に招き、福島県内の各学校で児童・生徒対象のワークショップを開催した「学校連携事業」。

さらに、避難自治体の復興公営住宅入居等が進むいわき市では、文化事業の担い手の育成を目的としたレクチャー型の事業「マナビバ」を実施。

それぞれの地域の課題に向き合い、丁寧なリサーチに基づいた事業実施により、福島の

文化芸術の基礎力をあげ、福島の復興に寄与することを目指した。

また、福島県内で実施している文化事業の情報を共有発信することを目的にサイト運営もあわせて行い、文化事業の担い手へのインタビューを掲載した。



「森のはこ舟アートプロジェクト
喜多方エリアプログラム 棚田劇 森の婚礼」



「森のはこ舟アートプロジェクト 北塩原エリアプログラム 絵画やスケッチを通して見る磐梯山」



「森のはこ舟アートプロジェクト
南相馬エリアプログラム 太古の森を感じて」 1



「森のはこ舟アートプロジェクト
南相馬エリアプログラム 太古の森を感じて」 2

(4) ふくしま歴史資料保存ネットワーク

地域の歴史や文化を伝える歴史資料などの記録保存を進め、災害時には救出・保全をはかり、後世に伝えることを目的に、平成22年11月に発足した。現在の代表・事務局は福島大学（行政政策学類 阿部浩一教授）。近年は、古文書整理・撮影作業を福島大学で定期的に行いながら、歴史資料の保存を趣旨としたさまざまな催しを企画・支援している。

平成28年度には、当館学芸員が富岡町の被災資料の整理作業や地域資料保存シンポジウムに参加し、また当館で震災直後から保管していた個人所蔵の古文書の一部が、福島大学での整理・撮影作業に引き継がれるなど、連携・協力しながら活動を行っている。

10. 開館30周年記念事業

福島県立博物館の開館30周年にあたり、福島県立博物館の30年間の活動のアウトプット、リニューアルに向けた試行・実験の2点をコンセプトに、平成28年度を通して（1）記念特集展、（2）記念イベント、（3）広報事業を行った。

1. 実施時期：平成28年4月～平成29年3月
2. 担当者：山田英一（副館長）、板橋良英（総務課長）、田中敏（学芸課長）、荒木隆・小林めぐみ・阿部綾子・内山大介・大里正樹（学芸員）

3. 内容

ア. 特集展「収蔵庫からこんにちは」

詳細は3. 展示事業（4）特集展該当箇所参照。

イ. 記念イベント

詳細は5. 教育普及事業（1）講座・講演会該当箇所参照。

ウ. 広報事業

（1）30周年ロゴ、イメージポスター、イメージフラッグの作成

開館30周年のシンボルカラーを、県立博物館竣工記念として会津藩祖保科正之公ゆかりの地長野県高遠町（現伊那市）より贈られ、当館周辺に植樹された「小彼岸桜」の色に決定。30周年のロゴや当館周辺の外灯に設置したイメージフラッグ等で用いて、統一した広報イメージの作成を企図した。

また、福島県立博物館の30年間の活動と未来への目標を伝えるものとして30周年イメージポスターを制作。博物館のこれまでの成果と今後の使命を発信した。

30周年ロゴ、イメージフラッグ、イメージポスター デザイン：久家三夫



30周年ロゴ



30周年イメージフラッグ



「30周年イメージフラッグ」掲示風景



「30周年イメージフラッグ」掲示風景



30周年イメージポスター

(2) 福島県立博物館シンボルマーク原案の公募と決定

福島県立博物館開館30周年を記念し、さらに人々に親しまれる場を目指して館の魅力を分かりやすく伝えるためのシンボルマークの原案を募集。平成28年4月1日時点で18歳以下の全国の小、中学生、高校生を対象とし、福島県内を中心に全国から1,043点（県内1,038点、県外5点（埼玉・東京・滋賀・奈良・佐賀））の応募があった。

選考委員による選考を経て、奈良県にある関西文化芸術学院ヴィジュアルデザイン専攻デジタルデザインコース3年生の上平瑠菜さんの原案が大賞を受賞した。

上平さんの原案は、福島県いわき市で出土し、当館の部門展示室自然でも復元模型を展示している「フタバサウルス（通称：フタバズキリュウ）」をモチーフとしたもの。愛らしい姿と、これからの福島の未来を生みだすように卵を抱えたデザインが評価された。

選考結果は、開館30周年記念式典で公表された。

上平さんの原案を元に、福島大学の渡邊晃一教授（美術）と渡邊ゼミの学生がマークを整え、完成させた。

決定したシンボルマークは、当館の広報物等で活用されている。

①事業概要

募集期間：2016年4月～6月末

募集対象：18歳以下の方で全国に公募

応募総数：全1,043点、（県内1,038点、県外5点（埼玉・東京・滋賀・奈良・佐賀））

応募の内訳：小学生69点／中学生891点／高校生81点／大学生・その他2点

選考の経緯：7月7日に選考委員4名での選考会を開催し、受賞作品を決定

・7月4日：担当者による作品整理により225点を館内選考対象とする

・7月5日：館員らの投票により、34点を選考会提出用として選出

・7月7日に選考委員4名での選考会を開催し、受賞作品を決定

②選考委員

佐藤秀一氏（会津教育事務所 指導主事（美術科））

渡邊晃一氏（福島大学教授）

芳賀幸雄氏（福島県立博物館友の会長）

赤坂 憲雄（当館館長）※選考委員長

③選考結果

大賞：上平瑠菜さん（奈良市 関西文化芸術学院）

優秀賞：澤口果琳さん（白河二中）

奨励賞：菅野雄介さん（船引南中）・古川弥那さん（福島西高）



大賞・上平瑠菜さん作品評

キャラクターとしても非常に可愛らしく、マークとしてのみならず、幅広い世代に親しまれる作品として高く評価された。

フタバズキリュウは福島の地の太古から続く歴史性のシンボルとして、そして抱かれた卵形からは何か新しく生まれて来るといふイメージがある。

リデザインでは、卵の図形の中へ福島県の形を配置し、東日本大震災後の福島県の復興と再生への願いを込めたデザインとした。



優秀賞・澤口果琳さん作品評

三角縁神獣鏡・清戸廻古墳壁画・フタバスズキリュウという福島県立博物館を代表する展示資料が一つのマークとして配置されている。過去と現在、自然と人間の調和など、とてもよく考えられている作品である。

と同時に、胸を張ってしっかり立つ力強さがあり、若々しい感性が感じられる。モノクロのコントラスト、シルエットがはっきりしていてマークとしても効果的な作品。



「シンボルマーク」審査風景



奨励賞・古川弥那さん作品評

現行の展示室を示す8つの円が、タイムトンネルとして弧を描いているというデザインは、福島県立博物館の特徴をよくとらえている。また建物の形を真正面からとらえた意匠が目を引き、マークとしてシンプルに完成した分かりやすいものとなっている。



「シンボルマーク」選考結果発表風景



奨励賞・管野雄介さん作品評

土器、土偶の文様、武士の姿を想像させる



「シンボルマーク」選考結果発表風景



シンボルマーク

(3) 「けんぱくラジオ」

福島県立博物館の平成28年度の活動の見どころ等をわかりやすく担当者からお伝えする



「けんぱくラジオ」オンエア風景

「けんぱくラジオ」実施一覧

放送回数	放送日	担当者	テーマ
第1回	5月5日	小林めぐみ (メイン担当)	県博30周年を迎えて (「けんぱくラジオ」初回として、番組の抱負)
第2回	5月19日	小林めぐみ (メイン担当) 阿部 綾子 (学芸員)	企画展「大須賀清光の屏風絵と番付」(4/23～6/12) のみどころ
第3回	6月2日	小林めぐみ (メイン担当)	テーマ展「五幅対に見る絵師」(4/16～6/19) のみどころ
第4回	6月16日	小林めぐみ (メイン担当) 荒木 隆 (学芸員)	イベント紹介「探検！けんぱく七不思議」「けんぱく川柳」
第5回	7月7日	荒木 隆 (メイン担当) 森 幸彦 (学芸員)	館長講座「みんなで、明日の博物館について語ろう」のご紹介
第6回	7月21日	荒木 隆 (メイン担当) 塚本麻衣子 (学芸員)	テーマ展「けんぱくの宝1」(7/5～8/21) のみどころ
第7回	8月4日	荒木 隆 (メイン担当) 相田 優 (学芸員)	特集展「南極の自然と南極観測」(7/16～8/21) のみどころ
第8回	8月18日	荒木 隆 (メイン担当)	イベント紹介「のぞいてみよう！けんぱくの裏側」「けんぱく暗闇探検隊」
第9回	9月1日	内山 大介 (メイン担当) 高橋 満 (学芸員)	特別展「文化庁購入文化財展」(9/3～10/2) のみどころ
第10回	9月15日	内山 大介 (メイン担当)	テーマ展「かえる曼荼羅」(9/10～11/10) のみどころ
第11回	10月6日	内山 大介 (メイン担当)	30周年記念イベント (10/14～10/16) のご紹介 *煮売茶屋、技の世界、記念式典、おはなしのへや、東山芸妓さん
第12回	10月20日	内山 大介 (メイン担当)	特集展「収蔵庫からこんにちはー福島県立博物館収蔵名品展」(10/15～11/27) のみどころ
第13回	11月3日	阿部 綾子 (メイン担当) 赤坂 憲雄 (館長)	30周年をむかえて～館長からリスナーへのメッセージ～
第14回	11月17日	阿部 綾子 (メイン担当) 前田 知香 (展示解説員)	博物館の顔！展示解説員の活躍をご紹介
第15回	12月1日	阿部 綾子 (メイン担当) 小林めぐみ (学芸員)	テーマ展「けんぱくの宝2」(11/22～1/22) のみどころ

「けんぱくラジオ」実施一覧

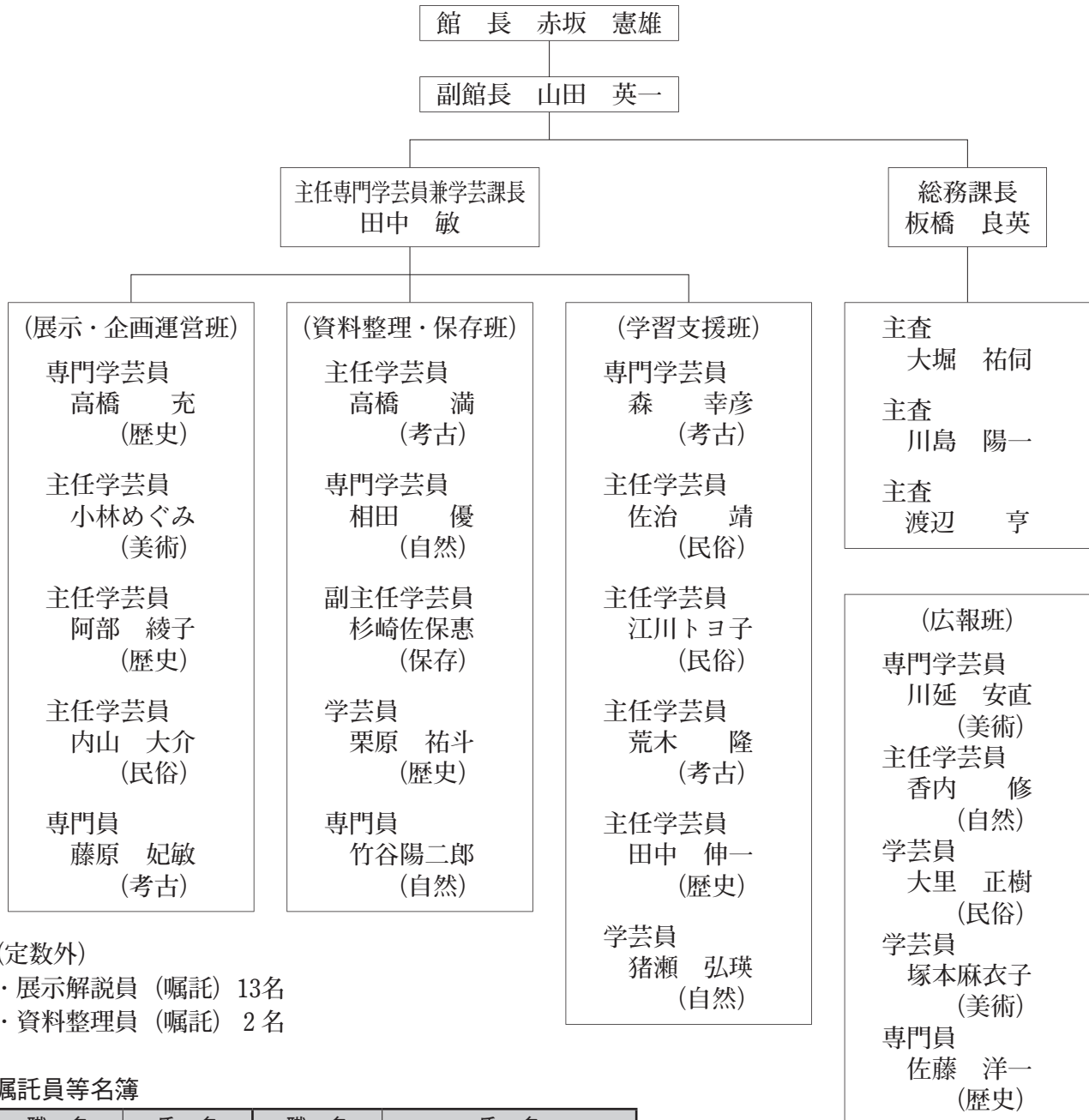
放送回数	放送日	担当者	テーマ
第16回	12月15日	阿部 綾子 (メイン担当) 江川トヨ子 (学芸員)	博物館を使い倒そう！友の会とサークル活動のご紹介
第17回	1月5日	大里 正樹 (メイン担当) 大関 徹 (展示解説員)	雪の日も楽しく遊べる穴場スポット・体験学習室のご紹介
第18回	1月19日	大里 正樹 (メイン担当)	博物館の広報活動～ココを押さえれば博物館は10倍楽しい～ * 博物館広報物の利用方法、Facebookのご紹介など
第19回	2月2日	大里 正樹 (メイン担当) 塚本麻衣子 (学芸員)	特集展「はま・なか・あいづ成果展」(2/4～4/11)のみどころ
第20回	2月16日	大里 正樹 (メイン担当) 森 幸彦 (学芸員)	特集展「震災遺産を考える」(2/11～4/11)のみどころ

II 管理運営

1. 組織・職員

福島県立博物館の組織

(平成28年4月1日現在)



(定数外)

- ・展示解説員 (嘱託) 13名
- ・資料整理員 (嘱託) 2名

嘱託員等名簿

職名	氏名	職名	氏名
展示解説員	長谷川亜樹	展示解説員	穴澤由美子
	前田 知香		大関 徹
	岩崎 萌		荒井奈津姫
	後藤 知春		加藤 範子 (平成28年8月31日退職)
	椎野 未帆		鈴木ゆかり (平成28年11月30日退職)
	綱 真奈美		
	富田 陽介		
	柳沼 美咲	資料整理員	長澤 宏子
小池 美奈		石川 真帆	

2. 予 算

平成28年度は、下表のとおり予算を執行した。

平成28年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				6,385
	使 用 料			6,385
		行政財産使用料		374
			建 物 使 用 料	374
		教育使用料		6,011
			博 物 館 使 用 料	6,011
財 産 収 入				1,020
	財産売払収入			1,020
		物品売払収入		1,020
			そ の 他 物 品 売 払 代 金	1,020
諸 収 入				671
	雑 入			671
		雑 入		671
			雑 入	671
	合	計		8,076

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
労 働 費				1,775
	雇 用 対 策 費			1,775
		緊急雇用対策費		1,775
			共 済 費	255
			賃 金	1,520
教 育 費				276,712
	教 育 総 務 費			3,859
		事 務 局 費		3,859
			報 酬	2,400
			職 員 手 当 等	460
			共 済 費	155
			賃 金	844
	社 会 教 育 費			272,854
		博 物 館 費		272,854
			報 酬	24,963
			共 済 費	3,826
			報 償 費	1,074
			旅 費	2,944
			需 用 費	51,752
			役 務 費	7,039
			委 託 料	77,326
			使 用 料 及 び 賃 借 料	1,243
			工 事 請 負 費	100,415
			備 品 購 入 費	2,191
			負担金、補助及び交付金	56
			公 課 費	25
	合	計		278,487

3. 委員会の開催

(1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア. 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

運営協議会委員名簿

区分	氏名	役職名
学校教育	金子 充子	いわき市立長倉小学校長
	三輪 晶子	郡山市立高瀬中学校長
	副会長 加藤 知道	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社会教育	会長 遠藤 俊博	元(公財)福島県文化振興財団理事長
	鈴木 静人	いわき市中央公民館長
学識経験者	佐藤彌右衛門	合資会社 大和川酒造店代表社員
	長尾 修	県立博物館友の会幹事長
	一ノ瀬美枝	会津若松市教育委員会委員
	大友 靖子	家庭教育インストラクター連絡協議会理事
	齋藤 陽子	公募委員

イ. 会議

第1回 平成28年7月7日(木)

議題

- ①副会長の選出について
- ②平成28年度の事業について
- ③中期目標の達成状況について
- ④入館状況について

第2回 平成29年2月23日(木)

議題

- ①平成28年度事業の概要について
- ②平成28年度実績中期目標(1月末現在)について
- ③平成29年度事業計画について

Ⅲ 利用状況

1. 入館者統計

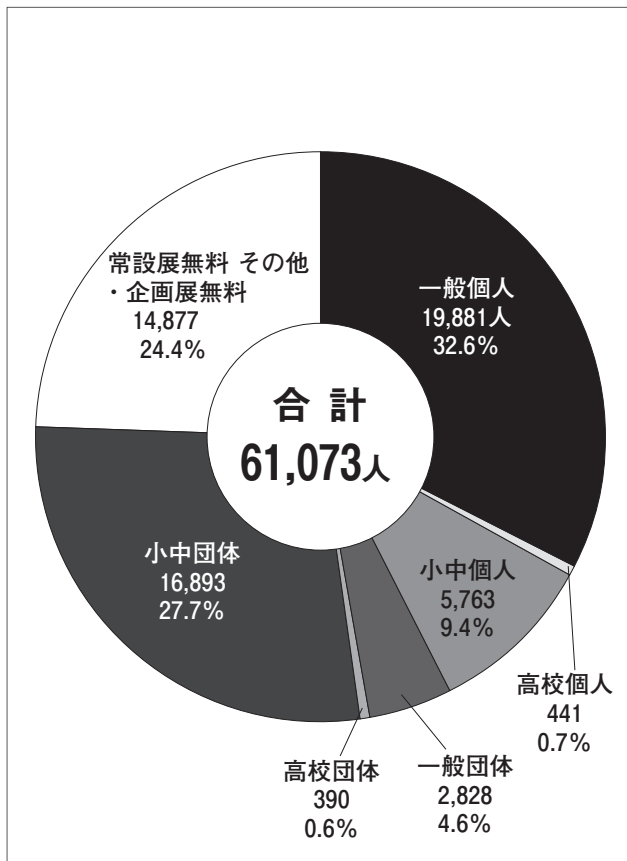
(1) 平成28年度入館者統計

月別区分別入館者数

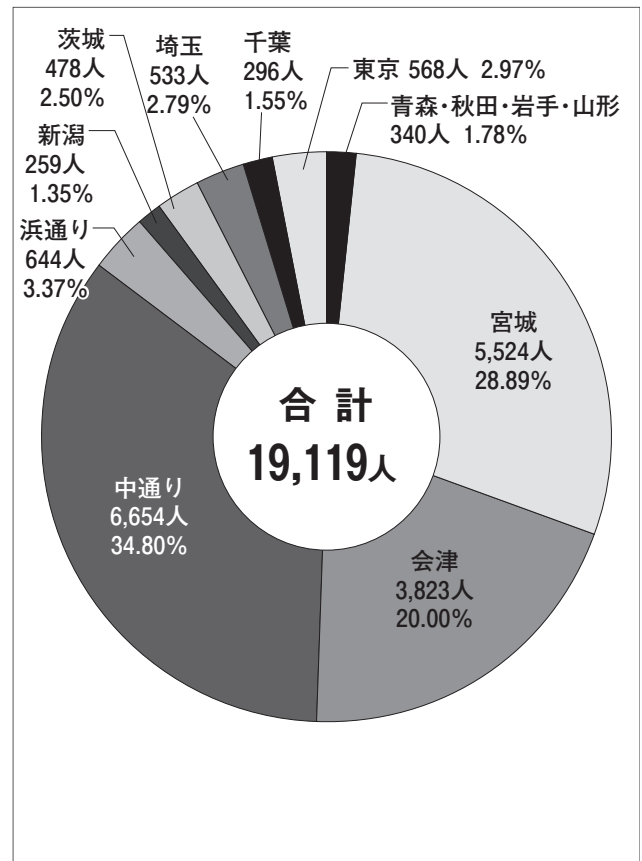
月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料 人数	無料		日数	有料 人数	無料 人数	日数	人数	
			小中高校生 人数	その他 人数						
4	26	1,179	2,733	599	7	477	18	26	5,006	8.2%
5	27	1,525	3,131	691	27	1,444	310	27	7,101	11.6%
6	25	1,267	6,847	470	11	548	158	25	9,290	15.2%
7	27	1,799	1,612	626				27	4,037	6.6%
8	26	2,405	961	2,185				26	5,551	9.1%
9	26	4,442	4,927	4,762				26	14,131	23.1%
10	26	1,881	1,638	1,495				26	5,014	8.2%
11	24	1,385	443	964				24	2,792	4.6%
12	22	589	137	356				22	1,082	1.8%
1	23	523	181	182				23	886	1.5%
2	24	615	427	1,470				24	2,512	4.1%
3	27	1,030	235	2,406				27	3,671	6.0%
合計	303	18,640	23,272	16,206	45	2,469	486	303	61,073	100.0%

利用
状況

平成28年度入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数



(2) 入館者の推移

入館者の推移 (年度別・月別)

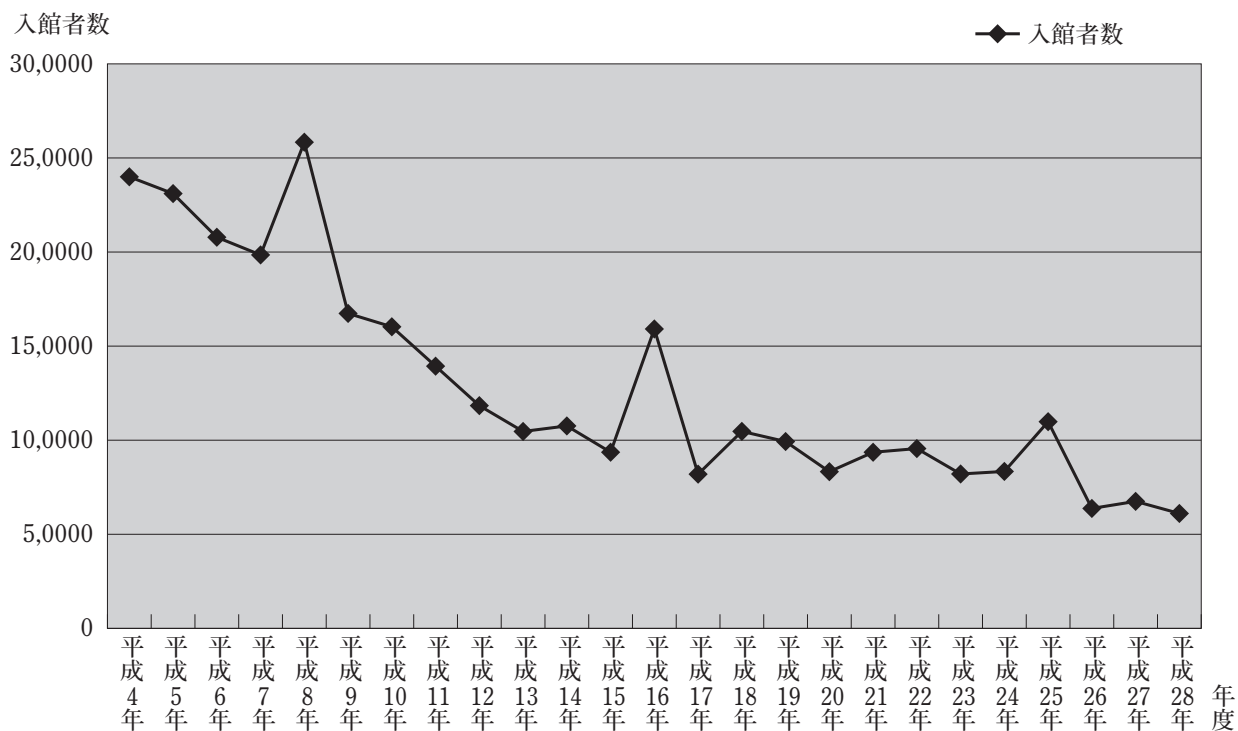
(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計
61年							31,758	49,868	8,860	6,531	13,614	11,850	122,481	133	921	20,414	122,481
62年	25,919	48,367	17,831	23,356	40,749	24,259	27,099	27,082	5,548	4,010	7,653	7,878	259,751	297	875	21,646	382,232
63年	20,561	35,853	14,823	22,651	32,396	20,198	29,648	21,234	4,512	4,959	6,350	4,405	217,590	296	735	18,133	599,822
元	25,699	52,872	20,356	18,456	31,127	18,248	26,832	16,058	3,369	4,048	6,986	4,873	228,924	299	766	19,077	828,746
2年	22,750	50,265	19,043	24,050	34,218	17,008	34,201	18,482	2,303	3,813	5,982	7,115	239,230	299	800	19,936	1,067,976
3年	22,851	52,723	23,592	20,340	33,257	21,882	21,851	15,682	3,618	8,675	7,006	6,530	238,007	298	799	19,834	1,305,983
4年	16,637	56,983	23,841	22,800	37,431	20,334	18,565	17,592	4,028	5,073	9,096	7,606	239,986	297	808	19,999	1,545,969
5年	17,975	50,452	29,319	21,138	28,490	18,285	20,022	15,629	6,989	4,993	9,137	8,640	231,069	293	789	19,256	1,777,038
6年	15,320	38,693	20,737	12,328	25,837	16,551	28,034	19,857	7,839	4,732	9,197	8,742	207,867	296	702	17,322	1,984,905
7年	16,571	42,832	28,622	15,340	23,785	16,428	20,252	15,096	2,048	2,701	7,631	7,160	198,466	298	666	16,539	2,183,371
8年	12,433	40,138	18,185	9,725	21,495	15,879	64,772	50,811	9,473	3,141	6,700	5,616	258,368	294	879	21,531	2,441,739
9年	13,521	39,844	22,279	8,036	15,803	13,082	26,015	10,290	2,125	2,111	7,578	6,686	167,370	295	567	13,948	2,609,109
10年	14,922	34,430	24,933	9,541	16,208	13,794	18,431	9,061	2,395	3,218	9,770	3,575	160,278	295	474	13,357	2,769,387
11年	13,456	30,999	23,659	9,051	13,607	12,175	15,696	7,937	1,582	2,714	4,795	3,676	139,347	294	393	11,612	2,908,734
12年	10,539	21,341	18,775	7,127	13,184	12,794	15,609	8,120	1,801	829	5,353	2,897	118,369	301	393	9,864	3,027,103
13年	8,473	20,267	16,475	5,682	8,451	13,423	12,192	5,825	5,797	1,412	3,836	2,818	104,651	303	345	8,721	3,131,754
14年	8,028	19,242	17,211	4,706	14,702	19,901	10,688	5,265	1,078	1,196	3,183	2,386	107,586	306	352	8,966	3,239,340
15年	4,899	13,884	12,884	8,732	10,630	12,525	13,000	7,693	1,665	1,235	3,733	2,734	93,614	302	310	7,801	3,332,954
16年	8,770	19,287	16,768	20,318	34,732	35,813	11,227	5,440	2,192	855	2,019	1,690	159,111	302	527	13,259	3,492,065
17年	8,440	14,548	12,008	7,507	7,157	8,787	11,972	4,374	926	1,159	2,815	2,262	81,955	305	269	6,830	3,574,020
18年	7,019	11,381	14,151	5,246	10,548	13,405	25,464	9,029	1,989	1,468	2,928	2,058	104,686	310	338	8,724	3,678,706
19年	7,419	12,271	25,016	6,808	7,148	10,084	12,495	8,261	1,938	1,627	2,943	3,290	99,300	306	325	8,275	3,778,006
20年	6,521	10,730	13,011	7,401	8,582	10,326	11,388	6,798	1,558	1,037	2,193	3,730	83,275	306	272	6,940	3,861,281
21年	7,977	13,060	11,912	7,356	14,280	16,864	9,211	6,761	1,383	1,127	1,815	1,850	93,596	306	306	7,800	3,954,877
22年	11,669	15,085	16,283	10,472	11,658	9,513	8,522	6,280	1,637	1,947	1,796	694	95,556	293	326	7,963	4,050,433
23年	2,292	6,582	4,990	5,557	11,047	15,972	9,465	6,399	3,159	4,280	7,087	5,218	82,048	305	269	6,837	4,132,481
24年	8,940	9,350	6,912	7,532	12,764	10,702	10,683	6,438	2,316	1,551	3,173	3,040	83,401	306	273	6,950	4,215,882
25年	6,523	11,722	25,363	9,013	20,966	12,299	11,802	4,025	2,736	1,617	1,463	2,309	109,838	309	355	9,153	4,325,720
26年	4,972	7,374	7,677	4,250	5,845	7,457	4,549	8,878	3,815	1,036	3,765	4,121	63,739	309	206	5,312	4,389,459
27年	5,215	12,117	10,507	3,520	4,873	7,621	5,375	4,543	1,552	2,492	4,502	5,173	67,490	309	218	5,624	4,456,949
28年	5,006	7,101	9,290	4,037	5,551	14,131	5,014	2,792	1,082	886	2,512	3,671	61,073	303	202	5,089	4,518,022
平均	12,044	26,660	17,548	11,403	18,551	15,325	18,446	12,955	3,268	2,789	5,375	4,655	145,743	296	499	12,475	

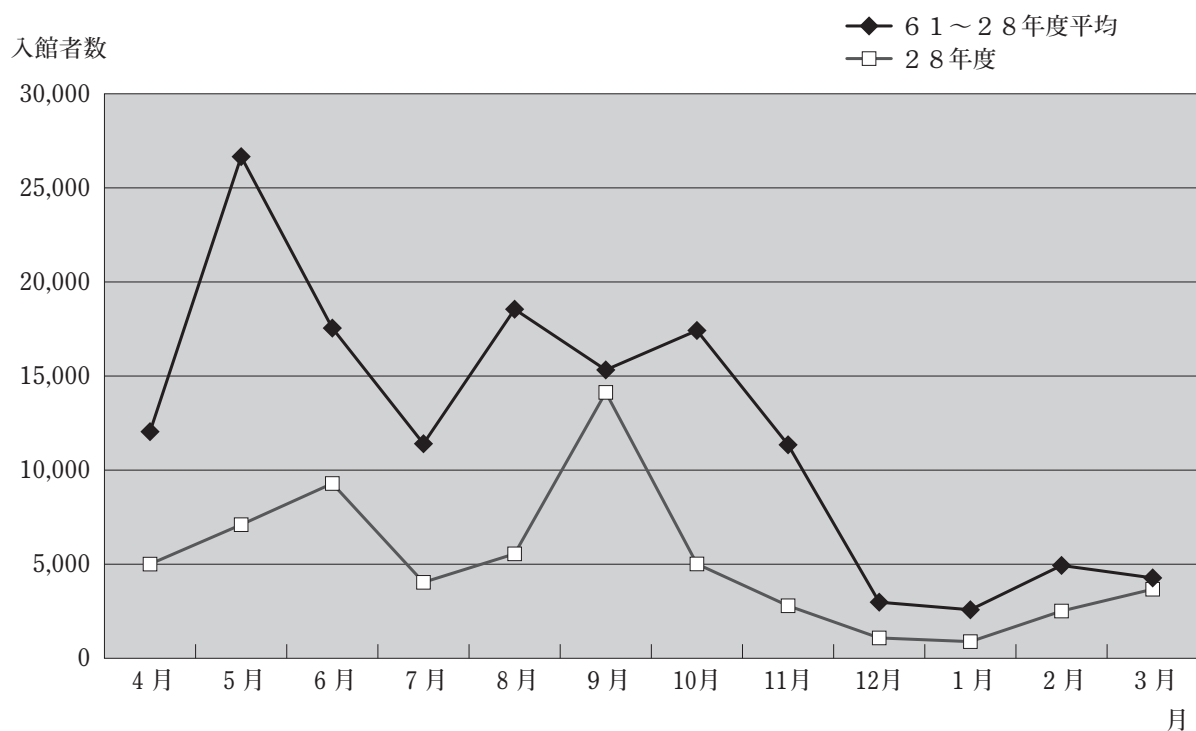
入館者の推移グラフ（年度別月別）

利用
状況

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉱物の世界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	垂欧堂田善とその系譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鉱山のあゆみ	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晷	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘ふくしま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
7	探検 貝化石ワールド	7. 4.22～ 7. 6.11	44 日	9,187 人	1,608 人	26,208 人	37,003 人
	海のまくあけ	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木の匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875
8	福島の山岳信仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44	8,931	976	12,432	22,339
	地震・火山・津波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近代子どもの世界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄文たんけん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～ 9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本の美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

利用
状況

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26 日	2,473 人	386 人	647 人	1,424 人	4,930 人
	発掘ふくしま3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
17	老 い	17. 4.23~17. 6. 5	39日	1,732人	80人	414人	814人	3,040人
	婚 礼	17. 9.23~17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22~18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22~18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30~18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹 と 竹	19. 7.21~19. 9.17	52	1,987	44	429	619	3,079
	わくわく!化石大集合	19.10. 6~19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19~20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香山	20.10.11~20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10~21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17~22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26~22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9~22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8~23.11.27	43	4,908	28	188	0	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18~24. 3.31	36	2,523	21	271	0	2,815
	計		79	7,431	49	459	0	7,939
24	小さなもの集まれ	24. 4. 1~24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐竜時代のふくしま	24. 7.14~24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会津の寺宝	24.10. 6~24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158
25	八重の桜	25. 4.17~25. 7. 3	46	13,146	130	5,462	875	19,613
	対決!恐竜展	25. 7.27~25. 9.16	46	9,948	273	5,033	2,648	17,902
	考古学からの挑戦	25.10. 5~25.12. 1	50	1,955	11	85	872	2,923
	計		142	25,049	414	10,580	4,395	40,438
26	東北-風土・人・暮らし	26. 4.19~26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	アイヌの工芸	26. 7.19~26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	みちのくの観音さま	26.11. 1~26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673
27	ふるさと会津の人と四季	27. 5. 2~27. 6.21	44				5,992	5,992
	被災地からの考古学	27. 7.18~27. 9.13	51	1,518	39	221	362	2,140
	相馬中村藩の人びと	27.10.10~27.11.29	38	1,406	8	34	317	1,765
	計		133	2,924	47	255	6,671	9,897
28	大須賀清光の屏風絵と番付	28. 4.23~28. 6.12	45	2,254	14	201	486	2,955

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武家の文化	600	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	5	3,000
ふくしまの顔	500	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	4	2,000
陸奥の古瓦	400	0	2	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	6	2,400
鉱物の世界	400	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4	1,600
縄文の四季	500	1	2	1	0	1	2	0	0	0	1	1	2	11	5,500
まちの成立とにぎわい	500	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	0	1	6	3,000
亜欧堂田善とその系譜	1,000	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	2,000
太古の生きものたち	500	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	4	2,000
日本の音色	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1,600
シルクロード紀行	1,000	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	2,000
縄文絵巻	800	1	2	2	0	2	1	1	0	1	2	1	1	14	11,200
浜通りの仏像	500	0	0	0	0	1	3	2	0	1	0	0	1	8	4,000
ふくしま鉱山のあゆみ	800	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	2	6	4,800
マンガ文化の源流	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
恐竜のあるいた道	500	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	500
定信と文晁	1,000	1	1	0	0	1	1	2	2	1	0	0	2	11	11,000
明治はじめて物語	500	1	1	0	1	0	0	2	4	0	1	1	1	12	6,000
稲とくらし	800	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	1	5	4,000
東北からの弥生文化	800	1	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	7	5,600
会津の自然史	800	2	0	2	3	0	0	0	0	0	0	2	1	10	8,000
玉堂と春琴・秋琴	1,100	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	6	6,600
げんき・病・元気	800	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	1	2	7	5,600
村芝居の世界	900	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	900
探検員化石ワールド	800	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1,600
海のまくあけ	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	800
福島1000年時のかたち	900	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1,800
いにしえの木匠	600	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	4	8	4,800
福島の山岳信仰	800	0	1	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	7	5,600
地震・火山・津波	500	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	2,500
近代子どもの世界	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	900
縄文たんけん	900	1	0	2	1	4	0	1	1	0	1	0	0	11	9,900
日本の魚学・水産学事始め	500	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1,000
染める	600	1	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	3	8	4,800
遠澤と探幽	1,300	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3	3,900
戦国の城	800	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	800
天の絹糸	1,300	0	1	0	1	2	1	3	0	0	0	0	3	11	14,300
日本の美	800	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3	2,400
氷河時代	700	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	4	2,800
新弥生紀行	1,100	0	1	0	0	2	1	1	1	0	0	0	1	7	7,700
生の中の死	900	0	0	0	3	2	0	0	0	1	0	2	1	9	8,100
豊かなる世界へ	600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1,200
集古十種	1,100	1	0	1	0	1	0	1	1	2	0	1	2	10	11,000
海獣パレオパラドキシア	600	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	1,800
英雄たちの系譜	500	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	500
食と考古学	500	0	0	1	3	3	1	1	0	1	0	1	1	12	6,000
肖像にみる福島を築いた人々	900	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2,700
武者たちが通る	400	3	8	2	3	0	1	1	1	0	0	0	0	19	7,600
発掘ふくしま3	600	2	3	0	1	1	2	1	2	0	1	0	0	13	7,800

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
笑いの想像力	1,000	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	4	4,000
老い	1,000	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	5	5,000
婚禮	800	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2	7	5,600
馬と人との年代記	800	0	2	0	3	0	1	2	1	1	0	0	1	11	8,800
布の声をきく	700	1	1	2	1	0	1	0	1	1	0	0	2	10	7,000
徳川将軍家と会津松平家	600	9	12	9	6	10	18	10	13	4	2	2	5	100	60,000
樹と竹	1,200	0	1	0	1	2	1	2	0	0	1	0	2	10	12,000
わくわく!化石大集合	800	1	1	0	0	1	0	0	2	1	0	1	1	8	6,400
会津磐梯山	1,000	0	1	0	0	0	2	2	0	0	1	1	1	8	8,000
遠藤香村	1,500	1	2	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	6	9,000
岡本太郎の博物館	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
千少庵と蒲生氏郷	500	1	0	0	0	1	3	1	0	2	1	0	2	11	5,500
漆のチカラ	800	0	1	1	2	3	1	2	1	0	0	0	1	12	9,600
福島の土偶	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保科正之の時代	1,000	5	2	5	1	1	1	2	0	1	0	3	1	22	22,000
恐竜時代のふくしま	500	1	1	0	1	2	0	0	0	0	1	1	1	8	4,000
会津の寺宝	1,000	2	3	3	3	3	8	1	2	3	0	0	1	29	29,000
八重の桜	2,000	1	1	0	0	2	1	0	1	0	0	1	0	7	14,000
対決!恐竜展ガイドブック	300	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	600
恐竜展2011 ポプラディア完全ガイド	500	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	500
恐竜博2011 公式図録	2,000	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4,000
考古学からの挑戦	900	0	6	1	4	3	1	0	0	0	1	2	1	19	17,100
アイヌの工芸	1,000	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	2	6	6,000
被災地からの考古学1	200	2	4	5	2	8	2	2	0	0	0	6	3	34	6,800
相馬中村藩の人びと	700	2	2	5	3	1	11	2	2	2	1	0	1	32	22,400
大須賀清光の屏風絵と番付	700	52	163	83	7	4	8	1	1	1	0	2	1	323	226,100
紀要(数量)		20	11	9	6	7	12	12	5	3	0	1	2	88	
紀要(金額)		13,100	7,900	7,300	5,400	9,200	11,600	12,000	3,500	4,700	0	1,400	3,100		79,200
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	5	6,500
福島の古墳	1,200	1	5	1	5	8	4	3	3	1	0	1	1	33	39,600
福島の化石	1,500	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	6	9,000
戦時下の福島	800	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	6	4,800
福島の年中行事	1,100	1	2	0	2	0	0	2	1	0	0	0	1	9	9,900
ガイドブック	300	4	5	4	5	15	3	3	3	2	2	3	3	52	15,600
手引き(小)	700	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1,400
常世原田遺跡	600	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	1,200
ふくしまの農具	1,000	1	1	0	0	0	3	1	1	0	0	0	1	8	8,000
ふくしまの古文書	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報告書(数量)		9	8	9	4	10	12	7	6	3	3	4	9	84	
報告書(金額)		12,800	7,000	17,500	7,800	11,100	15,800	8,200	5,500	2,600	3,400	4,200	9,200		105,100
絵葉書	50	19	21	8	9	22	9	30	20	0	6	3	1	148	7,400
クリアホルダー	200	1	8	2	4	5	14	3	6	0	0	1	7	51	10,200
勾玉セット	200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
文化の力	1,500	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,500
ポケットミュージアム	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一筆箋	350	0	1	1	0	0	5	2	2	1	0	1	1	14	4,900
齋藤清絵はがきセット	350	3	0	1	0	4	4	4	3	1	1	0	2	23	8,050
体験学習材料費	100												20	20	2,000
土器材料費	4,350							1						1	4,350
車両	3,000								1					1	3,000
合計		165	297	169	113	144	157	124	97	40	30	52	125	1,513	1,020,700

利用状況

IV 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年3月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則 この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則 (平成9年3月25日条例第52号) この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 (平成11年12月24日条例第93号) この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則 (平成15年3月24日条例第53号) この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年条例第119号) この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額(一人当たり)		特 別 観 覧 料 の 額
	個 人	団 体	
一般(大学生を含む。)	270円	210円	その都度知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	無 料	無 料	その都度知事が定める額
中学生及び小学生	無 料	無 料	その都度知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは、企画による展示品を観覧する場合の観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

(昭和61年 3 月25日 条例第31号)

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館(以下「博物館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例施行規則

(昭和61年 3 月25日 教育委員会規則第5号)

(休館日)

第1条 福島県立博物館(以下「博物館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(次号において「休日」という。)に当たるときを除く。

2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日(次号において「休日」という。)に当たるときを除く。

3 1月1日から同月4日まで

4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。)第4条の規定により観覧料を納入した者に対し、観覧券(様式第1号)を交付するものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生(これに準ずる者として福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者を含む。)及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生(これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。)の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額(引率者にあつては全額)

3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあっては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあっては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。
（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額

2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（博物館資料の特別利用）

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（昭和63年3月25日教育委員会規則第9号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成4年7月28日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年3月31日教育委員会規則第15号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年3月29日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年8月20日教育委員会規則第20号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月26日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年3月24日教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 （ 観 覧 者 の 区 分 ） （ 金 額 ） 福 島 県 立 博 物 館	観 覧 券 （ 観 覧 者 の 区 分 ） （ 金 額 ） 福 島 県 立 博 物 館
--	--

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

福島県立博物館長

申請者 住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名

観覧料免除申請書

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時 分	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免 除 率	免 除 金 額	免 除 の 根 拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり承認してよろしい。				第 年 月 日
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号
年 月 日

様

福島県立博物館長

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時 分	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
注 意 事 項				
観覧料	免 除 率	免 除 金 額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

申請者 住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名

観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年 月 日			
既納観覧料の 区分及び金額	区 分	人 数	金 額	
		人	円	
	合 計			
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返 還 率	返 還 金 額	返 還 の 根 拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり返還してよろしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	
受 付 月 日	・ ・	決 裁 月 日	・ ・	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号)

(目的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の收受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(主任主査その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附則（平成6年3月15日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附則（平成13年3月27日教育委員会規則第6号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則 (平成14年3月29日教育委員会規則第18号)

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

(昭和61年3月25日 福島県規則第11号)

福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号)第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料(以下「資料」という。)の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(組織等)

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

- 2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長(以下「館長」という。)が委嘱する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
- 4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会 議)

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

- 2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。
- 3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

(展示計画作成委員)

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員(以下「展示委員」という。)を選任する。

2 展示委員は次の任務を遂行する。

- (1) 展示計画原案の作成
- (2) 展示計画作成のための基礎的資料の収集
- (3) 展示計画作成に関する専門的指導

(任 期)

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶 務)

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研究会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業

5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
 - ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
 - ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
 - ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
 - 3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

会 長	1名
副 会 長	若干名
幹 事 長	1名
幹 事	若干名 (各サークルの代表者は、本会の幹事となる。)
監 事	2名

- 2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

- 2 補欠のため任ぜられた役員は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 幹事長は、本会の会務並びに実務を主となって処理する。
- 4 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

- 2 役員会は、必要のつど会長が招集する。
- 3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。
- 4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2末日に終わるを原則とする。

- 2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

- 2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)
- 3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)
- 4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)
- 5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)
- 6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)
- 7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)
- 8 この規約は、平成27年3月26日から施行する。(第6条、第8条第3項・4項関係)
- 9 この規約は、平成28年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)

V 施設の概要

1. 建築概要

設計者	(株)佐藤武夫設計事務所
工事監理	福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所
施工者	建築本体工事 福島県立博物館（本体）工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株)
共同企業体	電気設備工事 福島県立博物館建設（電気設備）工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設（空気調和設備）工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株)共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設（火災報知その他設備）工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設（給排水衛生設備）工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設（昇降機設備）工事 ダイコー(株)
面積	敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1階 9,980.45㎡ 2階 1,090.99㎡
建築事業費	6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739
規模	地上2階
最高の高さ	20.6m
最高の軒高	13.6m
地域地区	住居地域 風致地区第1種

構造	主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭
外部仕上げ	屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャストコンクリート板
内部仕上げ	建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ (エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40㎜ 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ (総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12㎜ 天井 アルミ特殊ルーバー天井 (講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ (第1・3・6収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12㎜ 壁 杉板厚12㎜ ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12㎜ 本実張 (第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第4収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12㎜ 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板
工期	着工 昭和59年 7月 7日 完成 昭和61年 3月25日

施設の概要

2. 設備

電気設備

1. 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz
変圧器容量 (業務用) 1575KVA
(冬季用) 400KVA
2. 非常用電源 発電機 3相3線式6.6KV 50Hz
400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ
AH-P E200AH86セル
3. その他 電話設備、インターホン設備、TV共同視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放送設備、ITV監視設備
4. 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデッキ、音響総合ラック

空調設備

1. 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファンコイル ユニット方式
2. 熱源設備 ガス直焚冷温水発生器 (150RT) × 2
ガス焚鉄セクショナルボイラー (396.00Kcal/H) 水冷式チーリングユニット (120RT)

衛生設備

1. 給水 市水道 受水槽：50㎡

2. 消火設備 (屋内) スプリンクラーとハロン消火設備の併用、(屋外) 野外消火栓

昇降機設備

油圧式エレベーター 定格荷重：3t1基
油圧式リフト 定格荷重：2t1基

融雪設備

ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組み合わせにより自動運転または手動運転。

監視設備

分散形総合監理制御システムにより、受電設備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う。

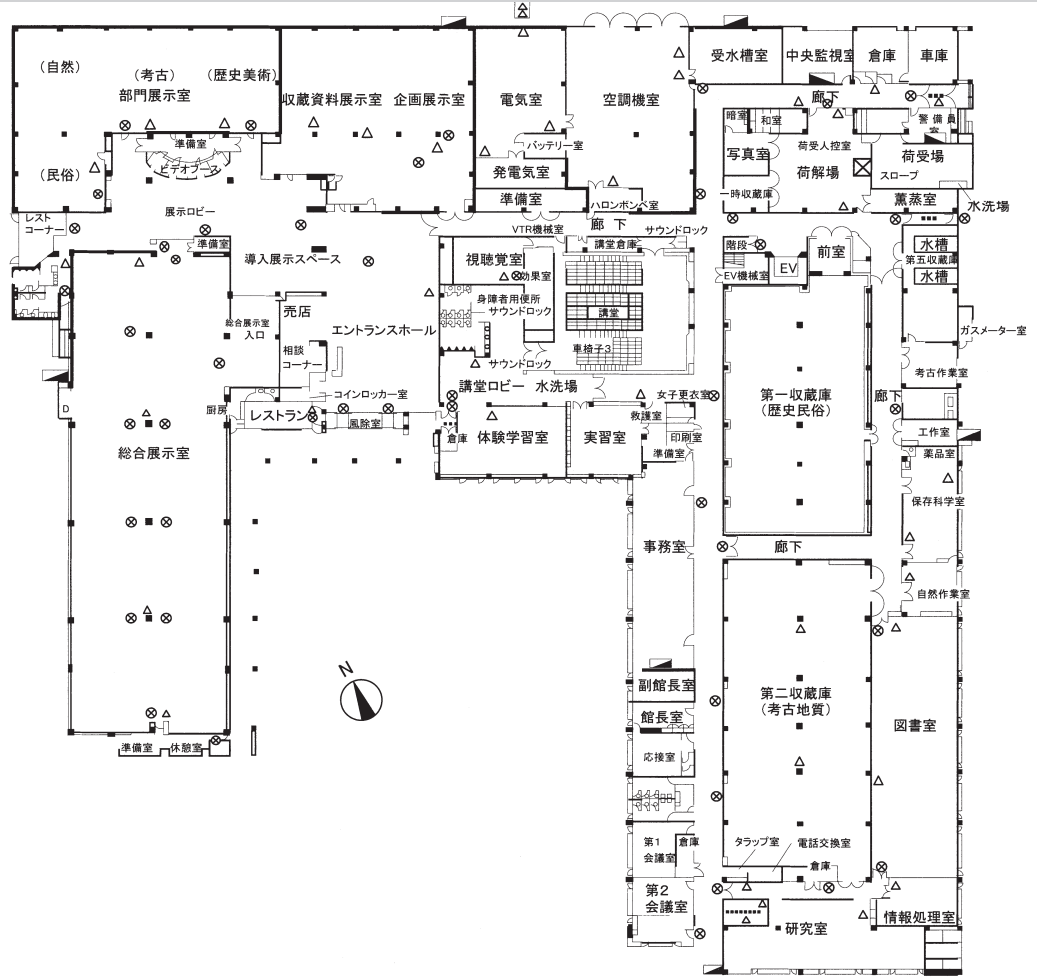
電話設備

火災報知設備

電子交換外線3回線 内線64回線
受信盤P型1級 60回線(自火報) 33回線 (防排煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、排煙区画8系統、平面地図盤 (照光式) により表示

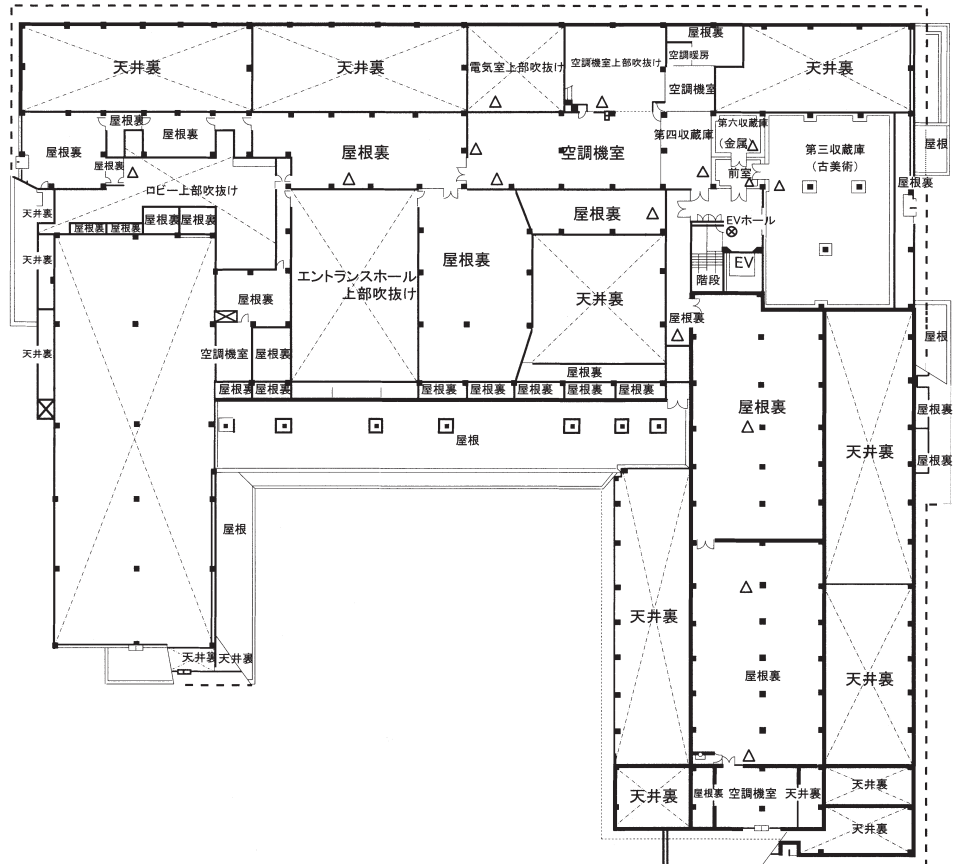
3. 平面図・各室一覧

1階平面図



施設の概要

2階平面図



各室面積表

室名	面積 (㎡)	備考	室名	面積 (㎡)	備考
収蔵スペース	2,294.8 (㎡)		応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
工作室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫 A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫 B	43.6	収集用 (1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース	788.3 (㎡)		機械スペース	1,253.1 (㎡)	
研究室	238.4		空調機室 1 F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室 2 F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
情報処理室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース	2,815.1 (㎡)		ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース	2,507.54 (㎡)	
教育普及スペース	693.1 (㎡)		エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース	719.5 (㎡)		その他	1,202.64	
事務室	166.1		計	11,071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子駐 車場 2 台分）（～9.3.19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13.1.9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11. 20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16.1.8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12.17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.3.18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10.4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～3.17） スプリンクラーヘッド交換工事（～3.17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～3.23）
平成19年 2月 1日	1階床張替え補修工事（～3.23）
平成19年 2月21日	ウォシュレット取付け工事（～3.19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～3.24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換 2回（～12.25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22.2.26）
2月17日	企画展示室改修工事（～3.29）
11月16日	中央監視システム更新工事（～23.4.25）
11月26日	空調熱源機器改修工事（～23.4.22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～4.25）
平成27年 9月 1日	冷房暖房設備改修工事（～11.24）
平成27年 9月 2日	シャッター撤去・新設工事（～10.15）
平成28年 9月13日	冷却塔外改修工事（～29.3.10）

5. 沿革

《開館にいたるまで》

昭和52年	5月13日	文化を考える県民会議の設置
	6～8月	文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年	1月24日	文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
	7月26日	第1回文化振興会議開催
昭和54年	2月2日	文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
	3月19日	文化施設等整備基金条例制定
	4月1日	福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
	2月24日	福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年	4月1日	福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年	1月26日	県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
	2月3日	県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年	2月18日	県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年	7月30日	建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所） 展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年	6月8日	建設工事契約（株清水建設仙台支店・株会津土建・株秋山建設による共同企業体）
	7月7日	県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
	7月10日	展示工事委託契約（株トータルメディア開発研究所・株乃村工藝社・株丹青社による共同企業体）
	7月13日	展示工事着工（～61.9.10）
昭和61年	3月25日	県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
	3月31日	県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
	4月1日	県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
	10月1日	展示解説員19名採用
	10月18日	県立博物館開館

《開館してから》

昭和61年	11月28日	登録博物館の指定（第10号）
昭和63年	8月21日	入館者50万人達成
平成元年	3月10日	友の会設立
平成2年	10月7日	入館者100万人達成
平成4年	3月31日	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成5年	4月1日	展示解説員22名となる
平成7年	5月5日	入館者200万人達成
平成8年	10月5日	開館10周年記念式典を催す
平成12年	10月15日	入館者300万人達成
平成13年	1月25日	博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年	3月25日	博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定

- 平成15年 3月24日 博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
- 3月28日 高橋富雄館長 「金曜講座」第393回目開催
- 3月31日 高橋富雄館長退任
- 4月 1日 赤坂憲雄が県立博物館長に就任
前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
- 平成16年 4月 8日 赤坂憲雄館長・学芸員 「木曜の広場」第1回開催
- 平成17年 5月 6日 入館者350万人達成
- 平成18年 9月29日 博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
- 平成19年 7月 福島県立博物館の使命を策定し公表
- 平成19年 7月21日 当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹 一列島の文化 北から南から」を開催
- 平成20年 7月19日 磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
- 平成22年 6月26日 県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶーふくしまの森林文化ー」を開催
- 平成23年 3月11日 宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館
- 平成24年 5月15日 「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。8月～11月にかけて、東京電力福島第1原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
- 平成25年 5月17日 2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催
- 11月27日 「博物館ニュース」創刊から400号達成
- 平成27年 5月 2日 福島県立博物館と福島県立美術館が美術館移動展示「ふるさと会津の人と四季ー福島県立美術館名品展ー」を共催
- 平成28年10月15日 博物館開館30周年記念式典を開催
開館30周年記念特集展「収蔵庫からこんにちは」を開催

VI 利用案内

●開館時間

午前 9 時30分～午後 5 時（最終入館は午後 4 時30分まで）

●休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内メンテナンスのために臨時に休館することがあります。

●観覧料

- ◎常設展 一般・大学生270円（団体20人以上の料金210円） 高校生以下は無料
 - ★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は申請により減免措置を受けることができます。
 - ★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は無料。
- ◎企画展 そのつど定めます。
- ◎身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料
また1種（精神障害者保健福祉手帳にあっては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名は無料
- ◎展示室以外の入館は無料

●常設展無料開放日

5月5日（子供の日）／8月21日（県民の日）／9月19日（敬老の日）／11月3日（文化の日）

●企画展無料開放日（高校生以下のみ）

11月1日～11月7日（ふくしま教育週間）

●交通案内



◎会津若松駅より約 3 km

◎市内バス利用の場合

- ①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分
- ②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分

●体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

●講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第31号

平成29年11月10日 印刷

平成29年11月10日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

T E L (0242) 28-6000

F A X (0242) 28-5986

<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

印 刷 北斗印刷株式会社

〒965-0052 会津若松市町北町大字始字深町67-2

T E L (0242) 32-2366

この年報の本文は再生紙を使用しています。





福島県立博物館